

勅令第四百八十九號(官報八月十三日)

第一條 神宮ニ左ノ職員ヲ置キ神宮事務ノ事ヲ掌ラシム

衛士長 一人

衛士副長 二人

衛士 三十八

第二條 衛士長ハ宮司ノ命ヲ承ケ部下ノ職員ヲ監督シ警衛事務ヲ掌理ス

第三條 衛士副長ハ衛士長ヲ佐ケ衛士長故障アルトキハ上席ノ衛士副長共ノ職務ヲ代理ス

第四條 衛士ハ上官ノ指揮ヲ承ケ警衛ニ従事ス

第五條 衛士長衛士副長及衛士ハ判任官ノ待遇トス

第六條 衛士長衛士副長及衛士ノ俸給、服制共ノ他服務ニ關スル細則ハ内務大臣之ヲ定ム

第七條 明治二十七年勅令第五號ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

〔參照〕

明治二十七年一月十五日勅令第五號ハ神宮衛士長及衛士ニ關スル件ナリ

朕臺灣總督府文官特別任用令及明治二十九年勅令第二百二十九號廢止ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十一年八月十三日

内閣總理大臣伯爵大隈重信
内務大臣伯爵板垣退助

勅令第四百九十號(官報八月十五日)

明治二十九年勅令第三百三號臺灣總督府文官特別任用令及同年勅令第二百二十九號ヲ廢止ス

〔參照〕

勅令第二百二十九號(明治二十九年五月二十三日官報)

他官職ノ判任官臺灣總督府ノ判任文官ニ再任又ハ轉任スル場合ニ於テハ當分ノ内判任官俸給令第三條ノ規程ニ拘ラス前官ノ俸給ニ對シ一級ヲ増給スルコトヲ得但シ一級ヲ増給スルモ尙六級俸ニ達セサルモノハ前官ノ俸給ニ對シ二級ヲ増給スルコトヲ得

臺灣總督府條例施行前ヨリ同總督府ニ雇員タリシ者同條例施行後同總督府判任文官ニ任用セララルトキハ其ノ雇員トシテ變ケタル俸給額以內ヲ給スルコトヲ得

朕内閣總理大臣秘書官及各省大臣秘書官任用ニ關スル明治二十八年勅令第二百二十四號中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十一年八月十三日

内閣總理大臣伯爵大隈重信

勅令第四百九十一號(官報八月十五日)

明治二十八年勅令第二百二十四號中「及各省大臣秘書官」ヲ「各省大臣秘書官及臺灣總督府秘書官」ニ改

〔參照〕

勅令第二百二十四號(明治二十八年九月二十一日官報)

内閣總理大臣秘書官及各省秘書官ハ文官任用令ノ規程ニ拘ラス之ヲ任用スルコトヲ得

朕臺灣總督府警部長其ノ他職員任用ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十一年八月十三日

内閣總理大臣伯爵大隈重信
内務大臣伯爵板垣退助

勅令第百九十二號(官報 八月十五日)

左ニ掲ケル臺灣總督府職員ハ五箇年以上官務ニ從事シ現ニ判任官三級俸以上ノ官職ニ在ル者ニ限リ試験ヲ要セス文官高等試験委員ノ銜ヲ經テ任用スルコトヲ得

警部長

辨務署長

稅務官

典獄

一等郵便電信局長

朕臺灣總督府判任職員任用ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十一年八月十三日

内閣總理大臣伯爵大隈重信
内務大臣伯爵板垣退助

勅令第百九十三號(官報 八月十五日)

臺灣總督府判任職員ハ屬ヲ除クノ外當分ノ内文官任用令ノ規程ニ拘ラス之ヲ任用スルコトヲ得

朕明治二十八年勅令第七十八號中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十一年八月十六日

農商務大臣大石正己
大藏大臣松田正久

勅令第百九十四號(官報 八月十七日)

水産調査會ノ會長、委員、臨時委員旅費支給ニ關スル明治二十八年勅令第七十八號中水産調査會ノ下ニ及鹽業調査會ヲ加フ

朕明治三十一年二月二十二日東京ニ於テ朕カ全權委員ト佛蘭西共和國全權委員ノ記名調印シタル價格無表記小包郵便物交換條約ヲ批准シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十一年八月十七日(官報 八月十八日)

内閣總理大臣伯爵大隈重信
兼外務大臣 林有造

日本及佛蘭西間價格無表記小包郵便物交換條約

日本國皇帝陛下及佛蘭西共和國大統領ハ千八百九十一年七月四日締結維也納條約ニ準據シ日本國

佛蘭西國トノ間ニ價格無表記小包郵便物ノ交換ヲ施設セムト欲シ條約締結ノ事ヲ決定シ各其ノ全權委員トシテ左ノ者ヲ任命セリ

日本國皇帝陛下ハ其ノ外務大臣正三位勳一等男爵西德二郎及佛蘭西共和國大統領ハ日本帝國駐
節代理公使シユバリエ、ド、ラ、レ、チ、ヨ、ン、ド、モ、ル、伯爵ド、プ、ル、メ、レ、イ、ゴ、ル、ジ、エ、ー、
右全權委員ハ雙方互ニ其ノ委任狀ヲ示シ良好妥當ナルヲ認メ茲ニ協議決定セシ條款左ノ如シ

第一條

第一項 日本ヨリ佛蘭西及亞爾是利ヘ竝ニ佛蘭西及亞爾是利ヨリ日本ヘ重量五キログラム以下
ニシテ價格ヲ表記セサル小包ヲ小包郵便物ト稱シ之ヲ發送スルコトヲ得

第二項 兩國郵政廳ハ其ノ規則上支障ナキトキハ價格表記若ハ代金引換渡小包郵便物ニ適用スヘ
キ條款及郵便料金ヲ他日合議決定スルノ權利ヲ有スルモノトス

第二條

日本及佛蘭西郵政廳ハ助成金ヲ下付スル郵便船ヲ以テ兩國間ニ於ケル小包郵便物ノ海運ヲ擔當ス
ヘシ

第三條

小包郵便物ノ料金ハ前納セサルヘカラス

第四條

日本發佛蘭西及亞爾是利宛若ハ佛蘭西及亞爾是利發日本宛小包郵便物一箇ノ郵便料ハ左ノ如シ

甲 佛蘭西陸路遞送料

乙 日本陸路遞送料

丙 海路遞送料

合計

五十七「サンチーム」

五十七「サンチーム」

三「フランク」

四「フランク」

第五條

第一項 佛蘭西本國ト亞爾是利及古爾西トノ間ニ於ケル小包郵便物ノ遞送ニ付テハ一箇ニ付更ニ
海路遞送料トシテ二十五「サンチーム」ノ増郵便料ヲ課シ差出人ヨリ之ヲ徵收スヘシ

亞爾是利及古爾西ノ内地ヨリ發シ又ハ其ノ内地ヘ宛タル小包郵便物ハ尙一箇ニ付二十五「サン
チーム」ノ増郵便料ヲ徵收ス此ノ増郵便料ハ前節同様差出人ノ負擔ニ屬スヘキモノトス

第二項

日本遞信省ハ日本ト佛蘭西及亞爾是利トノ間ニ交換スル小包郵便物一箇ニ付陸路遞送料
トシテ五十「サンチーム」迄ノ増郵便料ヲ課シ差出人ヨリ徵收スルコトヲ得此ノ増郵便料ハ場合
ニ依リ佛蘭西郵政廳ヨリ日本遞信省ヘ支拂フヘシ

第三項

佛蘭西政府ハ日本及佛蘭西本國間ニ交換スル小包郵便物ニ對シ二十五「サンチーム」ノ増
郵便料ヲ徵收スルコトヲ得

第六條

小包郵便物ノ差出人ハ二十五「サンチーム」以内ノ手数料ヲ前納セハ其ノ到達證ヲ受領スルコトヲ
得此ノ手数料ハ全部差出國郵政廳ノ所得ニ屬スルモノトス

第七條

名宛國ハ小包郵便物ノ配達料及稅關ニ於ケル諸手續執行料トシテ一箇ニ付合計二十五「サンチー
ム」以内ノ手数料ヲ受取人ヨリ徵收スルコトヲ得

第八條

本條約ヲ適用スヘキ小包郵便物ニハ第四條第五條第六條第七條及第九條ニ規定スル郵便料及手
數料ヲ除キ其ノ他ハ何等ノ料金ヲモ課收スルコトヲ得ス

第九條

受取人ノ住所移轉ニ依リ兩國中ノ一方ヨリ他ノ一方ヘ小包郵便物ヲ再發スルトキ竝ニ配達シ難キ小包郵便物ヲ返還スルトキハ第四條第五條及第七條ニ定ムル郵便料及手数料ヲ更ニ受取人又ハ場合ニ依リ差出人ヨリ徵收ス但シ差出國ヘ小包郵便物ヲ再發スヘキトキハ其ノ關稅ヲ取消スヘシ

第十條

信書若ハ通信文ノ性質ヲ具フル書類又ハ稅關若ハ其ノ他ニ關スル法律規則ニ依リ遞送ヲ許ササル物品ヲ包有スル小包郵便ニ依リ之ヲ發送スルヲ禁ス

第十一條

第一項 不可抗力ノ場合ヲ除ク外小包郵便物亡失、損傷シ又ハ奪掠セラレタルトキハ差出人又ハ差出人不在ナルトキ若ハ差出人ノ請求アルトキ受取人ハ其ノ亡失、損傷又ハ奪掠ヨリ生スル損失ノ實額ニ相當スル賠償ヲ請求スルコトヲ得但シ其ノ賠償額ハ小包郵便物ノ重量ニ一キログラム内外ノ區別ニ隨ヒ十五「フランク」若ハ二十五「フランク」ヲ超過スルコトヲ得ス又亡失小包郵便物ノ差出人ハ尙其ノ發送費ノ返還ヲ受ルコトヲ得

第二項 賠償金支拂ノ義務ハ差出國ヲ管理スル郵政廳ニ屬スルモノトス但シ該郵政廳ハ關係郵政廳ノ邦國內若ハ其ノ管掌中ニ於テ亡失、損傷シ又ハ奪掠セラレタルトキハ關係郵政廳ニ對シ要償ヲ爲スコトヲ得

第三項 小包郵便物ヲ異議ナク受領シタル後之ヲ受取人ニ配達シ又ハ再發シタル旨ヲ證明スル能ハサル郵政廳ハ反對ヲ證明スル迄ハ責任ヲ有スルモノトス

第四項 差出國郵政廳ハ成ルヘク速ニ賠償金ヲ支拂フヘシ遲クモ賠償請求ノ日ヨリ起算シ一箇年ヲ超過スヘカラス又賠償ノ責アル郵政廳ハ差出國郵政廳ヘ速ニ賠償金額ヲ償還スヘシ

第五項 賠償ノ請求ハ小包郵便局ニ差出シタル日ヨリ起算シ一箇年以内ニ限り之ヲ受理ス此ノ期限經過ノ後ハ請求人賠償ヲ受クルノ權利ヲ失フモノトス

第六項 兩國交換局ノ間ニ小包郵便物遞送中亡失、損傷シ又ハ奪掠セラレ其ノ事實孰レノ管掌中ニ於テ發生セシヤヲ確定シ難キ場合ニ於テハ兩國郵政廳各其ノ償金ノ半額ヲ負擔スヘシ

第七項 郵政廳ハ權利者ニ於テ小包郵便物ヲ受領セシ後ハ其ノ責ヲ免ルモノトス

第十二條

各郵政廳ハ小包郵便物ノ交換業務ヲ停止スルヲ以テ相當ナリト認ムル非常ノ場合ニ於テハ一時其ノ全部又ハ一部ヲ停止スルコトヲ得但シ此ノ場合ニ於テハ速ニ他ノ郵政廳ヘ報知スヘシ至急ヲ要スルトキハ電報ヲ以テスヘシ

第十三條

本條約中明文ナキ事項ニ付テハ締盟兩國内地ノ法令ヲ適用スルモノトス

第十四條

締盟兩國郵政廳ハ外國小包郵便ヲ取扱フ郵便局又ハ其ノ地方ヲ指示シ竝ニ該小包遞送ニ關スル方法ヲ規定シ其ノ他本條約ノ實施ヲ確實ニスル爲ニ要用ナル詳細ノ手續ヲ制定スヘシ

第十五條

日本遞信省及佛蘭西郵政廳ハ千八百九十一年七月四日締結維也納條約ニ準據シ日本及佛蘭西ノ兩國中共ノ一方トノ交換ノ爲ニ他ノ一方ノ媒介權越ニ係ル外國發著ノ小包郵便物ヲ各自ノ交換局間ニ交換スル方法ヲ協議決定スヘシ

第十六條

佛蘭西政府ハ鐵道會社及海運會社ヲシテ本條約ノ條款ヲ施行セシムルコトヲ得又此ノ事務ハ此レ等ノ會社ニ於テ關係ヲ有スル地方ニ發著スル小包郵便物ニ限ルコトヲ得
佛蘭西郵政廳ハ鐵道會社及海運會社ヲシテ本條約ノ條款ヲ確實ニ施行セシムル爲メ且交換事務ヲ整理セシムル爲メ該會社ト協議約束スヘシ

佛蘭西郵政廳ハ日本逓信省ト鐵道會社及海運會社トノ關係ニ付テハ之カ媒介者タルヘシ

第十七條

本條約ハ批准交換ヲ終リタル後兩國郵政廳ニ於テ協議決定スヘキ日ヨリ之ヲ實施スヘシ
本條約ハ左ノ場合ニ於テ其ノ效力ヲ失フモノトス

- 甲 締盟兩國ノ一方カ他ノ一方ニ一箇年前ニ解約ノ意思ヲ通知シタルトキ
- 乙 日本帝國政府カ萬國小包郵便物交換條約ニ加盟シタルトキ

第十八條

本條約ハ批准ヲ受クヘキモノトス批准書ハ成ルヘク速ニ巴里ニ於テ交換スヘシ
右證據トシテ兩國ノ全權委員茲ニ記名調印スルモノナリ

明治三十一年二月二十二日東京ニ於テ調製ス

西 德 二 郎
プールトレー、ゴルジエー

天佑ヲ保有シ萬世一系ノ帝祚ヲ躋ミタル日本國皇帝(御名)此書ヲ見ル有衆ニ宣示ス
朕帝國ト佛蘭西共和國トノ間ニ於ケル交通ノ利便ヲ企圖シ明治三十一年二月二十二日東京ニ於テ
兩國全權委員ノ記名調印シタル價格無表記小包郵便物交換條約ノ各條目ヲ親シク閱覽點檢シタル
ニ當リ朕カ意ニ適シ間然スル所ナキヲ以テ右條約ヲ嘉納批准ス
神武天皇即位紀元二千五百五十八年明治三十一年四月十九日東京宮城ニ於テ親カラ名ヲ署シ璽ヲ
鈐セシム

御名 國璽

外務大臣男爵西德二郎印

朕海軍兵學校條例中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

海軍大臣侯爵西鄉從道

明治三十一年八月十九日

勅令第百九十五號(官報八月二十日)

海軍兵學校條例中左ノ通改正ス

第十五條 生徒ハ年齡滿十六年以上滿二十年以下ニシテ海軍將校タラントヲ志願スル者ニ就キ
検査ヲ行ヒ所要ノ人員ヲ採用ス

第二十二條 生徒左ノ諸項ノ一ニ該ルトキハ之ヲ退校セシム

- 一 將校タルヘキ器量ニ乏キ者
- 二 品行不良或ハ怠惰ニシテ剛戒ヲ加フルモ改悛セサル者
- 三 試験ノ成績不良ニシテ卒業ノ目的ナキ者
- 四 傷病ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ先途役務ニ堪ヘ難シト認ムル者

(參照)

勅令第三百二十七號海軍兵學校條例(明治三十年九月二十四日官報)抄錄
第十五條 生徒ハ年齡滿十六年以上滿二十年以下ニシテ海軍將校タラントヲ志願スル者ニ就キ身體検査及學術試験ヲ行
ヒ合格シタル者ヨリ其ノ成績順序ニ從ヒ所要ノ人員ヲ採用ス
第二十二條 生徒左ノ諸項ノ一ニ該ルトキハ之ヲ退校セシム
一 品行不良或ハ怠惰ニシテ剛戒ヲ加フルモ改悛セサル者
二 試験ノ成績不良ニシテ卒業ノ目的ナキ者
三 傷病ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ先途役務ニ堪ヘ難シト認ムル者

朕海軍機關學校條例中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十一年八月十九日

海軍大臣 侯爵西郷從道

勅令第九十六號(官報八月二十日)

海軍機關學校條例中左ノ通改正ス

第十五條 生徒ハ年齢滿十六年以上滿二十一年以下ニシテ海軍機關官タラシコトヲ志願スル者ニ就キ検査ヲ行ヒ所要ノ人員ヲ採用ス

第二十二條 生徒左ノ諸項ノ一ニ該ルトキハ之ヲ退校セシム

- 一 海軍機關官タルヘキ器量ニ乏キ者
- 二 品行不真或ハ怠惰ニシテ訓戒ヲ加フルモ改悛セサル者
- 三 試験ノ成績不真ニシテ卒業ノ目的ナキ者
- 四 傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ先途役務ニ堪ヘ難シト認ムル者

〔参照〕

勅令第三百二十三號海軍機關學校條例(明治三十年九月二十四日官報)抄録
 第十五條 生徒ハ年齢滿十六年以上滿二十一年以下ニシテ海軍機關官タラシコトヲ志願スル者ニ就キ身體検査及學術試験ヲ行ヒ合格シタル者ヨリ其ノ成績順序ニ從ヒ所要ノ人員ヲ採用ス
 第二十二條 生徒ハ左ノ諸項ノ一ニ該ルトキハ之ヲ退校セシム
 一 品行不真或ハ怠惰ニシテ訓戒ヲ加フルモ改悛セサル者
 二 試験ノ成績不真ニシテ卒業ノ目的ナキ者
 三 傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ先途役務ニ堪ヘ難シト認ムル者

朕明治二十二年勅令第二百二十一號中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十一年八月二十五日

内閣總理大臣 伯爵大隈重信
 內務大臣 伯爵板垣退助
 農商務大臣 大石正己
 大藏大臣 松田正久

勅令第九十七號(官報八月二十六日)

明治二十二年勅令第二百二十一號中左ノ通改正ス

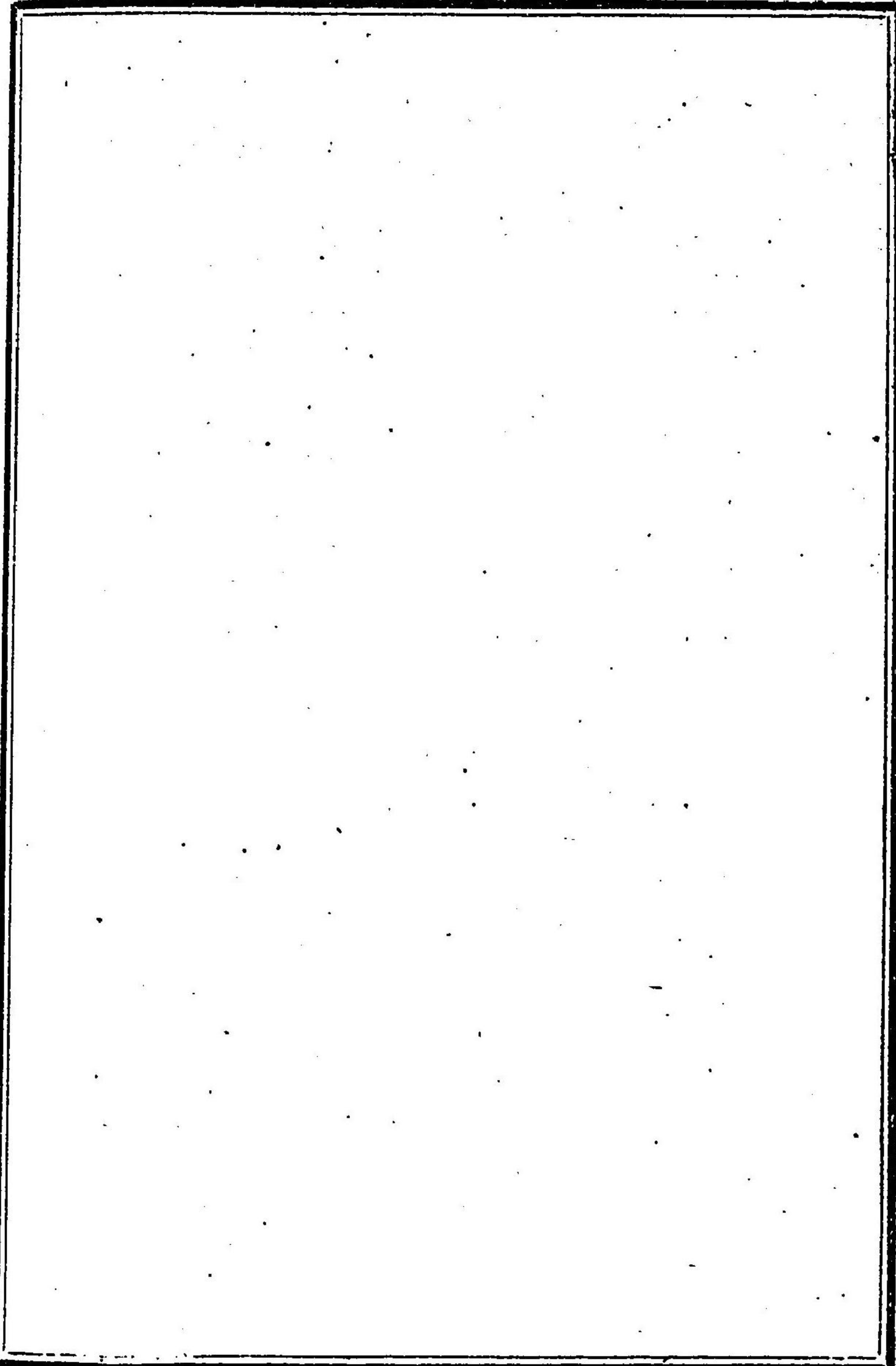
第三條 府縣稅又ハ地方稅ノ補助トシテ國庫ヨリ支出スル府縣警察費連帶支辨金、府縣傳染病豫防費、醫種検査費、國庫補助金及北海道沖繩縣ニ於ケル區町村間切傳染病豫防費、國庫補助金ハ豫算ニ依リ概算渡ヲ爲スコトヲ得

〔参照〕

勅令第二百二十一號(明治二十二年十一月二十一日官報)抄録
 第三條 地方稅ノ補助トシテ國庫ヨリ支出スル府縣警察費連帶支辨金ハ豫算ニ依リ概算渡ヲ爲スコトヲ得

朕明治三十一年勅令第二百二十九號中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽



朕臨時臺灣土地調查局官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十一年八月三十一日

内閣總理大臣伯爵大隈重信
内務大臣伯爵板垣退助

勅令第二百一號(官報九月一月)

臨時臺灣土地調查局官制

第一條 臨時臺灣土地調查局ハ臺灣總督ノ管理ニ屬シ地籍調査及土地彙帳並地籍圖製ニ關スル事務ヲ掌理ス

第二條 臨時臺灣土地調查局ニ左ノ職員ヲ置ク

局長

事務官

技師

屬

技手

第三條 局長ハ一人臺灣總督府民政長官ヲ以テ之ニ充ツ臺灣總督ノ指揮監督ヲ承ケ局中一切ノ事務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ監督ス

局長ハ委任官ノ進退ハ之ヲ臺灣總督ニ具狀シ判任官以下ノ進退ハ之ヲ專行ス

第四條 事務官ハ專任二人委任トス上官ノ命ヲ承ケ局中ノ庶務ヲ分掌ス

- 第五條 技師ハ專任二人委任トス上官ノ命ヲ承ケ技術ニ關スル事務ヲ分掌ス
- 第六條 屬ハ專任五十人判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス
- 第七條 技師ハ專任四十人判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ技術ニ従事ス
- 第八條 臺灣總督ハ必要ニ應ジ地方ニ支局ヲ置キ局中ノ事務ヲ分掌セシムルコトヲ得
- 第九條 支局長ハ其ノ局所在地縣廳ノ高等官ヲ以テ之ニ充ツ
- 第十條 支局長ハ局長ノ指揮ヲ承ケ局務ヲ掌理ス
- 第十一條 支局ニ局員ヲ置ク縣廳又ハ辨務署ノ吏員ヲ以テ之ニ充ツ
- 支局局長ハ支局長ノ指揮ヲ承ケ局務ニ従事ス

附則

第十一條 本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

朕臨時臺灣土地調查局職員官等俸給令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十一年八月三十一日

内閣總理大臣伯爵大隈重信
内務大臣伯爵板垣退助

勅令第二百一號(官報九月一日)

臨時臺灣土地調查局職員官等俸給令

臨時臺灣土地調查局事務官及技師ノ官等ハ高等官ニ等以下八等以上トシ其ノ俸給ハ臺灣總督府職

員官等俸給令中第一號俸給表ニ判任官ノ俸給ハ判任官俸給表ニ事務官ノ官等相當俸給ハ高等文官官等相當俸給表ニ依ル

朕臨時臺灣土地調查局職員任用ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十一年八月三十一日

内閣總理大臣伯爵大隈重信
内務大臣伯爵板垣退助

勅令第二百三號(官報九月一日)

臨時臺灣土地調查局職員ハ當分ノ内文官任用令ノ規程ニ拘ラス之ヲ任用スルコトヲ得

朕臨時海軍建築部官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十一年八月三十一日

海軍大臣侯爵西鄉從道

勅令第二百四號(官報九月一日)

臨時海軍建築部官制中左ノ通改正ス

別表ヲ左ノ如ク改ム

支 部 員	海軍主計大監者ハ主計中少監 海軍大主計 海軍造船大監者ハ造船中少監 海軍造船大技士 海軍造船中少監者ハ造船大技士	海軍二等看護
工 務 員	技師	
考 備	一 部員ト支部員ノ定員ハ各官ニ對スル所定ノ定員總計ヲ超過セサル限リ彼是共 通スルコトヲ得 二 臨時海軍造船部及其ノ支部ノ工務員及判任文官ノ定員ハ各官ニ對スル所定ノ 定員總計ヲ超過セサル限リ彼是増減スルコトヲ得 三 本表定員ノ外必要ニ應ジ本職アル者ヲ以テ兼務セシムルコトヲ得	
合計八十二人		

朕銀行條例貯蓄銀行條例及銀行合併法ヲ臺灣ニ施行スルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽
明治三十一年九月一日
内閣總理大臣伯爵大隈重信
大藏大臣 松田正久

勅令第二百五號(官報九月二日)
明治二十二年法律第七十二號銀行條例同年法律第七十三號貯蓄銀行條例明治二十九年法律第八十
五號銀行合併法ヲ臺灣ニ施行ス

朕船舶司檢所職員ニ在清國帝國領事館附ヲ命スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十一年九月二日

内閣總理大臣伯爵大隈重信
遞信大臣 林 有造

勅令第二百六號(官報九月三日)
遞信大臣ノ事務ノ必要ニ由リ船舶司檢所職員ニ在清國帝國領事館附ヲ命スルコトヲ得

御名 御璽

明治三十一年九月七日

陸軍大臣子爵桂 太郎

勅令第二百七號(官報九月八日)
陸軍補充條例中左ノ通改正ス

- 第十一條中直ニ退營セシムヲ其ノ服役ヲ免スニ改ム
- 第四十條中三等獸醫ヲ獸醫部士官ニ改ム
- 第四十一條 見習獸醫官ニ採用シ得ヘキ者ハ左ノ如シ
 - 一 帝國大學農科大學獸醫學科學生ニシテ陸軍出身志願者中適當ノ者ヲ選抜シテ陸軍獸醫部依
託學生ト爲シ同學科ノ課程ヲ卒ヘタル者
 - 二 帝國大學農科大學獸醫學科生徒ニシテ陸軍出身志願者中適當ノ者ヲ選抜シテ陸軍獸醫部依
託生徒ト爲シ同學科ノ課程ヲ卒ヘタル者
- 第四十二條中二箇月ヲ四箇月ニ改ム
- 第四十五條 見習獸醫官士官ノ勤務ヲ習得シ終レハ獸醫部長ハ先ツ該隊高級獸醫ヨリ本人ノ學術

朕明治三十年十二月五日埃地利國維也納ニ於テ朕カ全權委員ト埃地利洪牙利國全權委員ノ記名關
印シタル通商航海條約ヲ批准シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十一年九月九日(宣報九月十日)

内閣總理大臣兼
外務大臣 伯爵大隈重信

通商航海條約

日本國皇帝陛下及埃地利國ホヘミヤ國洪牙利國皇帝陛下ハ兩國臣民ノ交際ヲ皇張増進シ以テ幸ニ
兩國間ニ存在スル所ノ厚誼ヲ維持セムコトヲ欲シ而シテ此ノ目的ヲ達セムニハ從來兩國間ニ存在
スル所ノ條約ヲ改正スルニ如カサルヲ確信シ公正ノ主義ト相互ノ利益ヲ基礎トシ其ノ改正ヲ完了
スルコトニ決定シ之カ爲ニ日本國皇帝陛下ハ維也納駐節帝國特命全權公使正四位勳二等高平小五
郎ヲ埃地利國ホヘミヤ國洪牙利國皇帝陛下ハ其ノ「コンセイエー、アンチム、アクチユエル」侍從
宮内大臣兼外務大臣「シニヴアリエー、ド、ロルドル、ド、トワソ、ドール」シニヴアリエー、ド、ブル
ミエール、クラッス、ド、ロルドル、アムベリアル、ド、ラ、グーロンス、ド、フエール「アグノル、ゴルホウス
キー、ド、ゴルホウス」ヲ各共ノ全權委員ニ任命セリ因テ各全權委員ハ互ニ共ノ委任狀ヲ示シ其ノ真
好妥當ナルヲ認メ以テ左ノ通商航海條約ヲ協議決定セリ

第一條

兩締盟國ノ一方ノ臣民ハ他ノ一方ノ版圖内何レノ所ニ到リ、旅行シ或ハ居住スルモ全ク隨志タル
ヘク而シテ其ノ身體及財產ニ對シテハ完全ナル保護ヲ享受スヘシ
該臣民ハ其ノ權利ヲ伸張シ及防護セムカ爲メ自由ニ且容易ニ裁判所ニ訴出ルコトヲ得ヘク又該裁
判所ニ於テ其ノ權利ヲ伸張シ及防護スルニ付内國臣民ト同様ニ代理人、辯護人及代人ヲ選擇シ且

使用スルノ自由ヲ得右ノ外司法取扱ニ關スル各般ノ事項ニ關シテ内國臣民ノ享有スル總テノ權利
及特典ヲ享有スヘシ

住居權、旅行權及各種動産ノ所有權及遺法ニ獲得シ又ハ相續、遺囑或ハ其他ノ方法ニ因テ移轉シ得
ル所ノ各種財產ヲ如何ニ處分スルコトニ關シ兩締盟國ノ一方ノ臣民ハ他ノ一方ノ版圖内ニ在リテ
内國若ハ最惠國民ト同様ノ特典、自由及權利ヲ享有シ且内國若ハ最惠國民ニ課セラルヘキ所ニ異
ナルカ或ハ之ヨリ多額ノ税金若ハ賦課金ヲ徵收セラルコトナカルヘシ兩締盟國ノ一方ノ臣民ハ
他ノ一方ノ版圖内ニ於テ良心ニ關シ完全ナル自由ヲ享有シ法律、勅令及規則ニ從テ公私ノ禮拜ヲ
行フノ權利並ニ其ノ宗教上ノ慣習ニ從ヒ埋葬ノ爲メ設置保存セララル所ノ適當便宜ノ地ニ自國人
ヲ埋葬スルノ權利ヲ享有スヘシ

第二條

何等ノ名義ヲ以テスルモ該臣民ヲシテ内國若ハ最惠國民ノ納ムル所若ハ將來納ムヘキ所ニ異ナル
カ又ハ之ヨリ多額ノ取立金若ハ租稅ヲ納ムルヲ得ス

第三條

兩締盟國ノ一方ノ臣民ニシテ他ノ一方ノ版圖内ニ住居スル者ハ陸軍、海軍、護國軍、民兵等ニ論ナク
總テ強迫兵役ヲ免カレ且其ノ服役ノ代リトシテ取立ル所ノ一切ノ納金ヲ免カレ又一切ノ強募公債
及軍事上ノ賦款或ハ捐資ヲ免カルヘシ
土地又ハ不動産ノ所有ヲ許可セラルル時ニ當リテハ土地又ハ不動産ノ所有ニ附着スル所ノ賦課金
及其ノ所有者、小作人若ハ賃借人トシテ一般ノ内國臣民カ負擔スルコトアルヘキ軍事上ノ賦役及
徵發ハ前項ノ限ニ在ラス

造品及貨物ノ卸賣若ハ小賣營業ニ從事スルヲ得ヘシ右營業ニ從事スルニ於テ自身ニ之ヲ爲シ或ハ代理人ヲ以テシ又ハ一人ニテ之ヲ爲シ或ハ外國人若ハ内國臣民ト組合ヲ結ビテ之ヲ爲スモ隨意タルヘク又家屋、店舗、製造所及倉庫ヲ所有シ或ハ之ヲ借受ケ又ハ使用シ且住居、工業及商業ノ爲ニ土地ヲ借受クルコトヲ得但シ内國臣民同様に其ノ國ノ法律、警察規則及税關規則ヲ遵守スルヲ要ス

該臣民ハ他ノ一方ノ版圖内ノ諸港及諸河ニシテ外國通商ノ爲メ開カレ又ハ開カルヘキ場所ヘ船舶及貨物ヲ以テ自由ニ到ルヲ得且通商、工業及航海ニ關シテハ政府官吏、公吏、一人或ハ會社若ハ何等施設ノ名義ヲ以テシ又ハ其ノ利益ノ爲ニ課セラルル所ノ税金或ハ取立金ハ其ノ性質若ハ名稱ノ如何ヲ論セス内國或ハ最惠國民ノ拂フ所ニ異ナルカ或ハ之ヨリ多額ノモノヲ拂フコトナク内國或ハ最惠國民ト同一ノ取扱ヲ享スヘシ但シ常ニ其ノ國ノ法律、勅令及規則ヲ遵守スヘキモノトス

第四條

兩締盟國ノ一方ノ臣民カ他ノ一方ノ版圖内ニ於テ住居、工業若ハ商業ノ爲ニ供スル家宅製造所、倉庫、店舗及之ニ屬スル總テノ附屬構造物ハ使スヘカラス

右家宅等ヘハ限ニ侵入搜索スヘカラス又帳簿、書類或ハ簿記帳ヲ検査點閱スヘカラス但シ内國或ハ最惠國民ニ對シ法律、勅令及規則ヲ以テ制定セル條件及定式ニ據ルトキハ此ノ限ニ在ラス

第五條

日本國皇帝陛下ノ版圖内ノ生産或ハ製造ニ係ル物品ヲ何レノ地ヨリ埃地利洪牙利帝國内ニ輸入シ又埃地利洪牙利帝國内ノ生産或ハ製造ニ係ル物品ヲ何レノ地ヨリ日本國皇帝陛下ノ版圖内ニ輸入スルニモ總テ別國ノ生産或ハ製造ニ係ル同種ノ物品ニ課スル所ノ税ニ異ナルカ或ハ之ヨリ多額ノ税ヲ課セラルルコトナカルヘシ

又兩締盟國ノ一方ノ版圖内ノ別國ノ生産或ハ製造ニ係ル物品ノ輸入ヲ禁止スルニ非サレハ他ノ一方ノ版圖内ノ生産或ハ製造ニ係ル同種ノ物品ヲ何レノ地ヨリ輸入スルコトヲモ禁止スルコトナカ

ルヘシ但シ此ノ未段ノ取極ハ人身ノ安寧或ニ家畜ノ保護及農業ニ有益ナル植物ノ保護ニ必要ナル衛生上及其ノ他ノ禁止ニハ適用スヘカラサルモノトス

第六條

兩締盟國ノ一方ノ版圖内ヨリ他ノ一方ノ版圖内ヘ輸出スル一切ノ物品ヘハ他ノ各外國ヘ輸出スル同種物品ニ對シ賦課シ若ハ賦課スヘキ所ニ異ナルカ或ハ之ヨリ多額ノ税金又ハ雜費ヲ賦課スルコトナカルヘシ又兩締盟國ノ一方ノ版圖内ニ於テ他ノ各外國ニ向ヒ物品ノ輸出ヲ禁止スルニ非サレハ他ノ一方ノ版圖内ヘ同種ノ物品ヲ輸出スルコトヲモ禁止セサルヘシ

第七條

兩締盟國ノ一方ノ臣民ハ他ノ一方ノ版圖内ニ在リテ總テノ内地通過税ノ免除ヲ享ケ且倉入、獎勵金、便宜及税金拂戻等ノ事項ニ就テハ内國臣民ト均等ノ取扱ヲ享クヘシ

第八條

兩締盟國ノ一方ノ版圖内ニ到ル他ノ一方ノ商人、工業者及注文取集商カ見本トシテ輸入シタル總テノ有税物品ニ對シテハ其ノ國ノ法律ヲ以テ定メタル期限内ニ賣捌カレシメテ再輸出スルコトトナリ而シテ右再輸出ノ爲メ又ハ税關倉庫ヘ送戻ス爲ニ税關手續ヲ履行スルニ於テハ輸出入税ヲ免除スヘシ但シ右見本ノ再輸出ニ付テハ兩締盟國ノ版圖内ニ於ケル最初ノ輸入地ニ於テ其ノ輸入ノ際税金ニ均シキ金額ヲ預ケ入ルルカ又ハ擔保ヲ差入レテ之ヲ保障スヘシ

又見本帖、切り放シタル見本小片及見本ニシテ唯タ見本用ニ適スルニ過キサルモノハ前項掲載以外ノ方法ニ依リ輸入セラルルトキト雖其ノ輸入税ヲ免除スヘシ

第九條

國、市、町、村若ハ團體ノ爲ニスルニ論ナク兩締盟國ノ一方ノ全版圖内又ハ其ノ一部分ニ於テ或物品ノ生産、製造又ハ消費ニ對シ内國税ヲ賦課スルトキハ他ノ一方ノ版圖内ヨリ輸入セラレタル同種

ノ物品ニ對シテモ前記ノ全版圖内又ハ其ノ一部分ニ於テ同一ノ稅ヲ賦課スルコトヲ得ルモ之ヨリ多額又ハ奇重ノ稅ヲ賦課スルコトヲ得ス
同種ノ物品ニシテ前記ノ全版圖内又ハ其ノ一部分ニ於テ生産、製造セラレサルカ若ハ之ニ對シテ課稅セラレサルトキハ何等ノ内國稅ヲモ賦課スルコトヲ得ス

第十條

日本國皇帝陛下ノ版圖内ノ諸港へ日本國ノ船舶ヲ以テ適法ニ輸入シ若ハ輸入セラルヘキ物品ハ亦塊地利國又ハ洪牙利國ノ船舶ヲ以テ同様ニ之ヲ右諸港ニ輸入スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ日本國船舶カ右様ノ物品ヲ輸入スルトキ課スヘキ稅金或ハ雜費ノ外何等ノ名義ヲ以テスルモ更ニ別種或ハ多額ノ稅金、雜費等ヲ課セサルヘシ又塊地利國又ハ洪牙利國ノ諸港へ塊地利國又ハ洪牙利國ノ船舶ヲ以テ適法ニ輸入シ若ハ輸入セラルヘキ物品ハ亦日本國ノ船舶ヲ以テ同様ニ之ヲ右諸港へ輸入スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ塊地利國又ハ洪牙利國船舶カ右様ノ物品ヲ輸入スルトキ課スヘキ稅金或ハ雜費ノ外何等ノ名義ヲ以テスルモ更ニ別種或ハ多額ノ稅金、雜費等ヲ課セサルヘシ右相互對等ノ取扱ハ右物品ノ直ニ原產地ヨリ到ルト其ノ他ノ場所ヨリ到ルトハ必ス之ヲ施スモノトス

第十一條

輸出ニ關シテモ前項ノ場合ト同様全ク均等ノ取扱ヲ施スヘシ故ニ兩締盟國ノ一方ヨリ適法ニ輸出シ若ハ輸出セラルヘキ物品ハ其ノ輸出ノ日本國船舶ニ依ルト塊地利國又ハ洪牙利國船舶ニ依ルトニ拘ハラス又其ノ仕向先ノ兩締盟國ノ一港タルト第三國ノ一港タルト問ハス兩締盟國ノ版圖内ニ於テハ之ニ課スルニ同一ノ輸出稅ヲ以テシ又之ニ許スニ同一ノ獎勵金並ニ稅金拂戻ノコトヲ以テスヘシ

第十二條

政府、官吏、公吏、一人、會社若ハ何等施設ノ名義ヲ以テシ又ハ其ノ利益ノ爲ニ課セラルル所ノ噸稅、港稅、水先案内料、燈臺稅、檢疫費其ノ他之ト同種若ハ之ニ類似ノ稅金ハ其ノ性質並ニ名義ノ如何ニ拘ハラス同一ノ條件ヲ以テ同様ノ場合ニ於テ内國船舶又ハ最惠國ノ船舶ニ課スルモノニ非サレハ兩締盟國ノ一方ハ其ノ版圖内ノ港ニ於テ之ヲ他ノ一方ノ船舶ニ課セサルヘシ此ノ如キ均等ノ取扱ハ兩國ノ船舶カ何レノ地或ハ港ヨリ來リ又何レノ所ニ往クモノタリトモ相互同一タルヘキモノトス

第十三條

兩締盟國ノ一方ノ版圖内ノ海港、海灣、船渠、川河或ハ其ノ他ノ碇泊所ニ於テ船舶ノ繫留又ハ貨物ノ船積、船卸ニ關スル一切ノ事項ニ付テハ内國船舶ニ許與セサル特典、殊遇ハ均シク他ノ一方ノ締盟國ノ船舶ニモ許與セサルヘシ但シ本件ニ關シテモ亦兩締盟國ノ目的ハ兩國ノ船舶ニ對シ互ニ全ク均等ノ取扱ヲ施スニ在ルモノトス

第十四條

兩締盟國ノ沿海貿易ハ本條約ニ於テ規定スルノ限ニ在ラス各其ノ法律、勅令及規則ニ從ヒ之ヲ規定スヘキモノトス然レトモ塊地利國洪牙利帝國内ニ於ケル日本國臣民又ハ日本國皇帝陛下ノ版圖内ニ於ケル塊地利國又ハ洪牙利國臣民ハ總テ沿海貿易ノ事項ニ關シテハ各右法律、勅令及規則ニ依リ他ノ外國民ニ許與シ若ハ許與セラルヘキ權利及特典ヲ享有スルモノトス
塊地利國又ハ洪牙利國ノ二箇以上ノ港へ其ノ全部若ハ一部ヲ仕向ケタル荷物ヲ外國ニ於テ積載シタル日本國船舶及日本國皇帝陛下ノ版圖内ノ二箇以上ノ港へ其ノ全部若ハ一部ヲ仕向ケタル荷物ヲ外國ニ於テ積載シタル塊地利國又ハ洪牙利國船舶ハ其ノ國ノ法律及稅關規則ニ從ヒ外國貿易ヲ許サレタル仕向港ノ一ニ於テ其ノ積荷ノ一部ヲ陸揚シ而シテ其ノ最初ニ積載シタル荷物ノ剩餘ヲ陸揚スル爲メ他ノ一港若ハ數港へ進航スルコトヲ得ヘシ
日本國政府ハ又本條約ノ期限間是迄ノ通り帝國諸開港場間ニ荷物ノ運搬ヲ繼續スルコトヲ塊地利

國及洪牙利國船舶ニ許與ス尤大坂、新潟及夷港ハ此ノ限ニ在ラス

第十四條

兩締盟國ノ一方ノ軍艦或ハ商船ニシテ暴風又ハ其ノ他ノ理由ノ爲メ已ムヲ得ス他ノ一方ノ海港ニ於テ避難スルモノハ右ノ如キ場合ニ於テ内國船舶ノ拂フヘキ税金ノ外何等ノ税金ヲモ拂フコトナク其ノ港ニ於テ修繕ヲ爲シ必要ナル一切ノ需用品ヲ求メ再ヒ航行スルヲ得ヘシ但シ商船ノ船長ニシテ其ノ費用ヲ支辨スル爲メ其ノ積荷ノ一部ヲ賣却スルヲ要スル場合ニハ該船長ハ其ノ寄港地ノ規則及税目ヲ遵守スヘキモノトス

兩締盟國ノ一方ノ軍艦或ハ商船ニシテ他ノ一方ノ沿岸ニ於テ淺瀬ニ乗上ケテ或ハ難破シタルトキハ地方官ヨリ最近地方ニ在ル所ノ總領事、領事、副領事又ハ代辦領事ヘ直チニ其ノ旨ヲ通知スヘシ又ハ該地又ハ洪牙利國管轄水面ニテ難破シ若ハ淺瀬ニ乗上ケタル日本國船舶ノ救助ニ關スル一切ノ手續ハ該地又ハ洪牙利國法律、勅令及規則ニ從テ之ヲ爲スヘシ又相互ノ主義ニ基キ日本國皇帝陛下ノ所領水面ニテ難破シ若ハ淺瀬ニ乗上ケタル該地又ハ洪牙利國船舶ニ關スル一切救助ノ處分ハ日本國ノ法律、勅令及規則ニ從テ之ヲ爲スヘシ

右難破若ハ乗上ケタル船舶並ニ其ノ器具及其ノ他一切ノ附屬品及該船舶ヨリ救上ケタル貨物並ニ商品及右等ノ諸物件ニシテ海中ニ投棄セラレタルモノ又ハ之ヲ賣却シタルトキハ其ノ收得金並ニ該難破船内ニ發見セラレタル一切ノ書類ハ右船舶ノ持主或ハ代理人ヨリ要求スルトキハ之ニ引渡スヘシ右持主或ハ代理人ノ現場ニ在ラサルトキハ内國法律ニ定メタル期限内ニ當該總領事、領事、副領事或ハ代辦領事ヨリ請求アレハ之ヲ引渡スヘシ而シテ右領事官、持主或ハ代理人ハ内國船舶難破ノ場合ニ於テ拂フヘキ所ノ物品保存費並ニ難破救助費及其ノ他ノ費用ノミヲ拂フヘキモノトス

難破船ヨリ救上ケタル貨物及商品ハ内國ノ消費ニ充ルニ非サレハ一切ノ關稅ヲ免除スヘシ但シ消

費ノ爲ニ賣却シ場合ニハ普通ノ關稅ヲ納ムルヲ要スルモノトス
兩締盟國ノ一方ノ臣民ニ屬スル船舶ニシテ他ノ一方ノ版圖内ニ於テ淺瀬ニ乗上ケテ或ハ難破シタルトキ其ノ持主、船長若ハ他ノ持主代理人不在ノ場合ニハ當該總領事、領事、副領事若ハ代辦領事ハ其ノ自國臣民ニ必要ノ補助ヲ與フル爲メ職權上ノ助力ヲ爲スヲ許サルヘキモノトス此ノ規定ハ持主、船長若ハ他ノ代理人現ニ其ノ場ニ在ルトキト雖右様ノ補助ヲ與フルヲ請求スル場合ニハ亦適用スヘキモノトス

第十五條

本條約ヲ適用スルニ方リ日本國ノ國法ニ從ヒ日本國船舶ト看做サルヘキ一切ノ船舶ハ之ヲ日本國船舶ト看認メ又該地又ハ洪牙利國ノ國法ニ從ヒ該地又ハ洪牙利國船舶ト看做サルヘキ一切ノ船舶ハ之ヲ該地又ハ洪牙利國船舶ト看認ムヘシ

第十六條

兩締盟國ノ一方ニ屬スル軍艦或ハ商船ノ海員ニシテ他ノ一方ノ版圖内ニ於テ脱船スル者アルニ際シ右船舶所屬國ノ領事又ハ其ノ代理人ヨリ其ノ捕獲引渡ノコトヲ地方官ニ依頼スルトキハ該地方官ハ其ノ權力ノ及フ限リ該脱船人ヲ捕獲シ且之ヲ引渡ス爲メ助力ヲ爲スヲ要スルモノトス但シ海員カ其ノ各自ノ所屬國ニ於テ脱船シタルトキハ此ノ規定ヲ適用セサルモノト知ルヘシ

第十七條

兩締盟國ハ其ノ一方ノ通商及航海ヲシテ他ノ一方ニ於テ總テ最惠國ノ取扱ヲ享受セムルノ主意ヲ有スルニ因リ通商及航海ニ關スル一切ノ事項ニ關シ其ノ一方ヨリ別國ノ政府、船舶或ハ國民ニ現ニ許與シ或ハ將來許與スヘキ一切ノ特典、殊遇若ハ免除ハ他ノ一方ニモ即時ニ且條件ヲ附セスシテ之ヲ許與スヘキコトヲ兩締盟國ニ於テ約定ス

第十八條

兩締盟國ノ一方ノ臣民ハ他ノ一方ノ版圖内ニ於テ法律ニ定ムル所ノ手續ヲ履行スルトキハ專賣特許、意匠、離形、製造標、商標、商社號及商號ニ關シ内國臣民ト同一ノ保護ヲ受クヘシ

第十九條

兩締盟國ノ一方ハ他ノ一方ノ海港、都府及其ノ他ノ場所ニ總領事、領事、副領事、領事代及代辦領事ヲ置クコトヲ得ヘシ但シ領事官ノ駐在ヲ認許スルニ便宜ナラサル場所ハ此ノ限ニ在ラス然レトモ右ノ制限ハ他ノ諸外國ニ對シ之ヲ適用スルニ非サレハ一方ノ締盟國ニ對シテ之ヲ適用スルヲ得サルモノトス

總領事、領事、副領事、領事代及代辦領事ハ一切ノ職務ヲ執行スルコトヲ得且其ノ在留國ニ於テ最惠國ノ領事官ニ現ニ許與シ或ハ許與セラルヘキ一切ノ特典、特權及免除ハ總テ之ヲ享有スヘキモノトス

第二十條

兩締盟國ハ左ノ取極ニ同意スヘシ
日本國ニ在ル各外國人居留地ハ夫夫其ノ所在ノ日本國市區ニ編入シ爾後日本國市區組織ノ一部トナルヘシ

然ル上ハ日本國當該官吏ハ右ノ新組織ヨリ生スル施政上ノ責任ヲ悉皆負擔スヘシ又右外國人居留地ニ屬スル共有資金及財產アルトキハ當然之ヲ右日本國官吏ヘ引渡スヘキモノトス
前記ノ變更ヲ終リタルトキハ該居留地内ニテ外國人カ現ニ因テ以テ不動產ヲ所持スル所ノ永代借地契約書ハ有效ノモノト確認セラルヘシ而シテ右ノ如キ性質ノ不動產ニ對シテハ特ニ右借地契約書ニ規定シタルモノノ外ハ何等ノ條件ヲモ附セス又何等ノ租稅、賦課金、取立金ヲモ徵收セサルヘシ但シ右借地契約書中ニ領事官トアルハ日本國官吏ヲ以テ之ニ代フヘキコトト知ルヘシ
右居留地内ノ地所占有權ハ將來ニ於テハ從來或場合ニ於ケルカ如ク領事官廳若ハ日本國官廳ノ認

可ヲ得ルコトヲ要セスシテ其ノ占有者ヨリ自由ニ之ヲ日本國人若ハ外國人ニ讓渡スコトヲ得ヘシ

公共ノ目的ノ爲ニ日本國政府ヨリ無借料ニテ貸與シタル各地所ハ永久總テノ租稅、賦課金及取立金ヲ課スルコトナク最初貸與シタル時ノ目的ニ永代使用セラルヘシ但シ國土領有ノ大權ニハ從フヘキモノトス

第二十一條

本條約ノ規定ハ現ニ兩締盟國ノ一方ノ關稅ヲ施行シ若ハ將來施行スヘキ國土ニモ適用スヘキモノトス

第二十二條

本條約ノ全部實施ノ日ヨリ明治三十二年九月十四日即西曆千八百九十一年十月十八日ノ條約及兩締盟國ノ間ニ締結シ右實施期日以前ニ現存スル一切ノ取極及約定ハ總テ無効ニ歸シ隨テ塊地利、洪牙利國領事裁判所カ日本國ニ於テ執行シタル裁判權及右裁判權ニ關シ塊地利國又ハ洪牙利國臣民カ享有セシ所ノ特典、特權及免除ハ本條約實施ノ日ヨリ別ニ通知ヲ爲サスシテ當然消滅ニ歸スヘシ而シテ此ノ時ヨリ塊地利國及洪牙利國臣民ハ日本國裁判所ノ裁判權ニ服從スヘキモノトス

第二十三條

本條約ハ第十八條ヲ除クノ外ハ日本國皇帝陛下ノ政府ニ於テ之ヲ實施セムト欲スル旨ヲ塊地利、洪牙利帝國ニ通知シタル後一箇年ヲ經ルニ非サレハ實施セラレサルモノトス但シ如何ナル場合ト雖千八百九十九年七月十七日以前ニハ之ヲ實施セサルモノトス又本條約ハ其ノ實施ノ日ヨリ十二箇年間效力ヲ有スルモノトス

兩締盟國ノ一方ハ本條約實施ノ日ヨリ十一箇年ヲ經過シタル後ハ何時タリトモ本條約ヲ終了セムト欲スル旨ヲ他ノ一方ヘ通知スルノ權利ヲ有スヘシ而シテ此ノ通知ヲ爲シタル後十二箇月ヲ經過

シタルトキハ本條約ハ全然消滅ニ歸スヘキモノトス
本條約第十八條ハ本條約批准交換ノ日ヨリ實施セラルヘシ而シテ兩締盟國ニ於テ別ニ之ニ反スル
取極ヲ爲ササルトキハ本條約ノ他ノ條項效力ヲ失フニ至ル迄其ノ效力ヲ有スヘシ
塊地利洪牙利國ハ何時ニテモ本條約第五條第一項ヲ廢止スル旨ヲ通知スルヲ得ヘシ而シテ右通知
ヲ爲シタルトキハ右條項ハ通知ノ日ヨリ十二箇月ヲ經テ無効ニ歸スヘキモノトス

第二十四條

本條約ハ兩締盟國ニ於テ之ヲ批准シ其ノ批准ハ可成速ニ維也納若ハ東京ニ於テ交換スヘシ
右證據トシテ兩國全權委員ハ之ニ記名調印スルモノナリ

明治三十年十二月五日即西曆千八百九十七年十二月五日維也納ニ於テ本書二通ヲ作ル

高平小五郎印
ゴルホウスキー印

天佑ヲ保有シ萬世一系ノ帝祚ヲ躋ミタル日本國皇帝(御名)此書ヲ見ル有衆ニ宣示ス
朕帝國ト塊地利洪牙利國トノ交際ヲ永久親睦ナラシムコトヲ欲シ明治三十年十二月五日維也納
ニ於テ兩國全權委員ノ記名調印シタル通商航海條約ノ各條目ヲ親シク閱覽點檢シタルニ善ク朕ノ
意ニ適シ間然スル所ナキヲ以テ右條約ヲ嘉納批准ス
神武天皇即位紀元二千五百五十八年明治三十一年三月二十二日東京宮城ニ於テ親カラ名ヲ署シ置
テ鈐セシム

御名 國璽

外務大臣男爵西條二郎印

附定書

下名ノ全權委員ハ本日締結ノ通商航海條約ニ調印スルニ際シ左ノ取極ニ同意セリ

第一條約第一條ニ付

日本國政府ハ塊地利國及洪牙利國臣民ノ爲ニ全國ヲ開ク迄ハ該國臣民ニ對シ現行ノ旅券方法
ヲ擴張スルコトニ同意ス即塊地利國及洪牙利國臣民カ在東京塊地利洪牙利國公使館若ハ日本
國開港場ニ駐在スル塊地利洪牙利國領事館ヨリノ紹介證書ヲ所持シテ出願スルニ於テハ十二
箇月ヲ超ニサル期間國內何レノ地ヘモ到ルコトヲ得ヘキ旅券ヲ東京外務省若ハ開港場所在地
地方長官ヨリ交付スヘシ但シ日本帝國ノ内地ニ旅行スル塊地利國及洪牙利國臣民ニ適用スヘ
キ現行ノ法律規則ハ之ヲ保續スルモノト知ルヘシ

第二條約第一條及第三條ニ付

兩締盟國ハ其ノ一方ノ臣民カ他ノ一方ノ版圖内ニ於テ内國臣民ト同様不動産抵當權ノ取得及
占有ヲ許スコトニ同意ス

第三條約第一條及第十九條ニ付

兩締盟國ハ領事官ノ職權、民刑事件ニ關スル司法事務ノ幫助及犯罪人引渡ニ關シ特別ノ取極
ヲ以テ之ヲ規定スル迄ノ間ハ相互ニ最惠國ノ取扱ヲ許與スルモノトス

第四條約第五條ニ付

本日調印シタル通商航海條約批准交換後一箇月ノ後ハ現今塊地利洪牙利帝國ヨリ日本國ニ輸
入スル貨物ニ對シテ施行スル輸入税目ハ無効ニ歸スルモノトス右税目ノ無効ニ歸シタル後ハ
日本國ニ輸入スル塊地利洪牙利國ノ生産若ハ製造ニ係ル貨物ニ對シテハ日本國ノ新關稅則及
日本國ト諸外國トノ間ニ締結シタル條約ニ規定セル特別稅則ヲ適用スルモノトス而シテ兩締
盟國間ノ現行條約有效ナル間ハ其ノ第二十條ノ規定ニ依リ爾後ハ本日調印シタル條約第五條

及第十七條ノ規定ニ依テ擔保セル最惠國ノ取扱ヲ維持スルモノトス
 他日日本國ノ關稅則ニ改正ヲ加フルコトアルトキハ塊地利洪牙利帝國ノ生産若ハ製造ニ係ル
 貨物ニ適用スル六箇月前ニ之ヲ公布スヘキモノトス
 純良ナラサル藥材、製藥、食物若ハ飲料、假髮、印刷物、圖書、書籍、紙牌、石版若ハ彫刻畫又ハ其ノ
 他公安若ハ風俗ヲ妨害スヘキ物品若ハ日本國及塊地利洪牙利國ニ於テ發明ノ專賣特許商
 標及版權ヲ規定スル法律ニ違背スル物品ノ輸入ヲ制限シ若ハ禁止スヘキ日本國及塊地利洪牙
 利國ノ權利ハ本日調印シタル條約、本議定書及追加條約ニ記載スル規定ノ爲ニ制限セラ
 コトナカルヘキモノトス又此ノ相互ノ權利ハ人身衛生ヲ目的トシタル禁止又ハ家畜ノ保護及
 農業ニ有益ナル植物ノ保護ニ必要ナル禁止ニモ適用スヘキモノトス
 本日調印シタル條約及本議定書ヲ以テ擔保セラレタル關稅ニ關スル最惠國主義ヲ適用スルニ
 方リ實際上下満足ト認メラレタル場合ニ於テハ兩締盟國ハ各特ニ重要ナル物品ニ適用スヘキ
 協定稅則ヲ議定スルコトニ同意スヘシ
 前項ノ實施ハ之ヲ他日ニ保留シ兩締盟國ハ本日調印シタル追加條約ヲ以テ千九百二十二年十二
 月三十一日迄特ニ重要ナル物品ニ適用スヘキ輸入方法ヲ約定セリ
 此ノ外總テノコトニ付テハ現行條約及其ノ附屬諸約定ハ本日調印シタル通商航海條約ノ實施
 セラルルニ至ル迄ハ其ノ效力ヲ有スヘキモノトス

第五 條約第十八條ニ付
 兩締盟國ハ專賣特許、意匠、雛形ノ保護ニ關シテ別ニ條約ヲ締結スルコトアルヘシ而シテ之カ
 爲メ適當ノ時期ニ至リ相當ノ商議ヲ開クヘシ
 日本國政府ハ日本國ニ於ケル塊地利洪牙利國領事裁判權ノ廢止ニ先ダチ工業所有權ノ保護ニ
 關スル列國巴厘條約ニ加入スヘキコトヲ約ス

第六 條約第二十二條ニ付

日本國內ニ於ケル塊地利洪牙利國ノ領事裁判權ハ本日調印シタル通商航海條約全部ノ實施ト
 同時ニ自然ニ消滅スルニ拘ハラズ右條約全部實施ノ時ニ當リ既ニ審理中ニ係ル總テノ事件ニ
 關シテハ其ノ最終判決ニ至ル迄ハ該裁判權ヲ繼續スルコトニ同意ス
 本議定書ハ其ノ附屬シ居ル所ノ條約ノ批准交換ヲ終ルト同時ニ別ニ正式ノ批准ヲ要セスシテ兩締
 盟國ニ於テ之ヲ可認セシモノト看做スヘシ
 本議定書ハ前記條約ノ無効ニ歸スルト同時ニ效力ヲ失フヘキモノトス
 右證據トシテ兩國全權委員ハ本議定書ニ記名調印スルモノナリ
 明治三十年十二月五日即西曆千八百九十七年十二月五日維也納ニ於テ本書ニ通テ作ル

高平 小五郎 印
ゴルホウスキー 印

追加條約

下名ノ維也納駐劄日本國皇帝陛下ノ特命全權公使及塊地利國、ボヘミア國及洪牙利國皇帝陛下ノ
 外務大臣ハ本日締結セラレタル通商航海條約附屬議定書ノ規定ニ基キ左ノ條款ヲ約定ス

第一條

日本國ノ新關稅則(前記通商航海條約第五條ニ關スル議定書第四項第一節)實施セララルト同時ニ
 塊地利洪牙利帝國ノ生産若ハ製造ニ係ル左記ノ物品ニハ日本國ニ輸入ノ際左ノ稅ヲ課スヘシ

品 目

一 庖厨用具、皿鉢並ニ泔藥ヲ施シタル其ノ他ノ鐵板及鋼板製
 ノ器具(彩色シ若ハ彩色セサル)

從價稅率
 百ニ付十

一 ランプ各種並ニ金屬製若ハ玻璃製ノ部分品及附屬品	同	十
一 曲ケ木製家具類(各種ノ)	同	十
一 珠玉、金銀細貨類(假製ノ)	同	十
一 釦鈕類(各種ノ)	同	十
一 玻璃製品、クリスマル玻璃及玻璃類(窓玻璃ヲ除ク)	同	十
一 殺蟲粉	同	五
一 馬	無	稅

從價稅ハ仕入地、產出地若ハ製造地ニ於ケル商品ノ原價ニ其ノ仕入地、產出地若ハ製造地ヨリ陸揚港ニ至ル迄ノ運搬費及保險料ヲ加ヘ又手數料アルトキハ之ヲモ加ヘテ算定スヘキモノトス

第二條

埃地利洪牙利國ノ物品カ日本國ニ於テ前記ノ取扱ヲ享クル日ヨリ日本帝國内ノ生産若ハ製造ニ係ル物品ハ埃地利洪牙利國ノ關稅施行版圖内ニ輸入ノ際最惠國ノ取扱ヲ享有スヘシ
日本國ノ生産若ハ製造ニ係ル左記ノ物品ニハ埃地利洪牙利國ノ關稅施行版圖内ニ輸入ノ際左ノ輸入稅ヲ課スヘシ

品 目	稅率
一 蠶繭及未タ絲ニセサル屑物	無
一 生絲(綠リタル又ハ捻リタル)	無
一 絲屑物(生ノ)	無
一 純絹布類(無地ノ)	無
一 麥稈サマタ(各種平紐ノ形ヲ爲シタル但他物ヲ交ヘサル)	二百フロリン
一 壁紙	二百フロリン
	十八フロリン

(百キログラムニ付金貨フロリンノ稅率)

一 磁器	五	フロリン
第一 白地ノ		
第二 著色シタル、緣取シタル、描キタル、形付ノ及鍍金若ハ鍍銀シタル	十	フロリン
一 生銅(古銅ノ斷片及屑トモ)	無	稅

第三條

本追加條約有效期間中日本國ニ於テ追加條約第一條ニ記載セル商品ニ對シ一層利益アル取扱ヲ第三國ニ許與シタル場合ニハ本日調印シタル通商航海條約附屬議定書中第五條ニ關スル第四項ノ規定ニ基キ埃地利洪牙利帝國ノ生産若ハ製造ニ係ル同一ノ商品ニモ右同様ノ取扱ヲ適用スヘキモノトス
又本追加條約有效期間中ニ埃地利洪牙利國ニ於テ本追加條約第二條ニ記載セル商品ニ對シ第三國ノ爲ニ猶一層低減シタル輸入稅ヲ許與シタル場合ニハ日本國ノ生産若ハ製造ニ係ル同一ノ商品ニモ亦右低減シタル輸入稅ヲ適用スヘキモノトス

第四條

本追加條約ハ日本國ノ新關稅則實施ノ日ヨリ效力ヲ生シ千九百二十二年十二月三十一日迄存續スルモノトス
埃地利洪牙利國ニ於テ本日調印シタル通商航海條約第二十三條ノ規定ニ基キ該條約第五條第一項ヲ無効ニ歸セシムルノ意思ヲ通知シタルトキハ本追加條約ハ右通知ノ日ヨリ十二箇月ヲ經タル後無効ニ歸スヘキモノトス
本追加條約ハ本日調印シタル條約ノ批准交換ヲ終ルヲ以テ別ニ正式ノ批准ヲ要セスレテ兩締盟國ニ於テ之ヲ可認セシモノト看做スヘシ

右電據トシテ兩國全權委員ハ本追加條約ニ記名調印スルモノナリ

明治三十年十二月五日即西曆千八百九十七年十二月五日雜也納ニ於テ本書ニ通テ作ル

高平小五郎印
ゴルホウスキー印

○ 朕在清國帝國領事館附船司檢所職員月手當ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十一年九月十日

選信大臣林 有造

勅令第二百九號(官報九月十二日)

在清國帝國領事館附ヲ命セラレタル船司檢所職員ニハ選信大臣別表ニ依リ月手當ヲ支給ス
(別表)

官	名	月	手	當	金	額
司	檢	七	十	五	圓	以
司	檢	六	十	圓	以	內
技	手	五	十	圓	以	內

○ 朕東京市、京都市、大阪市ノ區ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十一年九月十四日

内務大臣伯耆板垣退助

勅令第二百十號(官報九月十五日)

第一條 區ニ區長代理者ヲ置カス區長故障アルトキハ上席區書記之ヲ代理ス

第二條 區收入役故障アルトキハ市參事會ノ指名シタル區書記之ヲ代理ス

第三條 區長ニ於テ財產營造物ニ關スル事務其ノ他區ニ屬スル事務ヲ處理スルニ付テハ市ノ事務ニ關スル規定ヲ準用ス

第四條 區長ハ法律命令ニ定ムルモノヲ除ク外府知事ノ指揮命令ヲ承ケ若ハ委任ニ依リ區内ニ關スル國及府ノ行政事務ヲ管掌ス

第五條 區長ハ區書記其ノ他附屬員ヲ指揮監督ス

第六條 區收入役ノ職務權限及處務規程ニ關シテハ市收入役ニ關スル規定ヲ準用ス

第七條 從來ノ區會ハ之ヲ存シ新ニ區會ヲ設クルトキハ市制第一百三條ノ例ニ依ル

區會ハ法律命令ノ範圍内ニ於テ財產及營造物ニ關スル事務其ノ他區ニ屬スル事務ヲ議決ス

區會議員ハ市ノ名譽職トス

第八條 區會議員ノ選舉權及被選舉權ノ有無、選舉人名簿ノ正否或其ノ等級ノ當否、代理ヲ以テ執行スル選舉權及區會議員ノ選舉ノ效力並區會議員當選者ノ資格ノ有無ニ關シテハ市會ニ關スル規定ヲ適用シ其ノ他區會ニ關シテハ市會ニ關スル規定ヲ準用ス

區長ト區會トノ關係ニ付テハ市參事會ト市會トノ關係ニ關スル規定ヲ準用ス

第九條 區ノ監督ニ付テハ市ノ監督ニ關スル規定ヲ準用ス

第十條 區ノ名稱及區役所ノ位置ヲ定メ若ハ變更セムトスルトキハ區會ニ於テ之ヲ議決シ區會ヲ

師範學校 會 本務係給ニ依ル	一 等	收 監 一級係 二級係	二 等	收 監 四級係	三 等	收 監 助教監 一級係 二級係 本務係給ニ依ル	四 等	助教監 二級係 三級係 本務係給ニ依ル	五 等	助教監 四級係 五級係 本務係給ニ依ル
----------------------	--------	----------------------	--------	---------------	--------	--	--------	------------------------------	--------	------------------------------

朕巡查看守俸給令中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十一年九月十九日

内閣總理大臣伯爵大隈重信
内務大臣伯爵板垣退助

勅令第二百十五號(官報九月二十日)

明治三十年勅令第四百四十九號巡查看守俸給令中第十條ヲ削除ス

〔参照〕

勅令第四百四十九號巡查看守俸給令(明治三十年五月二十一日官報抄録
第十條 本令ハ北海道ニ適用セス)

朕北海道廳巡查看守及北海道集治監看守俸給令廢止ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十一年九月十九日

内閣總理大臣伯爵大隈重信
内務大臣伯爵板垣退助

勅令第二百十六號(官報九月二十日)

明治三十年勅令第九十九號北海道廳巡查看守及北海道集治監看守俸給令ヲ廢止ス

朕明治三十年勅令第四百四十四號中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

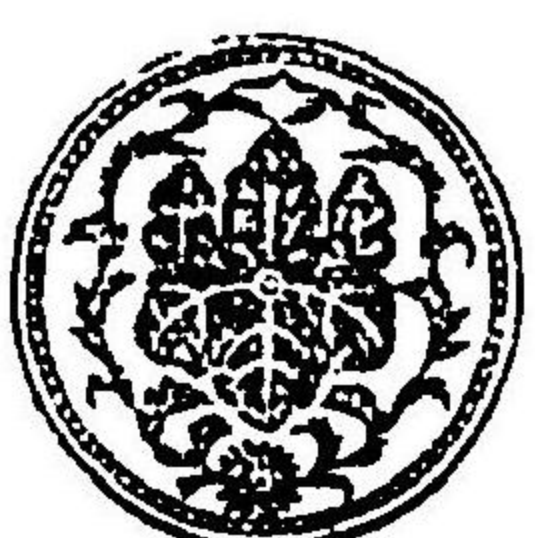
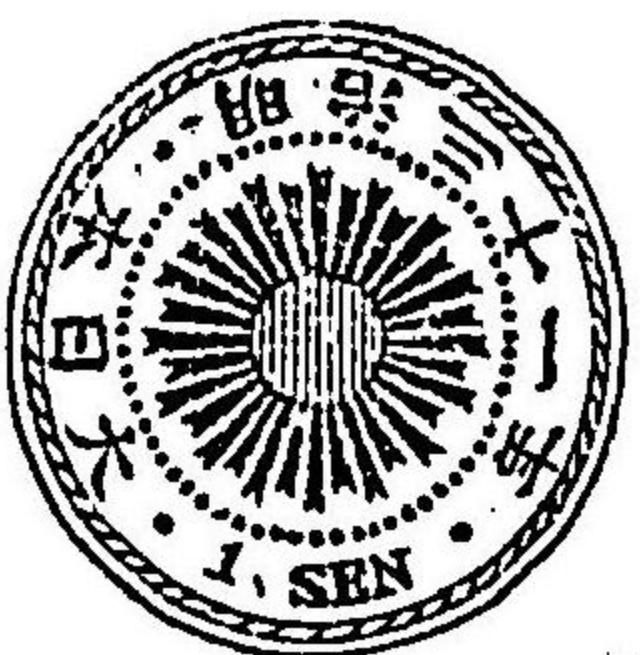
御名 御璽

明治三十一年九月二十日

大藏大臣松田正久

勅令第二百十七號(官報九月二十一日)

貨幣ノ形式ニ關スル明治三十年勅令第四百四十四號中補助銅貨ヲ補助青銅貨ニ改メ一錢及五厘ノ形式ヲ左ノ通改ム



明治三十一年九月二十二日 港務局長以下服制圖例

御名 御璽

明治三十一年九月二十二日

勅令第二百十八號(官報九月二十四日)

港務局長港務官醫官港務官補港吏港吏補服ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

逓信大臣 林有造

港務局長以下服制圖例

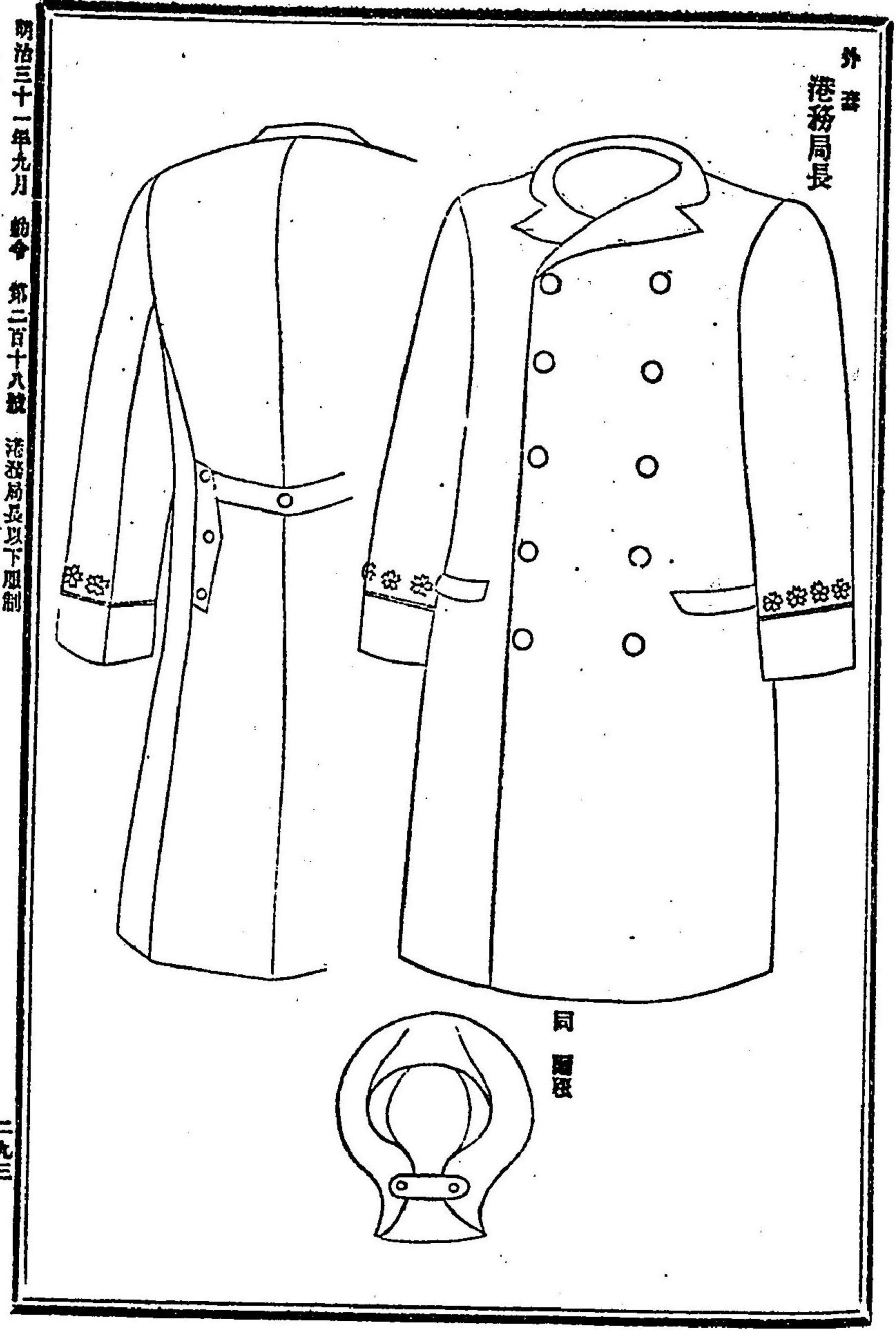
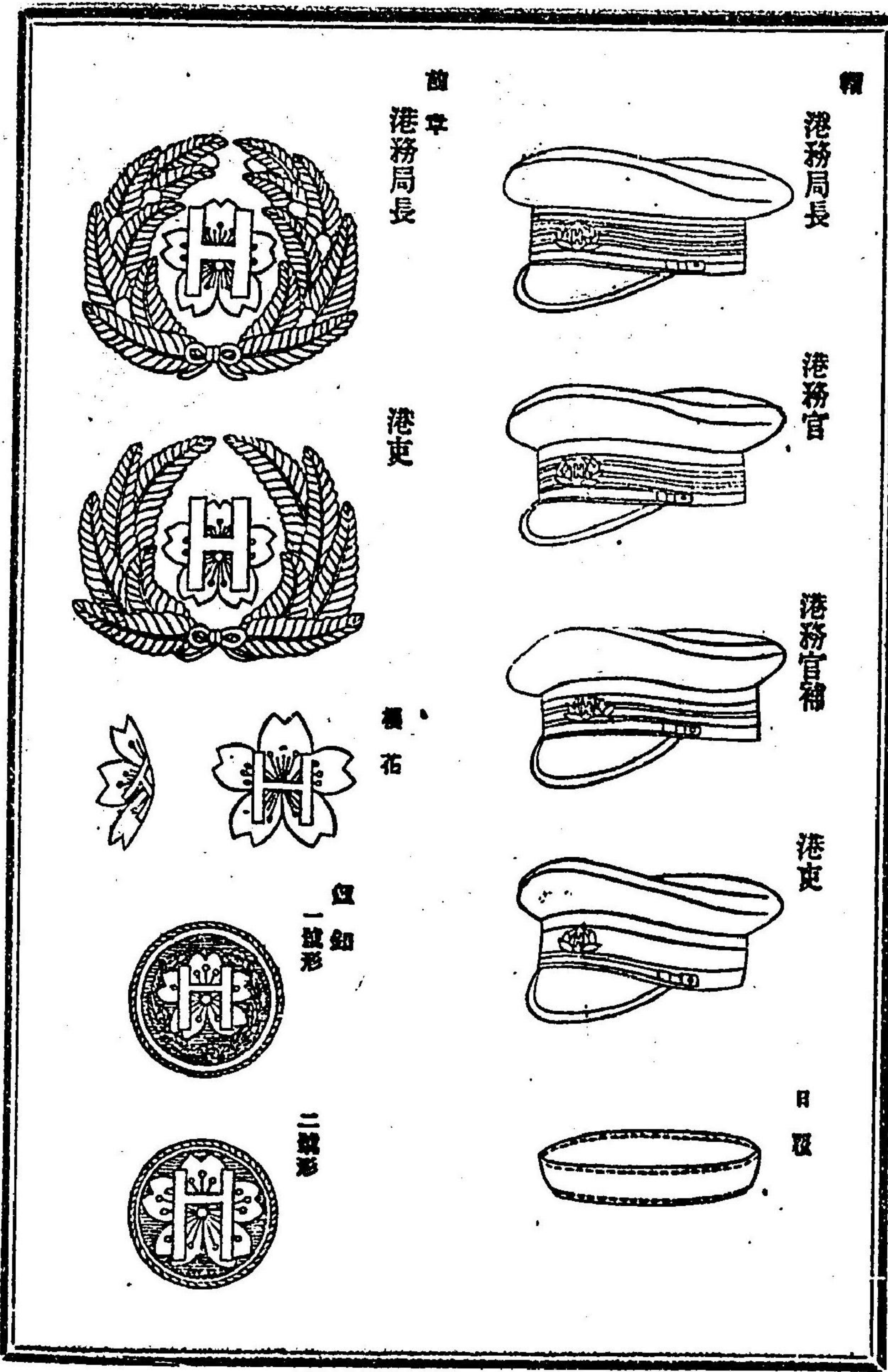
地位	種	夏		冬	
		種	式	種	式
港務局長	圓形ニシテ黒色ノ前底及支那ノハ帽ノ兩側ニ附テ各一箇ノ鈕ヲ以テ留メタル如シ	同上	同上	同上	同上
港務官醫官	同上	同上	同上	同上	同上
港務官補	同上	同上	同上	同上	同上
港吏	同上	同上	同上	同上	同上
港吏補	同上	同上	同上	同上	同上

地位	種	夏		冬	
		種	式	種	式
港務局長	圓形ニシテ黒色ノ前底及支那ノハ帽ノ兩側ニ附テ各一箇ノ鈕ヲ以テ留メタル如シ	同上	同上	同上	同上
港務官醫官	同上	同上	同上	同上	同上
港務官補	同上	同上	同上	同上	同上
港吏	同上	同上	同上	同上	同上
港吏補	同上	同上	同上	同上	同上

明治三十一年九月二十二日 港務局長以下服制圖例

明治三十一年九月 勅令 第二百十八號 港務局長以下服制

二九三

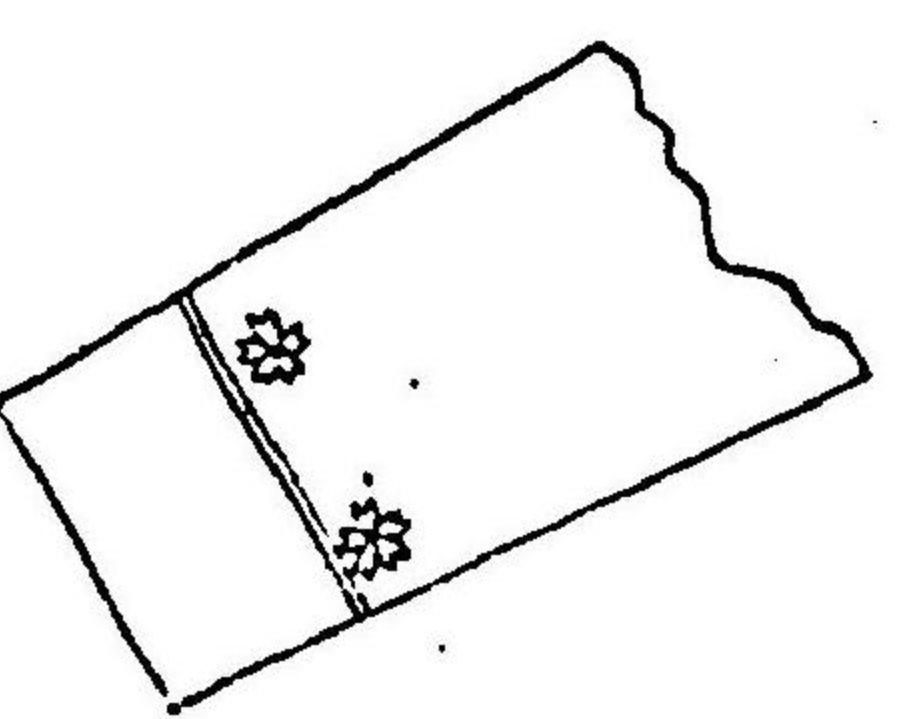
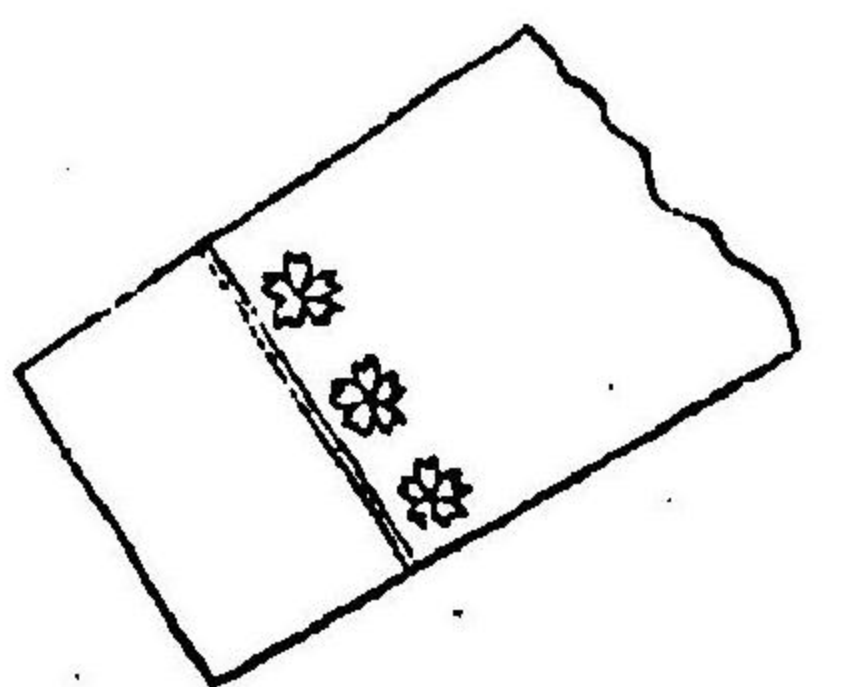
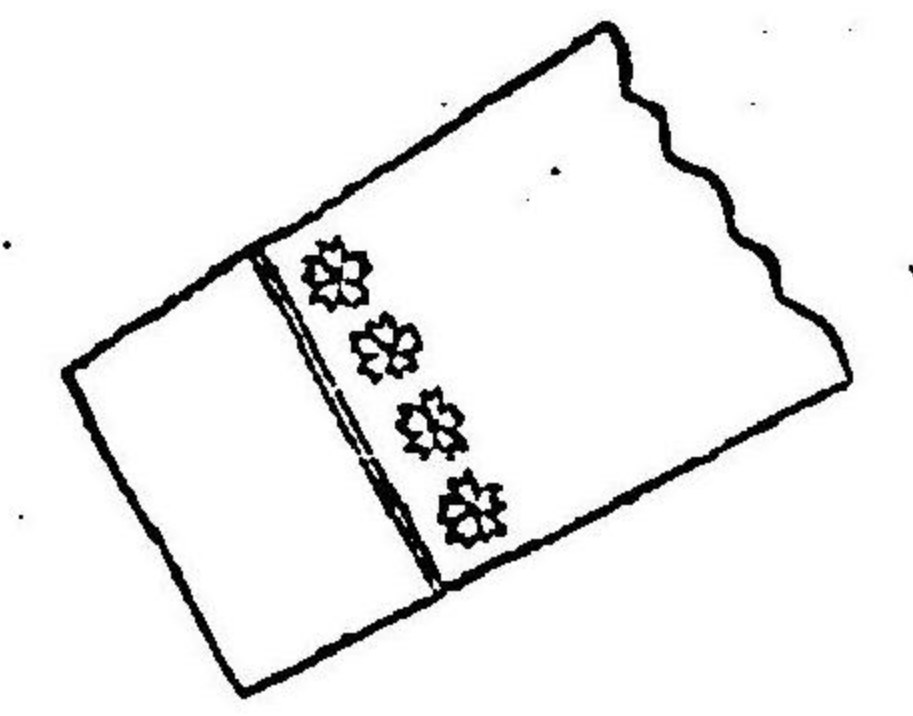


二九三

外務部
港務局長

港務官

港務官補



朕敕郡ニ郡長一人ヲ置クノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十一年九月二十四日

勅令第二百十九號(官報九月二十六日)

廣島縣管下瀨品郡神石郡甲奴郡ニ郡長一人ヲ置ク

附則 本令ハ明治三十一年十月一日ヨリ施行ス

内務大臣 伯爵板垣退助

朕輸入物品從量稅目ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十一年九月二十四日

勅令第二百二十號(官報九月二十六日)

關稅定率法第三條ニ依リ輸入物品從量稅目左ノ通定ム

本令ハ明治三十一年一月一日ヨリ施行ス

大藏大臣 松田正久

輸入物品從量稅目		稅	單位
一	乳油	〇・八六	每百斤
二	乾酪	〇・五〇	每百斤
三	咖啡(種子)	〇・八四	每百斤
四	生卵	〇・二五	每百斤
五	麥粉	〇・六五	每百斤
六	ハム及ベーコン	〇・六五	每百斤
七	鮮肉(牛肉)	一・四九	每百斤
八	乳膏及乳粉	三・七一	每百斤
九	食鹽(海鹽ト礦鹽トヲ別タス)	〇・八三	每百斤
十	甲 粗製ノモノ	一・三七〇	每百斤
十一	乙 精製ノモノ	一・八七六	每百斤
十二	鹹魚	一・三九二	每百斤
十三	鹹肉(牛肉若ハ豚肉ノ輸入ニ爲タルモ)	七・九	每百斤
十四	茶	五・二	每百斤
十五	石花菜	〇・六二	每百斤
十六	衣服	二・四一〇	每百斤
十七	肌衣(上下ヲ別タス、メリヤス製ノモノ)	二・五四三	每百斤
十八	綿製ノモノ	二・八二二	每百斤
十九	毛製ノモノ	二・八二二	每百斤
二十	毛織製ノモノ	二・八二二	每百斤
二十一	陶材、化學鹽及製鹽	二・〇三八	每百斤
二十二	礬鹽	〇・三六	每百斤
二十三	石炭酸(結晶ノモノ)	〇・三六	每百斤
二十四	微里失爾酸(結晶ト粉末トヲ別タス)	一・五七	每百斤
二十五	酒石酸	〇・七三	每百斤
二十六	亞爾福保爾	〇・三六	每百斤
二十七	明礬	一・九八	每百斤
二十八	白朮	八・七七	每百斤
二十九	次磷酸鈣	二・〇六	每百斤
三十	硼砂(硬質者)	三・三八	每百斤
三十一	艾片	七・七七	每百斤
三十二	桂皮	七・三五	每百斤

明治三十一年九月 勅令 第二百二十號 輸入物品從量稅目

入	一 リートルヲ超ヘサル十二級入 酒精ノ容量十六度以上二十四度以下 甲 樽入ノモノ 乙 箱入ノモノ	每樽 每箱	二六六〇 二六六〇	四四五 四四六	火藥煙火類ヲ除ク	每百斤	二六一七
入	一 リートルヲ超ヘサル二十四級	每樽	二七〇〇	四四七	支那産(一巻四十ヤード)	每百斤	〇五五
入	一 リートルヲ超ヘサル十二級入	每箱	二三八〇	四四八	支那産(一巻四十ヤード)	每百斤	〇五八
入	雜品	每箱	二三八〇	四四九	支那産(一巻四十ヤード)	每百斤	〇五八
入	「セリニロイド」(板皮等)	每百斤	八六八八	四五〇	支那産(一巻四十ヤード)	每百斤	〇五八
入	「ボルトランド」セメント	每百斤	〇八九	四五〇	支那産(一巻四十ヤード)	每百斤	〇五八
入	石灰	每百斤	八七九	四五〇	支那産(一巻四十ヤード)	每百斤	〇五八
入	石炭	每百斤	八七九	四五〇	支那産(一巻四十ヤード)	每百斤	〇五八
入	魚炭	每百斤	八七九	四五〇	支那産(一巻四十ヤード)	每百斤	〇五八
入	煤油	每百斤	八七九	四五〇	支那産(一巻四十ヤード)	每百斤	〇五八
入	天豆粉(漁用ノモノ)	每百斤	一〇〇	四五〇	支那産(一巻四十ヤード)	每百斤	〇五八
入	海鹽	每百斤	一〇〇	四五〇	支那産(一巻四十ヤード)	每百斤	〇五八
入	阿膠(普通)	每百斤	一〇〇	四五〇	支那産(一巻四十ヤード)	每百斤	〇五八

本税目ニ掲タル所ノ斤ハ帝國ノ度量衡法ニ依ル
「ヤード」及「フット」及「インチ」ハ英國ノ定法尺度ニ依ル
「ポンド」及「トン」ハ英國ノ「アヴァイル」ニ依ル
「ガロン」ハ英國ノ「スタンダード」ガロンニ依ル
「リートル」ハ英國ノ「メートル」法ニ依ル

○ 朕帝國大學農科大學獸醫學科ノ課程ヲ卒ヘタル者ニシテ陸軍三等獸醫タル者特別進級ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十一年九月二十四日

陸軍大臣子爵桂 太郎

勅令第二百二十一號(官報 九月二十六日)
帝國大學農科大學獸醫學科ノ課程ヲ卒ヘタル者ニシテ現ニ陸軍三等獸醫タル者ハ此ノ際特ニ陸軍二等獸醫ニ進級セシムルコトヲ得

御名 御璽

明治三十一年九月二十六日

海軍大臣侯爵西郷從道

勅令第二百二十二號(官報 九月二十七日)
海軍檢閲條例中左ノ通改正ス
第三條及第四條中「軍令部長」ヲ「將官」ニ改ム
第八條 特命檢閲使使務ヲ終レハ其ノ實況ヲ上奏シ檢閲ノ成績及之ニ關スル訓示ヲ海軍大臣ニ通知シ海軍大臣ハ之ヲ海軍軍令部長ニ移ス

〔參照〕

勅令第三百三十一號海軍檢閲條例(明治三十年九月二十五日官報)抄録
第三條 特命檢閲トハ海軍軍令部長勅命ヲ承ケ奉行スル檢閲ヲ謂フ
第四條 海軍軍令部長特命檢閲ヲ行フトキハ之ヲ特命檢閲使ト謂フ
第八條 特命檢閲使使務ヲ終レハ其ノ實況ヲ上奏シ檢閲ノ成績及之ニ關スル訓示ヲ海軍大臣ニ通知スヘシ

朕海軍軍令部條例中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十一年九月二十六日

海軍大臣侯爵西鄉從道

勅令第二百二十三號(官報九月二十七日)

海軍軍令部條例中左ノ通改正ス

第八條中「演習」ノ下ニ「檢閲」ヲ加フ

〔參照〕

勅令第四百二十三號海軍軍令部條例(明治三十年十二月一日官報)抄錄
第八條 第二局ニ於テハ出師準備演習及海運ノ計畫運動法及通信法ノ制定ニ關スル事ヲ掌ル

朕教育總監部條例中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十一年十月一日

陸軍大臣子爵桂 太郎

勅令第二百二十四號

教育總監部條例中左ノ通改正ス

第二條中「教育總監」ハ「下ニ」各兵監ヲ統督シ「ノ七字」ヲ加フ

第七條中「陸軍乘馬學校」ヲ「陸軍騎兵實施學校」ニ改ム

第八條中「砲工學校學生」ノ六字ヲ削ル

第九條中「及砲工學校學生」ノ七字ヲ削ル

第十條中「砲工學校學生」ノ六字ヲ削ル

第十一條ノ次ニ左ノ一條ヲ加ヘ第十二條以下順次繰下ク

第十二條 野戰砲兵監、要塞砲兵監及工兵監ハ砲工學校ヲ巡閱シ各本科學生ノ教育上ニ就キ意見

アルトキハ之ヲ教育總監ニ具申スヘシ

第十四條中「書記トシテ」ノ五字ヲ削リ「陸軍屬」ヲ「判任文官」ニ改ム

〔參照〕

勅令第七號教育總監部條例(明治三十一年一月二十二日官報)抄錄

第二條 教育總監ハ部事ヲ總理シ教育ニ關スル諸條規典ノ改良ヲ謀リ及陸軍砲工學校陸軍士官學校陸軍中央幼年學校陸

軍地方幼年學校陸軍戸山學校陸軍教導團並ニ陸軍附校生徒試驗委員ヲ管轄ス

第七條 騎兵監ハ各騎兵隊及教導團騎兵生徒隊ノ教育上本府專門ノ事ニ就キ齊一進歩ノ責ニ任シ又本科ニ關スル事項ヲ調

査研究審議シ並ニ立案スルコトヲ掌リ陸軍乘馬學校ヲ管轄ス

第八條 野戰砲兵ニ關スル事項ヲ調査研究シテ立案スルコトヲ掌リ陸軍野戰砲兵射擊學校ヲ管轄ス
 第九條 要塞砲兵ニ關スル事項ヲ調査研究シテ立案スルコトヲ掌リ陸軍要塞砲兵射擊學校ヲ管轄ス
 第十條 工兵監ハ各工兵砲工學校學生及教導團工兵生徒隊ノ教育上本科專門ノ事ニ就キ第一進歩ノ責ニ任シ又要塞砲兵ニ關スル
 事項ヲ調査研究シテ立案スルコトヲ掌ル
 第十四條 教育總監部ニ書記トシテ下士位ニ陸軍屬ヲ置ク

朕陸軍砲工學校條例改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十一年十月一日

陸軍大臣子爵桂 太郎

勅令第二百二十五號

陸軍砲工學校條例

第一條 陸軍砲工學校ハ砲工兵科ノ少尉ヲ以テ學生ト爲シ砲工兵各科ノ勤務ニ必要ナル學術ヲ教授スル所トス但少尉ニシテ入學シ得サル者ハ中尉又ハ大尉ニ進級ノ後ニ在テモ學生ト爲スコトヲ得
 第二條 學生教育ノ綱領ハ陸軍大臣ノ認可ヲ請ケ教育總監之ヲ定ム
 第三條 學生教育ノ實施ハ教則ニ依ル該教則ハ前條ノ教育綱領ニ基キ校長奏ヲ具シ教育總監ノ認可ヲ請ケ之ヲ定ム
 第四條 本校ニ左ノ職員ヲ置ク
 校長 少將大佐

副官 大中尉
 教官 大中少佐、大中尉、陸軍教授
 軍醫
 獸醫
 軍吏

下士、判任文官

第五條 校長ハ教育總監ニ隸シ校務ヲ總理シ學生教育ノ責ニ任ス
 第六條 副官ハ校中一般ノ庶務ヲ掌ル
 第七條 砲工兵科教官ハ軍事學各科ノ授業ヲ分擔シ高級故參ノ教官ヲ以テ各科ノ科長トス
 第八條 馬術教官ハ學生ノ馬術訓練ニ任シ兼テ校厩一切ノ事ヲ統ヘ馬匹ノ調教ヲ掌ル
 第九條 文官教官ハ數學物理化學圖學及外國語學ノ授業ヲ分擔ス
 第十條 學生ノ修學期ハ概ネ一箇年トシ之ヲ普通科ト稱ス
 第十一條 前條修學ヲ終リタル學生中ヨリ各兵科毎ニ三分ノ一以內ヲ選抜シ更ニ一箇年在學セルメ尙須要ナル學術ヲ修メシム之ヲ高等科ト稱ス
 第十二條 學生ノ人員及入校期日ハ其時々教育總監ノ上申ニ依リ陸軍大臣之ヲ告達ス
 第十三條 學生分道ノ告達アレハ師團長ハ隊長ヲシテ入校期二十日前ニ其兵籍寫ニ考科表寫ヲ添ヘテ砲工學校長ニ送達セシムヘシ
 第十四條 學生ハ校外ニ居住セルメ修學ニ所要ノ馬匹、馬具、書籍器具ハ貸與スルコトヲ得
 第十五條 學生中ノ願屆其他業務ニ關スル諸件ハ總テ校長ノ管理ニ屬ス
 第十六條 學生ハ情願ヲ以テ退校スルヲ許サス
 第十七條 學生中疾病及其他ノ事故ニ依リ修學ノ途途ナキ者ハ校長其事由ヲ具シ教育總監ノ認可

ヲ請ケ退校セシム

第十八條 普通科學生中左ノ事項ニ該ル者ハ校長共事由ヲ具シ教育總監ノ認可ヲ請ケ滯學ヲ命

ス
一 疾病及其他ノ事故ニ依リ修學期內ニ所定ノ學術ヲ修メ得サル者

二 卒業試験ヲ受ケ得サル者

三 卒業試験ニ落第セシ者

第十九條 高等科學生ニシテ前條第一第二項ニ該ル者アルトキハ校長ハ教育總監ノ認可ヲ請ケ滯

學ヲ命スルコトヲ得
第二十條 校長ハ修學期末ニ於テ學生ノ卒業試験ヲ施行シ各教官ヲ集メ會議ヲ開キ修學ノ成績ヲ

調査シ考列序ヲ定メ教育總監ノ認可ヲ請ケ及第者ニ卒業證書ヲ附與ス

第二十一條 高等科卒業者中學術優等ノ者若干名ヲ選ミ員外學生トシテ更ニ一箇年間必要ナル科

學ヲ研究セシメ又ハ外國留學ヲ命スルコトヲ得

第二十二條 普通科卒業ノ學生ニシテ高等科ニ入ラサル者及高等科卒業ノ者ハ校長直ニ之ヲ歸隊

セシム
第二十三條 普通科學生ニシテ退校ヲ命セラレタル者ハ隊長ノ上申ニ依リ教育上便宜ノ時期ニ於

テ再ヒ入學ヲ命スルモノトス

第二十四條 滯學者クハ再ヒ入學ヲ命セラレタル學生修學ヲ終レハ第二十條ニ準シ卒業證書ヲ附

與ス
第二十五條 普通科學生ニシテ前條卒業試験ニ落第セシトキハ歸隊自習ノ上隊長ノ上申ニ依リ更

ニ試験ヲ受ケンメ及第者ニハ卒業證書ヲ附與シ荷落第シタル者ハ特別ノ詮議ニ附ス

陸軍士官學校條例改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十一年十月一日

陸軍大臣子爵桂 太郎

勅令第二百二十六號

陸軍士官學校條例

第一條 陸軍士官學校ハ陸軍各兵科士官候補生ヲ以テ生徒ト爲シ初級士官タルニ必要ナル教育ヲ

爲ス所トス

第二條 生徒ノ教育ハ之ヲ分テ教授及訓育トシ共綱領ハ陸軍大臣ノ認可ヲ請ケ教育總監之ヲ定ム

第三條 生徒教育ノ實施ハ教則ニ依ル該教則ハ前條ノ教育綱領ニ基キ校長兼テ具シ教育總監ノ認

可ヲ請ケ之ヲ定ム

第四條 本校ニ左ノ職員ヲ置ク

- 校長 少將大佐
- 副官 大中尉
- 教官 中少佐、大中尉、軍醫、獸醫、陸軍教授、陸軍助教
- 生徒隊長 中少佐
- 生徒隊中隊長 大尉
- 生徒隊附 中尉
- 軍醫
- 獸醫

軍吏

准士官下士判任文官

- 第五條 校長ハ教育總監ニ隸シ校務ヲ總理シ生徒教育ノ責ニ任ス
- 第六條 副官ハ校中一般ノ庶務ヲ掌ル
- 第七條 軍事學教官ハ軍事學各科ノ授業ヲ分擔シ佐官教官ヲ以テ各科ノ科長トス
- 第八條 馬術教官ハ生徒ノ馬術訓練ニ任シ兼テ校厩一切ノ事ヲ統ヘ馬匹ノ調教ヲ掌ル
- 第九條 文官教官ハ外國語學ノ授業ヲ分擔ス
- 第十條 生徒隊長ハ生徒隊ヲ統ヘ生徒ノ訓育ヲ監督シ各中隊長ヲシテ擔任ノ訓育ニ任セシメ校長ニ對シ齊一進歩ノ責ニ任ス
- 第十一條 中隊長ハ生徒隊附士官ヲ指揮シ中隊生徒ノ訓育ヲ擔任シ其成績ニ就テハ專ラ擔保ノ責ニ任ス
- 第十二條 生徒隊附士官ハ生徒訓育ノ諸科目ヲ分擔シ日常生徒ノ躬行ヲ監視シ分擔ノ訓育ニ就テハ其責ニ任ス
- 第十三條 生徒ノ修學期ハ每年十二月一日ヨリ翌年十一月下旬ニ至ル十二箇月トス
- 第十四條 生徒ノ諸給與ハ別ニ定ムル所ノ規定ニ據ル
- 第十五條 生徒入校中ハ總テ校長ノ管理ニ屬ス
- 第十六條 生徒ハ情願ヲ以テ退校スルヲ許サス
- 第十七條 生徒中左ノ事項ニ該ル者ハ退校セシム
 - 一 學術ノ練習全カラズシテ實際修學ノ驥力ニ乏シ卒業ノ目途ナキ者
 - 二 軍紀ヲ紊リ又ハ屢法則ヲ犯ス者
 - 三 品行不正ニシテ改校ノ目途ナキ者

四 傷痍疾病ニ依リ修學ニ堪ヘサル者

- 五 卒業試験ニ落第セシ者
 - 第十八條 前條第一第四及第五項ニ該當シ退校セシメシ士官候補生ニシテ尙望ミアル者ハ次ノ學期ニ於テ再ヒ入校セシムルコトヲ得
 - 第十九條 生徒中疾病及其他ノ事故ニ依リ修學期內ニ所定ノ學術ヲ修メ得サル者又ハ卒業試験ヲ受ケ得サル者ハ猶滯學ヲ命スルコトヲ得
 - 第二十條 本條例第十七條及第十九條ニ該ル者アルトキハ校長其事由ヲ具シ教育總監ニ上申シ教育總監之ヲ規定處分ス
 - 第二十一條 生徒修學期末ニ至レハ校長ハ卒業試験規格ヲ撰シ教育總監ニ上申ス教育總監ハ之ヲ裁定シ校長ヲシテ卒業試験ヲ行ハシム
 - 第二十二條 卒業試験ヲ終レハ校長ハ各教官生徒隊長及中隊長ヲ集メ會議ヲ開キ成績ヲ調査シ考科列序ヲ定メ教育總監ノ認可ヲ請ケ及第者ニ卒業證書ヲ附與ス
 - 第二十三條 卒業證書ヲ附與シタル者ニハ校長直ニ歸隊ヲ命ス
 - 第二十四條 滯學ヲ命セラレタル生徒修學ヲ終レハ前諸條ニ準シテ取扱フモノトス
 - 第二十五條 生徒ニハ三週間以內ノ夏期休暇ヲ與フルコトヲ得
 - 第二十六條 教官、中隊長及生徒隊附士官ハ教育上便宜ノ時期ニ於テ隊附勤務ヲ爲サシムルコトアルハレ

朕陸軍戸山學校條例改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第二百二十七號

陸軍大臣子爵桂 太郎

陸軍戸山學校條例

- 第一條 陸軍戸山學校ハ學生ニ戰術、射擊、體操、劍術ノ訓練ヲ爲シ以テ各隊教育ノ進歩ヲ圖リ常ニ諸科學術ノ調査研究ヲ爲シ且攜帶火兵ノ研究及試験ヲ行フ所トス
- 第二條 學生ヲ分テ左ノ三種トス
 - 一 戰術科學生ハ步兵大中尉ヲ以テ之ニ充ツ但時トシテ步兵少尉或ハ要塞砲兵及工兵士官ヲ以テ學生ト爲スコトアルヘシ
 - 二 射擊科學生ハ步兵士官及下士ヲ以テ之ニ充ツ但時トシテ騎兵、要塞砲兵、工兵及輜重兵士官及下士ヲ以テ學生ト爲スコトアルヘシ
 - 三 體操劍術科學生ハ歩、騎、砲、工、輜重兵士官及下士ヲ以テ之ニ充ツ
- 第三條 戰術及射擊研究ノ爲メ時トシテ佐官ヲ召集スルコトヲ得但修學期日ハ其時々教育總監ノ上申ニ依リ陸軍大臣之ヲ定ム
- 第四條 學生ノ訓練ニ供シ且諸般ノ研究ニ充ツル爲メ本校ニ教導大隊ヲ置キ步兵隊ヨリ下士兵卒ヲ分遣シテ之ヲ編成ス
- 第五條 本校ニ左ノ職員ヲ置ク
 - 校長 大中佐
 - 副官 大中尉
 - 教官 中少佐、大中尉、軍醫
 - 教導大隊長 中少佐
 - 教導大隊副官 中尉

教導大隊中隊長 大尉

教導大隊附 中尉

軍醫

軍吏

准士官、下士、判任文官

- 第六條 校長ハ教育總監ニ隸シ校務ヲ總理シ學術進歩ノ責ニ任シ陸軍軍樂學校ヲ管轄ス但攜帶火兵ノ研究及試験ニ關シテハ陸軍砲兵會議議長ノ區處ヲ受ク
- 第七條 副官ハ校中一般ノ庶務ヲ掌ル
- 第八條 教官ハ戰術、射擊、體操、劍術科學術ノ授業ヲ分擔シ且其各科ニ於ケル學術ノ調査研究並ニ攜帶火兵ノ研究及試験ニ任シ佐官ノ教官ヲ以テ各科ノ科長トス
- 第九條 教導大隊ノ大隊長以下ノ服務ハ軍隊内務ノ定則ヲ適用ス
- 第十條 學生ノ修學期ハ各科共概ネ五箇月トシ毎年二回ニ分テ入校セシム
- 第十一條 學生ノ人員及入校期日ハ其時々教育總監ノ上申ニ依リ陸軍大臣之ヲ告達ス
- 第十二條 學生分遣ノ告達アレハ師團長ハ隊長ヲシテ各科ノ修學ニ適當ノ者ヲ選定シ入校期二十日前ニ其兵籍簿ニ考科表簿ヲ添ヘテ戸山學校長ニ送達セシムヘシ
- 第十三條 學生士官ハ校外ニ同下士ハ校内ニ居住セシメ修學ニ所要ノ兵器、彈藥、書籍器具、消耗品ハ貸與又ハ支給スルコトアルヘシ但下士學生ハ所屬隊ヨリ其武器、被服、裝具ヲ携行セシム
- 第十四條 學生中ノ願居其他業務ニ關スル諸件ハ總テ校長ノ管理ニ屬ス
- 第十五條 學生ハ情願ヲ以テ退校スルヲ許サスト雖モ疾病及其他ノ事故ニ依リ學術修得ノ目途ナキ者ハ校長其事由ヲ具シ教育總監ノ認可ヲ請ケ退校セシム
- 第十六條 校長ハ修學期末ニ於テ各教官ヲ集メ會議ヲ開キ學生修學ノ成績ヲ調査シ教育總監ノ認可ヲ請フ

可ヲ請ケ土官ニ在テハ修得證明書ヲ作り署名捺印シ下士ニ在テハ考科別序表ヲ製シ師團長ヲ經テ本人所屬ノ隊長ニ送付シ又下士ニハ更ニ學術修業ノ證書ヲ附與シ學生ヲ歸隊セシム

第十七條 教導大隊ハ分遣ノ下士兵卒ハ現役尙一箇年以上ノ期アル下士兵卒中ヨリ選拔スヘレ

第十八條 教導大隊ハ分遣ノ下士兵卒ハ所屬隊ヨリ其武器、被服、裝具ヲ携行セシメ分遣中ハ特別ノ徽章ヲ附セシム

第十九條 教官ハ教育上便宜ノ時期ニ於テ隊附勤務ヲ爲サシムルコトアルヘレ

第二十條 演習上ノ必要ニ依リ砲工學校校馬ヲ使用スルコトヲ得

朕陸軍中央幼年學校條例改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十一年十月一日

陸軍大臣子爵桂 太郎

勅令第二百二十八號

陸軍中央幼年學校條例

第一條 陸軍中央幼年學校ハ陸軍地方幼年學校卒業者ヲ以テ生徒ト爲シ地方幼年學校ノ教育ニ適スヘキ者ヲ養成スル所トス

第二條 生徒ノ教育ハ之ヲ分テ教授及訓育トシ其綱領ハ陸軍大臣ノ認可ヲ請ケ教育總監之ヲ定ム

第三條 生徒教育ノ實施ハ效則ニ依ル該效則ハ前條ノ教育綱領ニ基キ校長案ヲ具シ教育總監ノ認可ヲ請ケ之ヲ定ム

第四條 本校ニ左ノ職員ヲ置ク

校長

大中佐

副官

大中尉

教官

大中尉、陸軍教授、陸軍助教

生徒隊中隊長

大尉

生徒隊中隊附

中尉

軍醫

獸醫

軍吏

准士官、下士、判任文官

第五條 校長ハ教育總監ニ隸シ校務ヲ總理シ生徒教育ノ責任シ東京陸軍地方幼年學校ヲ管轄ス

第六條 副官ハ校中一般ノ庶務ヲ掌ル

第七條 馬術教官ハ生徒ノ馬術訓練ニ任シ兼テ校厩一切ノ事ヲ統ヘ馬匹ノ調教ヲ掌ル

第八條 文官教官ハ各學科ノ授業ヲ分擔ス

第九條 中隊長ハ中隊附士官ヲ指揮シ中隊生徒ノ訓育ヲ擔任シ軍人精神ヲ涵養シ生徒ヲシテ軍紀ニ慣熟セシメ其成績ニ就テハ專ラ擔保ノ責任ス

第十條 中隊附士官ハ生徒訓育ノ諸科目ヲ分擔シ日常生徒ノ躬行ヲ監視シ自ら模範ト爲リテ之ヲ指導シ分擔ノ訓育ニ就テハ其責任ス

第十一條 生徒ノ修學期ハ九月一日ヨリ翌翌年五月下旬ニ至ル二十一個月トシ之ヲ一學年ニ分チ

各學年ハ毎年九月一日ヨリ開始ス

第十二條 陸軍地方幼年學校條例第十一條乃至第十七條ノ規定ハ本校生徒ノ爲メニモ亦之ヲ適用ス

第十三條 生徒ハ情願ヲ以テ退校スルヲ許サス

第十四條 生徒中左ノ事項ニ該ル者ハ退校セシム

- 一 學術ノ修得全カラスシテ卒業ノ目途ナキ者
- 二 軍紀ヲ紊リ又ハ屢法則ヲ犯ス者
- 三 品行不正ニシテ改校ノ目途ナキ者
- 四 傷痍疾病ニ依リ修學ニ堪ヘサル者
- 五 卒業試験ニ落第セシ者

第十五條 生徒中各學年ニ於テ所定ノ學術ヲ修メ得サル者或ハ疾病等ニ依リ卒業試験ヲ受ケ得サル者又ハ卒業試験ニ落第セシ者ト雖モ尙望ミアル者ハ滯學補修ヲ爲サシメタル後卒業セシメ又ハ一學年延期修學セシムルコトヲ得但滯學日數ハ士官候補生教育ニ支障ナキヲ度トシ又延期ハ全學期ヲ通シテ一回限リトス

第十六條 生徒中卒業試験ニ及第スルモ傷痍疾病等ニテ士官候補生ト爲スヲ得サル者ニハ單ニ卒業證書ヲ附與シテ退校セシム

第十七條 前三條ニ該ル者アルトキハ校長其事由ヲ具シ教育總監ニ上申シ教育總監之ヲ裁定處分ス

第十八條 生徒修學期末ニ至レハ校長ハ卒業試験規格ヲ撰シ教育總監ニ上申ス教育總監ハ之ヲ裁定シ校長ヲシテ卒業試験ヲ行ハシム

第十九條 卒業試験ヲ終レハ校長ハ各教官及中隊長ヲ集メ會議ヲ開キ成績ヲ調査シ考科列序ヲ定

メ教育總監ノ認可ヲ請ケ及第者ニ卒業證書ヲ附與ス

第二十條 教育總監ハ前條卒業者中士官候補生トナスヘキ者ヲ定メ陸軍大臣ノ認可ヲ請ケ士官候補生ヲ命シ各隊ニ配賦ス

前項士官候補生ヲ命セラレタル生徒ニハ入隊前ニ於テ一週間以内ノ休暇ヲ與フルコトヲ得

第二十一條 滯學ヲ命セラレタル生徒補修終レハ前諸條ニ準シテ取扱フモノトス

第二十二條 毎年生徒ニ五週間以内ノ夏期休暇ヲ與フルコトヲ得

第二十三條 教官、中隊長及中隊附士官ハ教育上便宜ノ時期ニ於テ隊附勤務ヲ爲サシムルコトアルヘシ

附則

第二十四條 明治三十二年前入學ノ本校生徒ハ其卒業ニ至ル迄本條例第十一條及第十二條ノ規定ハ左ノ各條ニ據リ取扱フ

第二十五條 生徒修學期ハ概ネ三箇年トシ各學年ハ毎年九月ニ始メ而シテ第三年ニ在リテハ五月ニ終ル

第二十六條 生徒ハ官費、半官費、自費ノ三種ニ分ツ

官費生徒ハ一切ノ經費ヲ官給シ且手當金ヲ給ス半官費生徒ハ小被服、賄料ノ經費自費生徒ハ被服、糧食一切ノ經費ヲ納メシム其金額ハ陸軍大臣之ヲ定ム

第二十七條 戰死又ハ公務ノ爲メ死亡シタル高等官ノ孤兒ハ官費生徒トス

第二十八條 前條ノ外官費、半官費、自費生徒ノ區分ハ教育總監之ヲ裁定ス

○ 陸軍地方幼年學校條例改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十一年十月一日

陸軍大臣子爵桂 太郎

勅令第二百二十九號

陸軍地方幼年學校條例

第一條 陸軍地方幼年學校ハ陸軍將校ニ出身志願ノ者ヲ選拔シテ生徒ト爲シ軍事上ノ必要ヲ顧慮シテ普通學科ヲ教授シ軍人精神ヲ涵養シ陸軍中央幼年學校生徒ト爲スヘキ者ヲ養成スル所トス

第二條 陸軍地方幼年學校ハ左ノ六箇所ニ置ク

東京 仙臺 名古屋 大阪 廣島 熊本

第三條 生徒ノ教育ハ之ヲ分テ教授及訓育トシ其綱領ハ陸軍大臣ノ認可ヲ請ケ教育總監之ヲ定ム

第四條 生徒教育ノ實施ハ原則ニ依ル該教則ハ前條ノ教育綱領ニ基キ校長案ヲ具シ教育總監ニ上申シ軍中央幼年學校長ヲ經由ス以下條ノ教育總監之ヲ裁定ス

第五條 本校ニ左ノ職員ヲ置ク

- 校長
- 副官
- 教官
- 生徒監
- 軍醫
- 軍吏
- 下士、判任文官
- 陸軍教授、陸軍助教
- 中尉
- 大中尉

校長以下將校同相當官及下士ハ豫備役備役ノ者ヲ以テ充ツルコトヲ得其身分取扱ハ召集中ノ者

ニ同シ

第六條 校長ハ教育總監ハ東京陸軍地方幼年學校長ニ隸シ校務ヲ總理シ生徒教育ノ責ニ任ス

第七條 副官ハ校中一般ノ庶務ヲ掌ル

第八條 教官ハ各學科ノ授業ヲ分擔ス

教官中適任者一名ヲ選テ教頭ト爲シ教授部全般ノ授業ヲ監視シ校長ニ對シ齊一進歩ノ責ニ任セ

第九條 生徒監ハ生徒ノ訓育ヲ擔任シ軍人精神ヲ涵養シ日常其躬行ヲ監視シ自ラ模範ト爲リテ之ヲ指導シ其成績ニ就テハ專ラ擔保ノ責ニ任ス

第十條 生徒ノ修學期ハ九月一日ヨリ第四年ノ八月下旬ニ至ル三十六箇月トシ之ヲ三學年ニ分チ各學年ハ毎年九月一日ヨリ開始ス

第十一條 生徒ハ總テ校内ニ寄宿セシム

生徒ハ入學中被服糧食其他ノ費用トシテ若干ノ納金ヲ爲スモノトス之ヲ自費生ト稱ス

第十二條 生徒中左ノ各項ニ該ル者ハ列記ノ順序ニ從ヒ資産ヲ願慮シ若干名ヲ限リテ特ニ納金ノ全額ヲ免除スルコトヲ得之ヲ特待生ト稱ス

一 戰死及戰傷ニ依リ死歿シ又ハ戰役中危難ヲ冒シタルニ起因シテ死歿シタル陸海軍將校及同相當官並ニ高等文官ノ孤兒

二 現職中公務ノ爲メニ死歿シタル陸海軍將校及同相當官ノ孤兒

三 增加恩給權ヲ得タル陸海軍將校及同相當官ノ孤兒

四 恩給權ヲ得タル陸海軍將校及同相當官ノ孤兒

五 特ニ國家ニ功勞アル高等官ノ孤兒

第十三條 生徒中左ノ各項ニ該ル者ハ列記ノ順序ニ從ヒ資産ヲ願慮シ若干名ヲ限リテ特ニ納金ノ

内大被服及精米料ヲ免除スルコトヲ得之ヲ半特待生ト稱ス但前條ノ各項ニ該ル者ノ内特待生ト爲サ、ル者ハ之ヲ半特待生ト爲スコトヲ得

一 現職ニ在ル陸海軍尉官及同相當官ノ兒子

二 恩給權ヲ得タル陸海軍尉官及同相當官ノ兒子

三 陸海軍少佐及同相當官ニ名譽進級ヲ爲シタル者ノ兒子

第十四條 家督相續者タル養子ハ前二條中ノ孤兒或ハ兒子ニ準ス

第十五條 特待生半特待生ト爲スヘキ人員及其區分ハ陸軍大臣之ヲ定ム

第十六條 本條例中孤兒及兒子ハ總テ同戶籍内ニ現在スルモノニ限ル又一家ヨリ重複シテ特待ヲ受クルヲ得サルモノトス

第十七條 特待生半特待生及自費生ノ納金額ハ陸軍大臣之ヲ定ム

第十八條 生徒中止ムヲ得サル事故アリテ退校ヲ願出ル者アルトキハ其事情ニ依リ之ヲ許スコトアルヘシ

第十九條 生徒中左ノ事項ニ該ル者ハ退校セシム

一 學術ノ修得全カラズシテ卒業ノ目途ナキ者

二 屢法則ヲ犯シ又ハ品行不正ニシテ改後ノ目途ナキ者

三 傷疾疾病ニ依リ修學ニ堪ヘサル者

四 卒業試験ニ落第セシ者

第二十條 生徒中各學年ニ於テ所定ノ學科ヲ修メ得サル者或ハ疾病等ニ依リ卒業試験ヲ受ケ得サル者又ハ卒業試験ニ落第セシ者ト雖モ尙望ミアル者ハ一學年延期修學セシムルコトヲ得

第二十一條 前二條ニ該ル者アルトキハ校長其事由ヲ具シ教育總監ニ上申シ教育總監之ヲ裁定處分ス

第二十二條 生徒修學期末ニ至レハ校長ハ卒業試験規格ヲ撰シ教育總監ニ上申ス教育總監ハ之ヲ裁定シ校長ヲシテ卒業試験ヲ行ハシム

第二十三條 卒業試験ヲ終レハ校長ハ各教官生徒監ヲ集メ會議ヲ開キ成績ヲ調査シ考科列序ヲ定メ教育總監ノ認可ヲ請ケ及第者ニ卒業證書ヲ附與ス

第二十四條 教育總監ハ地方幼年學校長ヲシテ前條卒業者ニ中央幼年學校ハ入學ヲ命ゼシム

第二十五條 前條ノ生徒ハ中央幼年學校ニ入校ノ期日ニ至ル迄休暇ヲ與ヘ歸省又ハ他行ヲ許スコトヲ得但此間ニ於ケル生徒ノ身分ハ地方幼年學校ニ屬ス

第二十六條 毎年生徒ニ五週間以内ノ夏期休暇ヲ與フルコトヲ得

朕陸軍乘馬學校條例ヲ廢シ陸軍騎兵實施學校條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十一年十月一日

陸軍大臣子爵桂 太郎

勅令第二百三十號

陸軍騎兵實施學校條例

第一條 陸軍騎兵實施學校ハ學生ニ戰術及馬術ノ訓練ヲ爲シ以テ各隊教育ノ進歩ヲ圖リ常ニ諸科學術ノ調査研究ヲ爲シ且乘馬具及馬匹器具ノ研究並試驗ヲ行フ所トス

第二條 學生ヲ分テ左ノ二種トス

一 戰術科學生ハ騎兵大中尉ヲ以テ之ニ充ツ但時トシテ少尉ヲ以テ學生ト爲スコトアルヘシ

二 馬術科學生ハ騎兵中少尉及下士ヲ以テ之ニ充ツ但時トシテ野戰砲兵、輜重兵、士官及下士ヲ以テ學生ト爲スコトアルヘシ

第三條 戰術研究ノ爲メ時トシテ教官ヲ召集スルコトヲ得但修學期日ハ其時々教育總監ノ上申ニ依リ陸軍大臣之ヲ定ム

第四條 學生ノ訓練ニ供シ且諸般ノ研究ニ充ツル爲メ本校ニ教導中隊ヲ置キ騎兵隊ヨリ下士兵卒ヲ分遣シテ之ヲ編成ス

第五條 本校ニ左ノ職員ヲ置ク

校長 大中佐

副官 大中尉

教官 中少佐、大中尉、獸醫

教導中隊長 大尉

教導中隊附 中尉

厩長 大尉

調馬手長 中尉

軍醫

獸醫

軍吏

准士官、下士、判任文官

第六條 校長ハ騎兵監ニ隸シ校務ヲ總理シ學術進歩ノ責ニ任ス但乘馬具及馬匹器具ノ研究及試験ニ關シテハ陸軍砲兵會議議長ノ區處ヲ受ク

第七條 副官ハ校中一般ノ庶務ヲ掌ル

第八條 教官ハ戰術及馬術科學術ノ授業ヲ分擔シ且其各科ニ於ケル學術ノ調査研究並乘馬具及馬匹器具ノ研究及試験ニ任シ高級故參ノ教官ヲ以テ各科ノ科長トス

第九條 厩長ハ校厩一切ノ事ヲ統ヘ馬匹ノ調教ニ任ス

第十條 調馬手長ハ厩長ニ隸シ馬匹ノ調教ヲ掌ル

第十一條 教導中隊ノ中隊長以下ノ服務ハ軍隊内務ノ定則ヲ適用ス

第十二條 學生ノ修學期ハ各科トモ概ネ十一月箇月トス

第十三條 學生ノ人員及入校期日ハ其時々教育總監ノ上申ニ依リ陸軍大臣之ヲ告達ス

第十四條 學生分遣ノ告達アレハ師團長ハ隊長ヲシテ各科ノ修學ニ適當ノ者ヲ選定シ入校期二十日前ニ其兵籍寫ニ考科表寫ヲ添ヘテ騎兵實施學校長ニ送達セシムヘシ

第十五條 學生士官ハ校外ニ同下士ハ校内ニ居住セシメ修學ニ所要ノ兵器、馬匹、馬具、書籍器具、消耗品ハ貸與又ハ支給スルコトアルヘシ但下士學生ハ所屬隊ヨリ其武器、被服、裝具ヲ携行セシム

第十六條 學生中ノ願居其他業務ニ關スル諸件ハ總テ校長ノ管理ニ屬ス

第十七條 學生ハ情願ヲ以テ退校スルヲ許サスト雖モ疾病及其他ノ事故ニ依リ學術修得ノ目途ナキ者ハ校長其事由ヲ具シ騎兵監ノ認可ヲ請ケ退校セシム

第十八條 校長ハ修學期末ニ於テ各教官ヲ集メ會議ヲ開キ學生修學ノ成績ヲ調査シ騎兵監ノ認可ヲ請ケ士官ニ在テハ修得證明書ヲ作り署名捺印シ下士ニ在テハ考科列序表ヲ製シ師團長ヲ經テ本人所屬ノ隊長ニ送付シ又下士ニハ更ニ學術修業ノ證書ヲ附與シ學生ヲ歸隊セシム

第十九條 教導中隊ハ分遣ノ下士兵卒ハ現役尙一箇年以上ノ期アル下士兵卒中ヨリ選拔スヘシ

第二十條 教導中隊ハ分遣ノ下士兵卒ハ所屬隊ヨリ其武器、馬具、被服、裝具ヲ携行セシメ分遣中ハ特別ノ徽章ヲ附セシム

第二十一條 教官ハ教育上便宜ノ時期ニ於テ隊附勤務ヲ爲サシムルコトアルヘシ

附則

第二十二條 當分ノ内必要ニ應シ學生ノ修學期ヲ短縮シ及戰術科學生ヲ一箇年二回召集スルコトヲ得

第二十三條 陸軍乘馬學校條例ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

朕陸軍野戰砲兵射擊學校條例改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十一年十月一日

陸軍大臣子爵桂 太郎

勅令第三百三十一號

陸軍野戰砲兵射擊學校條例

第一條 陸軍野戰砲兵射擊學校ハ學生ニ野戰砲兵ノ射擊及戰術ノ訓練ヲ爲シ以テ各隊教育ノ進歩ヲ圖リ常ニ射擊及戰術ノ調査研究ヲ爲シ且野戰砲兵材料ノ研究並試驗ヲ行フ所トス

第二條 學生ハ野戰砲兵大尉ヲ以テ之ニ充ツ但時トシテ少尉ヲ以テ學生ト爲スコトアルヘシ

第三條 前條ノ外時トシテ佐官ヲ召集シ所要ノ修學ヲ爲サシムルコトヲ得但修學期日ハ其時々教育總監ノ上申ニ依リ陸軍大臣之ヲ定ム

第四條 學生ノ訓練ニ供シ且諸般ノ研究ニ充ツル爲メ本校ニ教導大隊ヲ置キ野戰砲兵隊ヨリ下士兵卒ヲ分遣シテ之ヲ編成ス

第五條 本校ニ左ノ職員ヲ置ク

校長 大佐
 副官 大尉
 教官 中少佐、大尉

教導大隊長 中少佐

教導大隊副官 中尉

教導大隊中隊長 大尉

教導大隊附 中尉

軍醫

軍吏

准士官(下士)判任文官

第六條 校長ハ野戰砲兵監ニ隸シ校務ヲ總理シ學術進歩ノ責ニ任ス但野戰砲兵材料ノ研究及試驗ニ關シテハ陸軍砲兵會議議長ノ區處ヲ受ク

第七條 副官ハ校中一般ノ庶務ヲ掌ル

第八條 教官ハ各學術科ノ授業ヲ分擔シ且野戰砲兵ニ關スル學術材料ノ調査研究及試驗ニ任ス

第九條 教導大隊ノ大隊長以下ノ服務ハ軍隊内務ノ定則ヲ適用ス

第十條 學生ノ修學期ハ概ネ三箇月トシ毎年二回ニ分テ入校セシム

第十一條 學生ノ人員及入校期日ハ其時々教育總監ノ上申ニ依リ陸軍大臣之ヲ告達ス

第十二條 學生分遣ノ告達アレハ師團長ハ隊長ヲシテ修學ニ適當ノ者ヲ選定シ入校期二十日前ニ其兵籍寫ニ考科表寫ヲ添ヘテ野戰砲兵射擊學校長ニ送達セシムヘシ

第十三條 學生ハ校外ニ居住セシメ修學ニ所要ノ兵器彈藥馬匹馬具書籍器具ハ貸與スルコトヲ得

第十四條 學生中ノ願居其他業務ニ關スル諸件ハ總テ校長ノ管理ニ屬ス

第十五條 學生ハ情願ヲ以テ退校スルヲ許サスト雖モ疾病及其他ノ事故ニ因リ學術修得ノ目途ナ

キ者ハ校長共事由ヲ具シ野戰砲兵監ノ認可ヲ請ケ退校セシム

第十六條 校長ハ修學期末ニ於テ各教官ヲ集メ會議ヲ開キ學生修學ノ成績ヲ調査シ野戰砲兵監ノ認可ヲ請ケ修得證明書ヲ作り署名捺印シ師團長ヲ經テ本人所屬ノ隊長ニ送付シ學生ヲ歸隊セシム

第十七條 教導大隊ハ分遣ノ下士兵卒ハ現役尙一箇年以上ノ期アル下士兵卒中ヨリ選拔スヘシ

第十八條 教導大隊ハ分遣ノ下士兵卒ハ所屬隊ヨリ其武器、被服、裝具ヲ携行セシメ分遣中ハ特別ノ徽章ヲ附セシム

第十九條 教官ハ教育上便宜ノ時期ニ於テ隊附勤務ヲ爲サシムルコトアルヘシ

除陸軍要塞砲兵射擊學校條例改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十一年十月一日

陸軍大臣子爵桂 太郎

勅令第二百三十二號

陸軍要塞砲兵射擊學校條例

第一條 陸軍要塞砲兵射擊學校ハ學生ニ要塞砲兵ノ射擊及戰術ノ訓練ヲ爲シ以テ各隊教育ノ進歩ヲ圖リ常ニ射擊及戰術ノ調査研究ヲ爲シ且要塞砲兵材料ノ研究並試驗ヲ行ヒ又生徒ニ要塞砲兵下士タルニ必要ナル教育ヲ爲ス所トス

第二條 學生ハ要塞砲兵大中尉及下士ヲ以テ之ニ充ツ但時トシテ少尉ヲ以テ學生ト爲スコトアルヘシ

生徒ハ要塞砲兵下士ニ出身志願ノ者ヲ選拔シテ採用ス

第二條 前條ノ外時トシテ佐官ヲ召集シ所要ノ修學ヲ爲サシムルコトヲ得但修學期日ハ其時々教育總監ノ上申ニ依リ陸軍大臣ノヲ定ム

第四條 生徒ノ教育ハ之ヲ分テ教授及訓育トシ其綱領ハ要塞砲兵監察ヲ具シ教育總監ノ認可ヲ請ケ之ヲ定ム

第五條 生徒教育ノ實施ハ效則ニ依ル該效則ハ前條ノ教育綱領ニ基キ校長案ヲ具シ要塞砲兵監ノ認可ヲ請ケ之ヲ定ム

第六條 學生ノ訓練ニ供シ且諸般ノ研究ニ充ツル爲メ本校ニ教導中隊ヲ置キ要塞砲兵隊ヨリ下士兵卒ヲ分遣シテ之ヲ編成ス

第七條 本校ニ左ノ職員ヲ置ク

- 校長 大中佐
- 副官 大中尉
- 教官 中少佐、大中尉
- 生徒隊長 大尉
- 生徒隊附 中尉
- 教導中隊長 大尉
- 教導中隊附 中尉
- 軍醫 中尉
- 軍吏
- 准士官下士判任文官

第八條 校長ハ要塞砲兵監ニ隸シ校務ヲ總理シ學術進歩ノ責ニ任ス但要塞砲兵材料ノ研究及試驗ニ關シテハ陸軍砲兵會議議長ノ區處ヲ受ク

- 第九條 副官ハ校中一般ノ庶務ヲ掌ル
- 第十條 教官ハ學生學術科ノ授業ヲ分擔シ且要塞砲兵ニ關スル學術材料ノ調査研究及試験ニ任ス
- 第十一條 生徒隊長ハ生徒隊一般ノ事ヲ管理シ生徒隊附士官ヲ指揮シ生徒ノ教育ヲ擔任シ其成績ニ就テハ專ラ擔保ノ責ニ任ス
- 第十二條 生徒隊附士官ハ生徒教育ノ諸科目ヲ分擔シ日常生徒ノ躬行ヲ監視シ分擔ノ教育ニ就テハ共責ニ任ス
- 第十三條 教導中隊ノ中隊長以下ノ服務ハ軍隊内務ノ定則ヲ適用ス
- 第十四條 學生ノ修學期ハ概ネ四箇月トシ毎年二回ニ分テ入校セシム
- 第十五條 學生ハ人員及入校期日ハ其時々教育總監ノ上申ニ依リ陸軍大臣之ヲ告達ス
- 第十六條 學生分遣ノ告達アレハ師團長ハ隊長ヲシテ修學ニ適當ノ者ヲ選定シ入校期二十日前ニ其兵籍寫ニ考科表寫ヲ添ヘテ要塞砲兵射擊學校長ニ送達セシムヘシ
- 第十七條 學生士官ハ校外ニ同下士ハ校内ニ居住セシメ修學ニ所要ノ兵器、彈藥、書籍、器具、消耗品ハ貸與又ハ支給スルコトアルヘシ但下士學生ハ所屬隊ヨリ其武器、被服、裝具ヲ携行セシム
- 第十八條 學生中ノ願用其他業務ニ關スル諸件ハ總テ校長ノ管理ニ屬ス
- 第十九條 學生ハ情願ヲ以テ退校スルヲ許サズトモ疾病及其他ノ事故ニ依リ學術修得ノ目途ナキ者ハ校長其事由ヲ具シ要塞砲兵監ノ認可ヲ請ケ退校セシム
- 第二十條 校長ハ學生ノ修學期末ニ於テ各教官ヲ集メ會議ヲ開キ學生修學ノ成績ヲ調査シ要塞砲兵監ノ認可ヲ請ケ士官ニ在テハ修得證明書ヲ作り署名捺印シ下士ニ在テハ考科列序表ヲ製シ師團長ヲ經テ本人所屬ノ隊長ニ送付シ又下士ニハ更ニ學術修業ノ證書ヲ附與シ學生ヲ歸隊セシム
- 第二十一條 生徒ノ修學期ハ毎年六月一日ヨリ翌年十一月下旬ニ至ル十八箇月トス

- 第二十二條 生徒ノ諸給與ハ別ニ定ムル所ノ規定ニ據ル
- 第二十三條 生徒ハ情願ヲ以テ退校スルヲ許サズ
- 第二十四條 生徒中左ノ事項ニ該ル者ハ退校セシム
 - 一 學術ノ修得全カラスシテ卒業ノ目途ナキ者
 - 二 軍紀ヲ紊リ又ハ屢法則ヲ犯ス者
 - 三 品行不正ニシテ改悛ノ目途ナキ者
 - 四 傷疾疾病ニ依リ修學ニ堪ヘサル者
 - 五 卒業試験ニ落第セシ者
- 第二十五條 生徒中疾病及其他ノ事故ニ依リ卒業試験ヲ受ケ得サル者又ハ卒業試験ニ落第スルモ尙望ミアル者ハ滯學ヲ命スルコトヲ得
- 第二十六條 前二條ニ該ル者アルトキハ校長其事由ヲ具シ要塞砲兵監ノ認可ヲ請ケ之ヲ處分ス
- 第二十七條 生徒修學期末ニ至レハ校長ハ卒業試験規格ヲ撰シ要塞砲兵監ニ上申ス要塞砲兵監ハ之ヲ裁定シ校長ヲシテ卒業試験ヲ行ハシム
- 第二十八條 卒業試験ヲ終レハ校長ハ其成績ヲ調査シ考科列序ヲ定メ要塞砲兵監ノ認可ヲ請ケ及第者ニ卒業證書ヲ附與ス
- 第二十九條 滯學ヲ命セラレタル生徒修學ヲ終レハ前諸條ニ準シテ取扱フモノトス
- 第三十條 教導中隊ハ分遣ノ下士兵卒ハ現役尙一箇年以上ノ期アル下士兵卒中ヨリ選拔スヘシ
- 第三十一條 教導中隊ハ分遣ノ下士兵卒ハ所屬隊ヨリ其武器、被服、裝具ヲ携行セシメ分遣中ハ特別ノ徽章ヲ附セシム
- 第三十二條 教官及生徒隊附士官ハ教育上便宜ノ時期ニ於テ隊附勤務ヲ爲サレムルコトアルヘシ

朕陸軍衛生材料廠條例中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十一年十月一日

陸軍大臣子爵桂 太郎

勅令第二百三十三號

陸軍衛生材料廠條例第九條中「臺灣守備混成旅團獸醫部長」ヲ「臺灣陸軍獸醫部長」ニ改ム

〔參照〕

勅令第四十二號陸軍衛生材料廠條例(明治三十一年三月二十六日官報)抄録
第九條 當分ノ内臺灣ニ於ケル衛生材料ノ事務ハ臺灣守備混成旅團司令部所在地ノ衛戍病院長ヲシテ扱ハシメ獸醫材料ノ事務ハ臺灣守備混成旅團獸醫部長ヲシテ扱ハシム

朕臺灣守備混成旅團司令部條例中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十一年十月一日

陸軍大臣子爵桂 太郎

勅令第二百三十四號

臺灣守備混成旅團司令部條例中左ノ通改正ス

第三條中「軍法會議ヲ管轄」ノ八字ヲ削ル

第九條 混成旅團長ハ匪徒鎮壓及出戰準備ニ關スル兵器彈藥ノ事ニ就テハ兵器本廠長(支廠長)ニ命令スルノ權ヲ有ス

第十條 混成旅團司令部ニ旅團長ノ外左ノ職員ヲ置ク

參謀 少佐大尉

副官

大中尉

司令部附

二等軍醫正

書記

下士

第十二條 司令部ノ各將校及同相當官ハ旅團長ノ區處ヲ受ケ各自擔任ノ事務ヲ掌ル

附則

第十二條 當分ノ内臺灣守備混成第一旅團長ハ軍法會議ヲ管轄ス

第十三條及第十四條ヲ削ル

〔參照〕

勅令第二百二十二號臺灣守備混成旅團司令部條例(明治二十九年四月七日官報)抄録

第三條 混成旅團長ハ守備區内ニ在ル陸軍各部各隊ノ軍紀風紀ヲ統監シ軍法會議ヲ管轄ス

第九條 混成旅團長ハ部下軍隊ノ給養及匪徒鎮壓並出戰準備ニ關スル會計經理ノ事ニ就テハ當該旅團監督部長ニ其旅團ノ兵器彈藥ニ關スル事ニ就テハ兵器本廠長(支廠長)ニ命令スルノ權ヲ有ス

第十條 混成旅團司令部ハ左ノ各部ヨリ成ル

一 參謀部

二 副官部

參謀部及副官部ヲ合シテ參謀ト稱ス

三 軍醫部

四 獸醫部

五 法官部

第十一條 參謀長ハ副官ノ事務ヲ統監シ混成旅團長ニ對シ事務整理ノ責ニ任ス

第十二條 參謀ノ各將校及軍吏ハ參謀長ノ監視ヲ受ケ各自擔任ノ事務ヲ掌ル

第十三條 軍醫部長獸醫部長及法官部長ハ混成旅團長ニ對シ各其主任ノ事ニ就キ事務整理ノ責ニ任ス

第十四條 幕僚ノ各將校及軍吏並ニ各部長ヨリ混成旅團長ニ具申スヘキ事ニ就テハ先ツ參謀長ノ承認ヲ得ヘキモノトス

朕臺灣陸軍監督部條例改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十一年十月一日

陸軍大臣子爵桂 太郎

勅令第二百三十五號

臺灣陸軍監督部條例

第一條 臺灣陸軍監督部ハ之ヲ臺北ニ置キ臺灣ニ於ケル軍隊ノ會計事務ヲ監督シ陸軍官衙ノ會計事務ヲ監視シ總テ官金ノ收支官有物ノ出納ニ關スル計算及物件兵器彈藥馬匹ヲ檢查シ及臺灣所在ノ軍吏部士官下士ノ人事ヲ掌ル所トス

第二條 監督部ニ左ノ職員ヲ置ク

部長

部員

前項ノ外下士並判任文官ヲ置ク

第三條 部長ハ臺灣總督ニ隸シテ部務ヲ總理シ且臺灣陸軍監督部ヲ管理シ總テ管掌ノ事務ニ就テハ其ノ責ニ任ス

第四條 部長ハ官衙及軍隊ノ會計上ニ就テ必要アルトキハ當該長官又ハ主任官吏ニ其ノ辨明ヲ求ムルコトヲ得

第五條 部長ハ官衙及軍隊ノ會計上ノ閱檢ヲ行ヒ廢品兵器彈藥馬匹ノ檢查及其ノ賣却ヲ許可シ又必要ニ際シ官衙軍隊ノ金糧物件及帳簿ヲ檢查ス

第六條 部長ヨリ臺灣總督ニ具申スヘキ事項ニ就テハ先ツ臺灣總督府陸軍幕僚參謀長ニ開陳スヘ

第七條 部員ハ部長ノ命ヲ受ケ部務ヲ分掌シ其ノ責ニ任ス

附則

本條例ハ明治三十一年十一月一日ヨリ施行ス

朕臺灣陸軍監督部條例改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十一年十月一日

陸軍大臣子爵桂 太郎

勅令第二百三十六號

臺灣陸軍監督部條例

第一條 臺灣陸軍監督部ハ之ヲ臺北ニ置キ臺灣ニ於ケル陸軍所屬ノ陣營庫倉庫其ノ他ノ建造物並地所ヲ管理シ建築修繕ノ事ヲ擔任シ且其ノ經理ヲ掌ル所トス

第二條 監督部ハ必要ニ應シ出張所ヲ設クルコトヲ得其ノ位置ハ臺灣總督陸軍大臣ニ稟議シテ之ヲ定ム

第三條 經營部ニ左ノ職員ヲ置ク

主管

計算官

前項ノ外判任文官ヲ置ク

一等軍吏

二等軍吏

第四條 主管ハ臺灣陸軍監督部長ニ隸シ部務ヲ總理シ管掌ノ事務ニ就テハ其ノ責ニ任ス

第五條 計算官ハ主管ノ命ヲ受ケ部務ニ服ス

附則

本條例ハ明治三十一年十一月一日ヨリ施行ス

朕臺灣陸軍軍醫部條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十一年十月一日

陸軍大臣子爵桂 太郎

勅令第二百三十七號

臺灣陸軍軍醫部條例

第一條 臺灣陸軍軍醫部ハ臺北ニ置キ臺灣總督ノ所轄内ニ於ケル軍隊官衙ノ衛生事務ヲ統轄スル所トス

第二條 軍醫部ニ左ノ職員ヲ置ク

部長 一、二等軍醫正

部員 軍醫

前項ノ外下士並判任文官ヲ置ク

第三條 部長ハ臺灣總督ニ隸シ部務ヲ總理シ管掌ノ事務ニ就テハ其ノ責ニ任ス

第四條 部長ヨリ臺灣總督ニ具申スヘキ事項ニ就テハ先ツ臺灣總督府陸軍幕僚參謀長ニ開陳スヘ

第五條 部員ハ部長ノ命ヲ受ケ部務ニ服ス

朕臺灣陸軍軍醫部條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十一年十月一日

陸軍大臣子爵桂 太郎

勅令第二百三十八號

臺灣陸軍獸醫部條例

第一條 臺灣陸軍獸醫部ハ之ヲ臺北ニ置キ臺灣總督ノ所轄内ニ於ケル獸醫ノ管掌スヘキ諸般ノ事項ヲ統轄スル所トス

第二條 獸醫部ニ左ノ職員ヲ置ク

部長 獸醫監

部員 獸醫

前項ノ外下士並判任文官ヲ置ク

第三條 部長ハ臺灣總督ニ隸シ部務ヲ總理シ管掌ノ事務ニ就テハ其責ニ任ス

第四條 部長ヨリ臺灣總督ニ具申スヘキ事項ニ就テハ先ツ臺灣總督府陸軍幕僚參謀長ニ開陳スヘ

第五條 部員ハ部長ノ命ヲ受ケ部務ニ服ス

朕陸軍所屬特別文官俸給令中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十一年十月三日

内閣總理大臣伯爵大隈重信
陸軍大臣子爵桂 太郎

勅令第二百三十九號 (官報 十月四日)

陸軍所屬特別文官俸給令中左ノ通改正ス

第三條中陸地測量師ノ上ニ陸軍教授ヲ加フ

第一表中陸軍教授ヲ削リ「理事」ノ次ニ左ノ一欄ヲ加フ

陸軍教授	二千五百圓	二千二百圓	二千圓	千八百圓	千五百圓	千二百圓	千圓	八百圓	七百圓	六百圓
------	-------	-------	-----	------	------	------	----	-----	-----	-----

〔參照〕

勅令第七十五號陸軍所屬特別文官俸給令(明治二十六年十月三十一日官報)抄録

第三條 陸地測量師及軍馬補充技師ニハ第一表定ムル所ノ年俸最低額以下ヲ給スルコトヲ得

第一表中

官名	年俸											
	一等	二等	三等	四等	五等	六等	七等	八等	九等	十等	十一等	十二等
陸軍教授	二千五百圓	二千二百圓	二千圓	千八百圓	千五百圓	千二百圓	千圓	八百圓	七百圓	六百圓		
陸軍測量師	千八百圓	千六百圓	千四百圓	千二百圓	千圓	八百圓	七百圓	六百圓	五百圓			

朕高等官官等俸給令中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十一年十月三日

内閣總理大臣伯爵大隈重信

勅令第二百四十號 (官報 十月四日)

高等官官等俸給令中左ノ通改ム

文武高等官官等表中陸軍省ノ部ニ等ノ欄ニ「陸軍教授」四等ノ欄ニ「同上」ヲ加ヘ五等ノ欄「陸軍教授」ヲ同上ニ改ム

高等文官官等相當俸給表中「陸軍教授」ヲ削ル

朕臨時陸軍建築部官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十一年十月三日

内閣總理大臣伯爵大隈重信
陸軍大臣子爵桂 太郎

勅令第二百四十一號 (官報 十月四日)

臨時陸軍建築部官制中左ノ通改正ス

第二條 臨時陸軍建築部ヲ東京ニ置キ各地ニ支部ヲ置ク其ノ位置管轄區域ハ陸軍大臣之ヲ定ム

〔參照〕

勅令第三十一號臨時陸軍建築部官制(明治二十九年三月二十三日官報)抄録

第二條 臨時陸軍建築部ヲ東京ニ置キ各地ニ支部ヲ置ク其ノ位置管轄區域ハ左ノ如シ

第一師管内 東京
第二師管内 仙臺
第三師管内 名古屋

- 第九條 臨時委員ハ各検査場ニ就キ試験ヲ實施スルモノニシテ其都度各師團長部下將校團長若クハ佐官中ヨリ所要ノ人員ヲ選シテ之ヲ命ス
- 臨時委員ハ試驗實施ノ事ニ關シテハ師團長ニ對シ責ニ任ス
- 第十條 師團長ハ前條臨時委員ノ外受験者ノ數ニ應シ部下大中尉ニ命シ試験ノ事務ヲ補助セシムルコトヲ得
- 第十一條 臨時委員ハ書記トシテ准士官下士若干ヲ使用スルコトヲ得
- 第十二條 師團長ハ試驗實施ノ事ニ關シテハ陸軍大臣ニ對シ責ニ任ス

除臺灣陸軍補給廠條例改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十一年十月五日

陸軍大臣子爵桂 太郎

勅令第二百四十六號(官報十月六日)

臺灣陸軍補給廠條例

- 第一條 臺灣陸軍補給廠ハ陸軍大臣ノ監督ニ屬シ在臺灣陸軍ニ要スル軍需品(兵器彈藥馬匹衝ノ供給及内地臺灣間並臺灣海陸ノ運輸及輕便鐵道ノ事ヲ掌ル所トス)
- 第二條 臺灣陸軍補給廠ハ本廠及支廠ヨリ成ル
- 補給廠ノ本廠ハ之ヲ臺北ニ置キ支廠ヲ宇品基隆臺中及臺南ニ置ク
- 第三條 廠長ハ必要ノ地ニ出張所及停車場ヲ置クコトヲ得

- 第四條 患者輸送並收容ノ爲メ基隆支廠ノ下ニ病院船ヲ宇品支廠ノ下ニ患者集合所ヲ置ク
- 第五條 支廠及出張所並停車場ハ所在ノ地名ヲ附シ臺灣陸軍補給廠某地支廠若クハ某地出張所又ハ某地停車場ト稱ス
- 第六條 補給廠ニ左ノ職員ヲ置ク

本廠
廠長 大佐
廠員 少佐、大中尉、三等監督、監督補軍吏

支廠
支廠長 中少佐
廠員 大中尉、軍醫、軍吏

- 前項ノ外下士並判任文官ヲ置ク
- 第七條 廠長ハ陸軍大臣ニ隸シ廠務ヲ總理シ管掌ノ事務ニ於テハ其責ニ任ス
- 第八條 廠長ハ臺灣總督ト連絡ヲ保チ相互ノ計畫ニ就キ阻礙ナカラシムルヲ要ス但事變ニ際シ必要ノ場合ニ在リテハ同總督ノ命ヲ受ケルモノトス
- 第九條 支廠長ハ廠長ノ命ヲ受ケ各其廠務ヲ掌理ス
- 第十條 廠員ハ各其長ノ命ヲ受ケ分擔ノ事務ニ服ス
- 第十一條 補給廠業務ノ區域ハ補給廠長臺灣總督ニ稟請シ之ヲ定ム
- 附則
- 第十二條 營分ノ内在韓國諸部隊ニ於ケル人馬軍需品ノ海上輸送ハ臺灣陸軍補給廠ニ於テ之ヲ掌ル
- 第十三條 本條例ハ本年十一月一日ヨリ施行ス

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ海軍召集條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十一年十月六日

海軍大臣侯爵西郷從道

勅令第二百四十七號 (官報十月七日)
海軍召集條例

第一章 總則

- 第一條 本條例ハ豫備役後備役ニ在ル海軍軍人ノ召集ニ關スルコトヲ規定ス
- 第二條 准士官以上ノ召集ハ海軍大臣之ヲ行ヒ下士卒ノ召集ハ鎮守府司令長官之ヲ行フ
- 第三條 戒嚴ヲ宣告シ得ルノ權アル諸官時機切迫シ命ヲ請フノ暇ナキトキハ獨斷ニテ豫備役後備役下士卒ノ召集ヲ行フコトヲ得
- 第四條 鎮守府司令長官ハ部下將校ヲシテ定期若ハ臨時ニ諸官衙及公署ニ於ケル召集事務ノ整否ヲ検査セシムヘシ
- 第五條 地方長官警視總監憲兵司令官憲兵隊長ハ其ノ所部召集事務ノ整否ヲ検査シ又ハ部下官吏ヲシテ之ヲ検査セシムヘシ
- 第六條 召集ニ關スル細則及旅費支給ノ方法ハ海軍大臣之ヲ定ム
- 第七條 召集ハ充員召集演習召集及簡閱點呼ノ三種トス
- 第八條 充員召集トハ戰時若ハ事變ニ際シ充員ヲ行フ爲メ豫備役後備役軍人ノ一部又ハ全部ヲ召集スルヲ謂フ

充員召集事務ニ關シ責任ヲ有スル者ハ豫メ之ニ關スル諸行務ヲ整備シ置キ召集實施ニ際シ凝滞ナキヲ期スヘシ

- 第八條 演習召集トハ演習ヲ行フ爲メ平時ニ於テ豫備役後備役軍人ヲ召集スルヲ謂フ
- 第九條 演習召集ヲ大演習召集及小演習召集ノ二種ニ分ツ
- 第十條 大演習召集トハ大演習施行ノ際豫備役後備役軍人ノ全部若ハ一部ヲ召集スルヲ謂ヒ小演習召集トハ小演習施行ノ際豫備役後備役下士卒ノ全部若ハ一部ヲ召集スルヲ謂フ
- 第十一條 簡閱點呼トハ豫備役後備役下士卒ヲ實査スル爲メ定期ヲ定メ其ノ全部若ハ一部ヲ召集スルヲ謂フ
- 第十二條 充員及演習召集ニ應シ到着スヘキ場所ハ豫備役後備役准士官以上ニ在テハ海軍大臣之ヲ定メ豫備役後備役下士卒ニ在テハ其ノ兵籍ヲ管スル海兵團トス
- 第十三條 簡閱點呼ヲ行フ場所ハ簡閱點呼執行官之ヲ定ム
- 第十四條 充員召集及演習召集ニハ召集令狀ヲ發シ簡閱點呼ニハ點呼令狀ヲ發ス
- 第十五條 召集令ハ迅速確實ナル方法ヲ以テ到達スヘシ
- 第十六條 豫備役後備役下士卒ノ一部ヲ召集スルトキハ鎮守府司令長官ハ何年何月以後ニ現役ヲ離レタル者ヲ召集スヘキコトヲ定ム
- 第十七條 豫備役後備役下士卒ノ召集區域ハ海軍志願兵徵募區ノ區域ニ依ル
- 第十八條 召集準備
- 第十九條 召集ノ實施ヲ容易ナラシムル爲メ豫備役後備役准士官以上ノ召集名簿ハ海軍省ニ於テ下士卒ノ召集名簿ハ其ノ兵籍ヲ管スル海兵團ニ於テ整備シ置クヘシ
- 第二十條 准士官以上ノ召集令狀ハ海軍省ニ於テ調製保管シ下士卒ノ召集令狀ハ海兵團ニ於テ調製保管シ置クヘシ

製シ豫メ之ヲ郡市長ニ送付シ郡市長ハ召集ノ發令アルマテ之ヲ保管スヘシ但シ郡長ハ町村長ヲシテ召集令狀ヲ保管セシムルコトヲ得

第十九條 海兵團ニ於テハ旅費證票ヲ作り召集令狀ト共ニ郡市長ニ送付シ置クヘシ但シ郡長ハ町村長ヲシテ之ヲ保管セシムルコトヲ得

第二十條 地方長官ハ市町村長ヲシテ召集ニ應スル者ノ休泊ニ充ツル爲豫メ市町村内ニ於テ海軍軍用旅舎ヲ選定セシメ之ヲ憲兵隊及警察署ニ通知シ置クヘシ

第二十一條 地方長官ハ前條ノ外召集ヲ容易ナラシムル爲相當ノ措置ヲ爲スヘキモノトス

第二十二條 豫備役後備役軍人ハ其ノ本籍地ニ於テ召集ニ應スルヲ例トス但シ本邦ニ在テハ寄留地ニ於テ、外國在留ノ者ニ在テハ其ノ所在地ニ於テ、海員タル者ニ在テハ本人ノ屬スル船舶ノ船籍港若ハ平常運航ノ一港ニ於テ召集ニ應スルコトヲ得

前項但書ニ依リ召集ニ應セントスル者ハ市町村長ヲ經テ准士官以上ニ在テハ海軍大臣ニ下士卒ニ在テハ其ノ兵籍ヲ管スル海兵團長ニ届出ヘシ但シ外國在留ノ者ハ本文ノ手續ヲ爲スト同時ニ在留國ノ領事官貿易事務官ヲ經テ准士官以上ニ在テハ海軍大臣ニ下士卒ニ在テハ其ノ兵籍ヲ管スル海兵團長ニ届出ヘシ

第二十三條 豫備役後備役軍人十四日以上旅行或ハ寄留セントスルトキハ召集通報人ヲ定メ市町村長ヲ經テ准士官以上ニ在テハ海軍大臣ニ下士卒ニ在テハ其ノ兵籍ヲ管スル海兵團長ニ届出テ歸郷シタルトキハ十四日以内ニ市町村長ヲ經テ准士官以上ニ在テハ海軍大臣ニ下士卒ニ在テハ海兵團長ニ届出ヘシ但シ外國へ航海又ハ在留セントスルトキハ其ノ事由ヲ記シ市町村長ノ與書證印ヲ受ケ准士官以上ニ在テハ海軍大臣ニ下士卒ニ在テハ海兵團長ニ届出ヘシ其ノ歸朝シタルトキハ十四日以内ニ市町村長ヲ經テ准士官以上ニ在テハ海軍大臣ニ下士卒ニ在テハ海兵團長ニ届出ヘシ

第三章 充員召集

第二十四條 海軍大臣及鎮守府司令長官ハ充員召集ノ令アリタルトキハ速ニ之ヲ其ノ部下ニ達シ鎮守府司令長官ハ同時ニ地方長官警視總監憲兵隊長東京府ニ在テハ憲兵ニ通知シ必要アルトキハ關係アル領事官貿易事務官ニ通知スヘシ

第二十五條 前條ノ通知アリタルトキハ地方長官ハ之ヲ郡市町村長並召集事務ニ關係アル官吏ニ警視總監憲兵隊長ハ之ヲ其ノ部下ニ達スヘシ

第二十六條 召集令狀保管者充員召集ノ令ヲ受クルトキハ令狀ニ所要ノ記入ヲ爲シ直ニ豫定ノ方法ヲ以テ之ヲ被召集人又ハ召集通報人ニ交付シ受領證ヲ徴スヘシ下士卒ノ召集令狀ニ對スル受領證ハ取纏メ之ヲ海兵團長ニ送付スヘシ

召集通報人ナキ不在者ニ在テハ其ノ戶主本人戸主又ハ戸主不在ナレバ家族中家事ヲ擔當スル者ヨリ受領證ヲ出スヘシ下士卒ノ召集令狀保管者ハ前二項ニ依リ召集令狀ヲ交付シタル者ノ人名並事故アリテ之ヲ交付シ得サルトキハ其ノ人名ヲ記シ事由ヲ速ニ憲兵及警察官吏ニ通知スヘシ

第二十七條 充員召集令ノ達ヲ受ケタル官衙並公署ハ直ニ軍事警報ヲ揭示スルモノトス但シ鎮守府司令長官ハ海軍大臣ノ命ニ依リ之ヲ揭示セシメサルコトヲ得

第二十八條 被召集人ニ代リ召集令狀ヲ受領シタル者ハ直ニ其ノ旨ヲ本人ニ通報シ其ノ令狀ヲ本人ニ交付スルノ手續ヲ爲スヘシ

第二十九條 准士官以上召集令狀ヲ受領シタルトキハ旅費ヲ受領シ速ニ指定ノ場所ニ到着スヘシ前項准士官以上ノ官姓名ハ豫メ海軍省ヨリ到着地ノ長官ニ通知シ長官ハ其ノ到着ノ都度最モ迅速確實ナル方法ニ依リ之ヲ海軍大臣ニ報告スヘシ

第三十條 下士卒召集令狀ヲ受領シタルトキハ旅費及旅費證票ヲ受領シ其ノ令狀ニ指定シタル期日ニ於テ海兵團ニ到着スヘシ

第三十一條 憲兵及警察官吏第二十六條第三項ノ通知ヲ受クルトキハ其ノ被召集人ヲレテ所命ノ期日ニ召集ニ應ゼシムルノ處置ヲ爲スヘシ

第三十二條 召集地ニ到ルノ途中ニ於テ已ムヲ得サル事故ノ爲到著ヲ遲延スル場合ニ在テハ其ノ事故傷病疾病ナルトキハ醫師ノ診斷書ヲ、其ノ他ノ事故ナルトキハ其ノ事故ノ生シタル地ノ市町村長、警察官吏、船長若ハ驛長ニ就キ證明書ヲ受領シ到著ノ上准士官以上ニ在テハ到著地ノ市長官ヲ經テ海軍大臣ニ下士卒ニ在テハ海兵團長ニ差出スヘシ

前項ノ事故ヲ生シタルトキ准士官以上ニ在テハ迅速ナル方法ニ依リ其ノ事故及豫定延滞日數ヲ到著地ノ長官ニ届出テ該長官ハ之ヲ海軍大臣ニ報告スヘシ但シ東京ニ到著スヘキトキハ直接ニ海軍大臣ニ届出ヘシ

第三十三條 召集令狀ノ交付ヲ受クルモ已ムヲ得サル事故ノ爲速ニ出發シ難キカ或ハ豫定期日迄ニ指定ノ場所ニ到著スルコト能ハサル場合ニ在テハ其ノ事故傷病疾病ナルトキハ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ本人ヨリ、旅行犯罪失踪等ナルトキハ召集令狀ヲ受領シタル者ヨリ事由屆書ニ在テハ海軍大臣ニ宛テ下士卒ニ在テハ海兵團長ニ宛テ之ヲ二十四時間以内ニ市町村長ニ差出スヘシ

市町村長前項ノ屆書ヲ受領スルトキハ准士官以上ノモノニ付テハ本人ノ到著スヘキ地ノ長官ヲ經テ海軍大臣ニ下士卒ノモノニ付テハ海兵團長ニ進達スヘシ

第一項ニ依リ屆書ヲ差出シタル場合ニ於テ下士卒ノ召集令狀ハ之ヲ郡市長若ハ町村長ニ返付スヘシ

第三十四條 前條第一項ニ依リ事由屆書ヲ差出シタル場合ニ於テ其ノ事故止ミタルトキハ准士官以上ニ在テハ速ニ海軍省ニ届出テ命ヲ待テ下士卒ニ在テハ速ニ郡市長若ハ町村長ヨリ召集令狀ヲ受取リ其ノ指示ニ從フヘシ

第三十五條 召集シタル下士卒ハ海兵團ニ於テ身體検査ヲ行フ身體検査ニ於テ服役ニ堪ヘスト認

ムルトキハ召集ヲ解キ旅費ヲ給シテ歸郷セシム

第三十六條 召集ノ期ニ後ルル者アルトキハ下士卒ニ在テハ海兵團長准士官以上ニ在テハ到著地ノ長官事實ヲ札シ相當ノ措置ヲ爲スヘシ

第三十七條 下士卒ノ召集完結スルトキハ海兵團長ハ之ヲ鎮守府司令長官ニ報告シ鎮守府司令長官ハ其ノ報告ヲ海軍大臣ニ進達スヘシ

第三十八條 正當ノ事由ナクシテ第二十三條ノ規定ニ背ク者ハ五鎊以上一圓九十五鎊以下ノ科料ニ處ス

正當ノ事由ナクシテ第二十八條ノ規定ニ背ク者ハ一日以上十日以下ノ拘留ニ處ス

正當ノ事由ナクシテ第三十三條及第三十四條ノ規定ニ背ク者ハ五十鎊以上一圓九十五鎊以下ノ科料ニ處シ又ハ五日以上十日以下ノ拘留ニ處ス

第三十九條 召集解除ノ令アリタルトキハ海軍大臣及鎮守府司令長官ハ速ニ之ヲ其ノ部下ニ達シ鎮守府司令長官ハ同時ニ地方長官暨視總監憲兵隊長ニ通知シ旅費ヲ給シ被召集人ヲ歸郷セシム

第四十條 召集解除ノ行務完結スルトキハ海兵團長ハ之ヲ鎮守府司令長官ニ報告シ鎮守府司令長官ハ其ノ報告ヲ海軍大臣ニ進達スヘシ

第四十一條 召集ノ諸行務ニ關シ責任ヲ有スル諸員ハ召集解除後速ニ復タ召集ノ準備ヲ爲スヘシ

第四章 演習召集

第四十二條 海軍大臣及鎮守府司令長官ハ大演習召集ノ令アリタルトキハ之ヲ其ノ部下ニ達シ鎮守府司令長官ハ同時ニ地方長官暨視總監憲兵隊長ニ通知スヘシ

第四十三條 鎮守府司令長官小演習召集ヲ行ハントスルトキハ海軍大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第四十四條 鎮守府司令長官小演習召集ヲ行フトキハ之ヲ其ノ部下ニ達シ同時ニ召集區域内地方長官暨視總監憲兵隊長ニ通知スヘシ

第四十五條 大演習若ハ小演習召集ノ通知アリタルトキハ地方長官ハ之ヲ郡市町村長並召集事務ニ關係アル官吏ニ警視總監憲兵隊長ハ之ヲ其ノ部下ニ達スヘシ

第四十六條 演習召集ニハ第二十六條第二十八條乃至第三十三條及第三十五條乃至第四十一條ヲ準用ス

第四十七條 第三十三條第一項ニ準シ事由居書ヲ差出シタル場合ニ於テ其ノ事故止ミタルトキハ准士官以上ニ在テハ速ニ海軍省ニ届出テ命ヲ待テ下士卒ニ在テハ速ニ郡市長若ハ町村長ヨリ召集令狀ヲ受取リ其ノ指示ニ從ヒ旅費及旅費證票ヲ受取リ直ニ海兵團ニ到着スヘシ但シ演習ノ前半期間ニ召集地ニ到着スル能ハサル者ト認ムルトキハ郡市長若ハ町村長ハ其ノ發程ヲ差留メ之ヲ海兵團長ニ通知スヘシ

第四十八條 演習召集令狀ノ交付ヲ受ケタル者其ノ父母重症ニ罹リ若ハ死亡シタルトキハ親戚又ハ近鄰戸主二人以上連署ノ願書ニ市町村長ノ與書證印ヲ受ケ醫師ノ診斷書若ハ死亡證ヲ添ヘ准士官以上ニ在テハ到着スヘキ地ノ長官ヲ經テ海軍大臣ニ下士卒ニ在テハ海兵團長ニ二十四日以内ノ延期ヲ願出ルコトヲ得

第四十九條 正當ノ事由ナクシテ第四十七條ノ規定ニ背ク者ハ五十錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處シ又ハ五日以上十日以下ノ拘留ニ處ス

第五十條 簡閱點呼 鎮守府司令長官ハ簡閱點呼ノ爲毎年一回豫備役後備役下士卒ヲ召集シ簡閱點呼執行官ヲ派出シ期日ヲ定メテ點呼ヲ行ハシム但シ他ノ召集ヲ行ヒタル年ハ之ヲ行ハサルコトヲ得

第五十一條 鎮守府司令長官ハ部下將校若干名ニ簡閱點呼執行官ヲ命シ之ニ必要ノ訓令ヲ授クヘシ又必要アルトキハ簡閱點呼執行官ニ部下主計官ヲ附スルコトヲ得

第五十二條 各簡閱點呼執行官ニハ下士卒若干名ヲ附屬セシム

第五十三條 鎮守府司令長官簡閱點呼ヲ行ハントスルトキハ簡閱點呼執行官ノ巡迴區及出發期日ヲ定メ之ヲ海兵團長ニ達シ同時ニ之ヲ海軍大臣ニ報告スヘシ

第五十四條 海兵團長前條ノ達ヲ受ケタルトキハ簡閱點呼執行官ト協議シ豫定順路ヲ定メテ之ヲ關係地方長官ニ通知スヘシ

第五十五條 地方長官前條ノ通知ヲ受ケタルトキハ之ヲ郡市長ニ達シ郡長ハ之ヲ町村長ニ達シ町村長ハ之ヲ豫備役後備役下士卒ニ豫告スヘシ

第五十六條 簡閱點呼召集所ハ地方廳管轄區域ノ廣狹及被點呼者ノ多少ニ依リ簡閱點呼執行官之ヲ定ムルモノトス

點呼令狀ハ海兵團ニ於テ調製シ前項ニ依リ簡閱點呼召集所定マリタルトキハ海兵團長ヨリ之ヲ郡市長ニ送付スヘシ

第五十七條 簡閱點呼執行官ハ巡迴日割ヲ定メ郡市長ニ通知スヘシ

郡市長前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ點呼令狀ニ所要ノ記入ヲ爲シ直ニ豫定ノ方法ヲ以テ之ヲ被點呼者又ハ召集通報人ニ交付シ受領證ヲ徴スヘシ

召集通報人ナキ不在者ニ在テハ戸主本人戸主又ハ本家族中家本ヲ擔當スル者ヨリ受領證ヲ出スヘシ

郡市長ハ事故アリテ點呼令狀ヲ交付シ得サルトキハ其ノ人名ヲ記シテ速ニ憲兵及警察官吏ニ通知スヘシ

第五十八條 被點呼者ニ代リ點呼令狀ヲ受領シタル者ハ直ニ其ノ旨ヲ本人ニ通報シ其ノ令狀ヲ本人ニ交付スルノ手續ヲ爲スヘシ

第五十九條 被點呼者ハ指定ノ日時迄ニ召集所ニ到着シ點呼ヲ受クヘシ

第六十條 被點呼者ノ往復旅費ハ解散ヲ命スルトキ簡閱點呼執行官若ハ簡閱點呼執行官附主計

官ヨリ給スルモノトス

第六十一條 憲兵及警察官吏第五十七條第四項ノ通知ヲ受クルトキハ其ノ被點呼者ラレテ所命ノ日時ニ參會セシムルノ處置ヲ爲スヘシ

第六十二條 郡市長並町村長ハ簡閱點呼ニ參列スヘシ

第六十三條 被點呼者傷痍疾病其ノ他ノ事故ニ依リ簡閱點呼ニ參會スルコト能ハサルトキハ市町村長ヲ經テ事由届書ヲ點呼執行日時ニ簡閱點呼執行官ニ差出スヘシ但シ傷痍疾病ノ者ニ在テハ醫師ノ診斷書ヲ添フヘシ

第六十四條 被點呼者集合スルトキハ簡閱點呼執行官ハ點呼名簿ノ順序ニ從ヒ點呼シ所要ノ調査ヲ行ヒ必要ノ訓示ヲ與ヘ解散ヲ命スヘシ

第六十五條 正當ノ事由ナクシテ簡閱點呼ニ參會セサル者及第六十三條ノ規定ニ背ク者ハ五十錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處シ又ハ五日以上十日以下ノ拘留ニ處ス

第六十六條 正當ノ事由ナクシテ第五十八條ノ規定ニ背ク者ハ一日以上十日以下ノ拘留ニ處ス被點呼者簡閱點呼場ニ於テ簡閱點呼執行官ノ命令ニ服セス又ハ其ノ職務ノ執行ヲ妨害スルトキ亦同シ

第六十七條 簡閱點呼執行官簡閱點呼ヲ終ルトキハ點呼實況報告書及點呼人員表各二通ヲ鎮守府司令長官ニ差出スヘシ

第六十八條 鎮守府司令長官ハ前條ノ書類ヲ取纏メ一通ヲ海軍大臣ニ進達シ一通ヲ海兵團長ニ下付スヘシ

附則

第六十九條 本條例中郡市長ノ職務ハ島司支廳長若ハ之ニ準スヘキ者並東京市京都市大阪市及市制町村制ヲ施行セサル地方ノ區ニ在テハ區長之ヲ行ヒ町村長ノ職務ハ町村制ヲ施行セサル地方

ニ在テハ戶長及之ニ準スヘキ者之ヲ行フ

御名 御璽

明治三十一年十月六日

逓信大臣林 有造

勅令第二百四十八號(官報十月七日)

明治二十五年勅令第五十七號中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ日本清韓三國相互間發着スルモノニ限リ重量ニ從ヒ徵收ス

別表ニ左ノ一欄ヲ追加ス

日本清韓三國相互間發着スルモノ	三十錢	四十五錢	六十錢	七十五錢	九十錢	一圓	一圓五錢	一圓二十錢
-----------------	-----	------	-----	------	-----	----	------	-------

〔參照〕

勅令第五十七號(明治二十五年六月二十八日官報抄録)

第一條 小包郵便物ハ小包郵便物ノ重量及其差立郵便局ヨリ配達郵便局マテノ里程ニ從ヒ別表ニ依リ之ヲ徵收ス

(別表)

小包郵便料	
二百多マテ	四百多マテ
四百多マテ	六百多マテ
六百多マテ	八百多マテ
八百多マテ	一貫多マテ
一貫多マテ	一圓二百五
一圓二百五	一圓五百
一圓五百	一圓七
一圓七	一圓十
一圓十	一圓十三
一圓十三	一圓十五
一圓十五	一圓十七
一圓十七	一圓二十
一圓二十	一圓二十四
一圓二十四	一圓二十八
一圓二十八	一圓三十二
一圓三十二	一圓三十五
一圓三十五	一圓三十八
一圓三十八	一圓四十二
一圓四十二	一圓四十五
一圓四十五	一圓四十八
一圓四十八	一圓五十二
一圓五十二	一圓五十五
一圓五十五	一圓五十八
一圓五十八	一圓六十二
一圓六十二	一圓六十五
一圓六十五	一圓六十八
一圓六十八	一圓七十二
一圓七十二	一圓七十五
一圓七十五	一圓七十八
一圓七十八	一圓八十二
一圓八十二	一圓八十五
一圓八十五	一圓八十八
一圓八十八	一圓九十二
一圓九十二	一圓九十五
一圓九十五	一圓九十八
一圓九十八	一圓一百

明治三十一年十月 勅令 第三百四十九號 無號 日清兩國難船救助費用償還ニ關スル約定
 百里以外十六 續二十四 續三十二 續四十 續四十八 續五十六 續六十四 續

朕明治三十年勅令第三百八十五號施行ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
 御名 御璽

明治三十一年十月十日 大藏大臣松田正久
 勅令第三百四十九號(官報十月十一日)
 明治三十年勅令第三百八十五號ヲ明治三十二年一月一日ヨリ施行ス

〔參照〕
 明治三十年九月二十日勅令第三百八十五號ハ協定税率ノ便宜ヲ受ケムトスル輸入物品ノ製造原産地證明ニ關スル條件ナリ
 朕帝國政府ト清國政府トノ間ニ締結セル難破船救助費用償還ニ關スル約定ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽
 明治三十一年十月十二日(官報十月十三日) 內閣總理大臣兼外務大臣 伯爵大隈重信

日本國政府ト清國政府トノ間ニ締結セル難破船救助費用償還ニ關スル約定
 日本國政府竝ニ清國政府ハ兩國彼此ニテ難破船ヲ救助スル際ニ當リテ支給スヘキ費用償還ノ法ヲ

約定スルコト左ノ如シ

第一條
 兩國彼此ニテ沿海ノ遭難人民ヲ救助スル時支給スル所ノ衣食旅費醫藥及撈屍埋葬等ノ諸入費ハ總テ其ノ難民ノ本國政府ヨリ償還スヘシ

第二條
 兩國ニテ難民ヲ救助スル時派出スル所ノ官吏ノ旅費竝ニ世話護送及電信公文往復等ノ諸入費ハ其ノ難民ノ本國政府ヨリ償還スルニ及ハス

第三條
 兩國ニテ遭難ノ船隻及物貨ヲ救助保存スル爲メ需用スル所ノ人夫手間賃等ノ諸入費ハ其ノ船隻物貨ヲ領收スル者或ハ船隻所有主或ハ物貨所有主ヨリ償還スヘシ

第四條
 以上三箇條ハ明治三十一年十月十五日即光緒二十九年九月初一日ヨリ實施シ甲國ヨリ乙國ヘ廢止ノ通知ヲ爲シタル日ヨリ十二箇月間效力ヲ有スヘシ
 右日本文及漢文各一通ヲ作り雙方共ノ各一通ヲ執テ證據トス

大日本國 北京 駐劄臨時代理公使 林
 軍機大臣 刑部 尙書 慶
 禮部 尙書 許
 戶部 尙書 敬
 和碩 親 王
 大清欽命總理各國事務 太子太傅文華殿大學士一等肅毅伯 李
 軍機大臣 戶部 尙書 王

明治三十一年九月四日
光緒二十四年七月十九日

刑部 尙書 步軍統領 領崇
御書 街 戶部 左侍郎 張

朕東京市區改正委員會組織權限中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十一年十月十五日

內閣總理大臣 伯爵 大隈重信
內務大臣 伯爵 板垣退助

勅令第二百五十號 (官報十月十八日)

東京市區改正委員會組織權限中左ノ通改正ス

第一條 東京市區改正委員會ハ左ノ職員ヲ以テ之ヲ組織ス

- 委員長 一人
- 委員
 - 內務省高等官 三人
 - 大藏省高等官 二人
 - 陸軍省高等官 二人
 - 海軍省高等官 一人
 - 農商務省高等官 一人

- 逓信省高等官 二人
- 警視廳高等官 一人
- 東京府高等官 一人
- 東京市吏員 一人
- 東京市參事會員 二人
- 東京市會議員 十人
- 臨時委員 若干人

警視總監、東京府知事及東京市長ハ定員ノ外委員トシテ會議ニ列席シ決議ノ數ニ加ハルコトヲ得

第二條 委員長、高等官及東京市吏員ヨリ出ツル委員並臨時委員ハ內務大臣ノ奏請ニ依リ內閣ニ於テ之ヲ命ス

東京市參事會員ヨリ出ツル委員ハ市參事會員中ヨリ互選ヲ以テ之ニ充ツ

東京市會議員ヨリ出ツル委員ハ市會ニ於テ之ヲ選定ス但シ市會議員ヨリ出ツル委員總テ議員ニ屬シ市會ニ於テ補選選舉ヲ行フコト能ハサルトキハ名譽職參事會員中ヨリ互選ヲ以テ之ニ充ツ

第二項及第三項ノ委員確定シタルトキハ東京市參事會ハ內務大臣及東京市區改正委員會ニ報告スヘシ

〔參照〕

勅令第二百七十九號 東京市區改正委員會組織權限 (明治二十九年七月三十一日官報) 抄録

第一條 東京市區改正委員會ハ左ノ職員ヲ以テ之ヲ組織ス

- 委員長 一人
- 委員
 - 內務省高等官 三人

大藏省高等官 二人
陸軍省高等官 二人
海軍省高等官 一人
農商務省高等官 一人
逓信省高等官 一人
警視廳高等官 一人
東京府高等官 二人
東京市會議員 十八人
臨時委員 若干人

警視總監及東京府知事ハ定員ノ外委員トシテ會議ニ列席シ決議ノ數ニ加ハルコトヲ得
第二條 委員長、高等官ヨリ出ツル委員及臨時委員ハ内務大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ス
東京市會議員ヨリ出ツル委員ハ市會ニ於テ之ヲ選定ス但シ市會議員ヨリ出ツル委員總テ副員ニ屬シ市會ニ於テ補選選舉
ヲ行フコト能ハサルトキハ名譽職委員會中ヨリ互選ヲ以テ之ニ充ツ
前項ノ委員選定シタルトキハ東京市議會ハ内務大臣及東京市區改正委員會ニ報告スヘシ

朕東京帝國大學官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
御名 御璽

明治三十一年十月二十日

内閣總理大臣伯爵大隈重信
文部大臣 尾崎行雄

勅令第二百五十一號(官報十月二十二日)
明治三十年勅令第二百五十號東京帝國大學官制第八條ニ左ノ一項ヲ加フ
講座ヲ擔任スル助教授ハ前項ノ定員外ニ置クモノトス但シ講座ヲ分擔スル助教授ハ此ノ限ニア
ラス

〔參照〕

勅令第二百五十號東京帝國大學官制(明治三十年六月二十二日官報抄録)
第八條 助教授ハ兼任四十一人兼任トス教授ヲ助教授ヲ教授及實踐ニ從事ス

朕賞勳局官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十一年十月二十二日

内閣總理大臣伯爵大隈重信

勅令第二百五十二號

賞勳局官制中左ノ通改正ス

第二條 賞勳局ニ左ノ職員ヲ置ク

總裁 一人 勅任

書記官 專任二人 委任

屬 六人 判任

第四條 創除

附則

本令ハ明治三十一年十一月一日ヨリ施行ス

〔參照〕

勅令第百十六號賞勳局官制(明治二十六年十月三十一日官報抄録)
第二條 賞勳局ニ左ノ職員ヲ置ク
總裁 一人 勅任
書記官 一人 勅任

副總裁 一人 勅任
 書記官 二人 兼任
 屬 九人 判任
 第四條 副總裁ハ總裁ヲ佐ケ局中一切ノ事務ヲ整理シ總裁事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理ス

朕實勸會議規程中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十一年十月二十二日

勅令第二百五十三號

實勸會議規程中左ノ通改正ス

第二條中「同副總裁」ヲ削ル

第三條中「副總裁又ハ」ヲ削ル

第四條第二項 削除

附則

本令ハ明治三十一年十一月一日ヨリ施行ス

内閣總理大臣伯爵大隈重信

〔參照〕

勅令第百十七號實勸會議規程(明治二十六年十月三十一日官報抄録)
 第二條 實勸會議ハ實勸局總裁(同副總裁)及勸定官ヲ以テ組織ス
 第三條 實勸會議ノ議長ハ實勸局總裁ヲ以テ之ニ充ツ總裁事故アルトキハ副總裁又ハ上座勸定官之ヲ代理ス
 第四條第二項 實勸局副總裁ハ勸定官トシテ會議ニ列ス

御名 御璽

明治三十一年十月二十二日

勅令第二百五十四號

法制局官制中左ノ通改正ス

第二條 法制局ニ左ノ職員ヲ置ク

長官 一人 勅任

參事官 專任十人 兼任

但シ内二人ハ勅任トス

書記官 二人 兼任

屬 專任十一人 判任

法制局ニ左ノ二部ヲ置ク其ノ事務分掌ハ長官之ヲ定ム

第一部

部長ハ參事官ヲ以テ之ニ充ツ

附則

本令ハ明治三十一年十一月一日ヨリ施行ス

内閣總理大臣伯爵大隈重信

〔参照〕

勅令第百十八號法制局官制(明治二十六年十月三十一日官報)抄録

- 第二條 法制局ニ左ノ職員ヲ置ク
 - 長官 一人 勅任
 - 参事官 兼任六人 奏任
 - 書記官 二人 奏任
 - 屬 十一人 判任

朕内閣所屬職員官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十一年十月二十二日

内閣總理大臣伯爵大隈重信

勅令第二百五十五號

内閣所屬職員官制

第一條 内閣所屬ノ職員左ノ如シ

- 書記官長 一人 勅任
- 統計局長 一人 勅任
- 恩給局長 一人 勅任
- 書記官 一人 勅任
- 内閣總理大臣秘書官 兼任四人 奏任
- 統計局審査官 兼任二人 奏任
- 恩給局審査官 兼任一人 奏任

屬 九十三人 判任

第二條 書記官長ハ内閣總理大臣ノ命ヲ承ケ機密文書ヲ管掌シ内閣ノ庶務ヲ統理シ及判任官以下ノ進退ヲ專行ス

第三條 書記官ハ内閣總理大臣又ハ書記官長ノ命ヲ承ケ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 詔勅及法律命令ノ發布ニ關スル事項
 - 二 大日本帝國憲法及法律勅令ノ原本ノ保存ニ關スル事項
 - 三 公文ノ査閲、起草、受授及保存ニ關スル事項
 - 四 官印ノ管守ニ關スル事項
 - 五 内閣ノ會計ニ關スル事項
 - 六 各廳高等官ノ履歷ニ關スル事項
 - 七 内閣記録ノ編纂ニ關スル事項
 - 八 内閣所管圖書ノ類別、購買、保存及出納並其ノ目錄編製ニ關スル事項
 - 九 内閣所用圖書ノ出版ニ關スル事項
- 第四條 各局長ハ内閣總理大臣又ハ内閣書記官長ノ命ヲ承ケ其ノ主務ヲ掌理シ所屬職員ヲ監督ス
- 第五條 統計局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一 行政各部統計ノ統一ニ關スル事項
 - 二 行政各部ニ專屬セサル統計ニ關スル事項
 - 三 統計ニ關スル報告ノ刊行ニ關スル事項
 - 四 内外統計表ノ交換ニ關スル事項
 - 五 各官廳ノ統計主任者ノ招集及會議ニ關スル事項
- 第六條 恩給局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 恩給及扶助料ヲ受クヘキ資格及權利ノ審査並裁決ニ關スル事項
- 二 恩給及扶助料ノ支給ニ關スル事項
- 第七條 内閣總理大臣秘書官ハ大臣官房ノ事務ヲ掌ル
- 第八條 統計局審査官ハ統計局長ノ命ヲ承ケ各種ノ統計ヲ擔任ス
- 第九條 恩給局審査官ハ恩給局長ノ命ヲ承ケ各種ノ統計ヲ擔任ス
- 第十條 屬ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス

第十一條 本令ハ明治三十一年十一月一日ヨリ施行ス

朕印刷局官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十一年十月二十二日

内閣總理大臣伯爵大隈重信

勅令第二百五十六號

印刷局官制

- 第一條 印刷局ハ内閣總理大臣ノ管理ニ屬シ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 官報、法令全書及職員録ノ編輯並賣買ニ關スル事項
 - 二 官報共ノ他文書ノ印刷ニ關スル事項
 - 三 印紙、郵便切手並諸證券等ノ製造ニ關スル事項
 - 四 抄紙ニ關スル事項

第二條 印刷局ニ左ノ職員ヲ置ク

局長

一人

勅任

事務官

專任一人

奏任

技師

專任三人

判任

屬

三十六人

判任

技手

四十五人

判任

第三條 局長ハ内閣總理大臣又ハ内閣書記官長ノ命ヲ承ケ局中一切ノ事務ヲ掌理シ所屬職員ヲ監督ス

第四條 事務官ハ局長ノ命ヲ承ケ事務ヲ掌ル

第五條 技師ハ局長ノ命ヲ承ケ工務ヲ監理ス

第六條 屬ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス

第七條 技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ工務ニ従事ス

附則

第八條 本令ハ明治三十一年十一月一日ヨリ施行ス

朕各省官制通則中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十一年十月二十二日

内閣總理大臣兼
外務大臣伯爵大隈重信

海軍大臣	西郷從道
陸軍大臣	桂 大郎
內務大臣	板垣退助
農商務大臣	大石正己
文部大臣	尾崎行雄
大藏大臣	松田正久
司法大臣	大東義徹
逓信大臣	林 有造

勅令第二百五十七號

各省官制通則中左ノ通改正ス

第十四條 中次官ノ次ニ參與官ヲ加フ

第十七條 各省參與官ハ一人勅任トス大臣ノ命ヲ承ケ省務ニ參與ス

第十八條 各局局長ハ一人勅任トス大臣ノ命ヲ承ケ其ノ主務ヲ掌理シ及局中各課ノ事務ヲ指撥監督ス

第十九條 參事官ハ奏任トス大臣ノ命ヲ承ケ審議立案ヲ掌ル

第二十二條 中又ハ次官ヲ削ル

第二十三條 第二項左ノ通改正ム

各省專任參事官專任書記官ハ併セテ八人以下トシ其ノ定員ハ各省官制ニ於テ之ヲ定ム但シ內務省大藏省及逓信省ニ於テハ十二人以下ヲ置クコトヲ得

附則

本令ハ明治三十一年十一月一日ヨリ施行ス

〔參照〕

勅令第百二十二號各省官制通則(明治二十六年十月三十一日官報)抄録

第十四條 各省ニ左ノ職員ヲ置ク

次官

局長

參事官

書記官

屬

第十七條 各局局長ハ一人勅任又ハ奏任トシ各省官制ニ於テ之ヲ定ム

第十八條 局長ハ大臣又ハ次官ノ命ヲ承ケ其ノ主務ヲ掌理シ及局中各課ノ事務ヲ指撥監督ス

第十九條 參事官ハ一人ヲ勅任トシ其他ハ奏任トス大臣又ハ次官ノ命ヲ承ケ審議立案ヲ掌ル

第二十二條 書記官ハ奏任トス大臣又ハ次官ノ命ヲ承ケ大臣官房ノ事務ヲ掌リ又ハ各局ノ事務ヲ助ク

第二十三條 第二項 各省專任參事官專任書記官ハ併セテ九人以下トシ其ノ定員ハ各省官制ニ於テ之ヲ定ム

朕外務省官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十一年十月二十二日

內閣總理大臣兼
外務大臣 伯爵 大隈重信

勅令第二百五十八號

外務省官制

第一條 外務大臣ハ外國ニ關スル政務ノ施行、外國ニ於ケル帝國商事ノ保護及外國在留帝國臣民

ニ關スル事務ヲ管理シ外交官及領事官ヲ監督ス
 第二條 大臣官房ニ於テハ通則ニ掲クルモノノ外帝國ニ駐在スル各國外交官領事官外國人敘勳
 備約書保管及文書翻譯ニ關スル事務ヲ掌ル
 第三條 外務省專任參事官ハ二人專任外務大臣祕書官ハ二人專任書記官ハ五人ヲ以テ定員トス
 第四條 外務省ニ左ノ二局ヲ置ク
 政務局
 通商局

第五條 政務局ニ於テハ外交ニ關スル事務ヲ掌ル
 第六條 通商局ニ於テハ通商航海及移民ニ關スル事務ヲ掌ル
 第七條 外務省ニ翻譯官四人ヲ置ク委任トス文書翻譯ニ從事ス
 第八條 外務省屬ハ六十八ヲ以テ定員トス
 第九條 外務省ニ翻譯官補六人ヲ置ク判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ文書翻譯及通辨ニ從事ス
 第十條 外務省ニ技手二人ヲ置ク上官ノ指揮ヲ承ケ電信事務ニ從事ス
 第十一條 附則 本令ハ明治三十一年十一月一日ヨリ施行ス

朕内務省官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十一年十月二十二日

内閣總理大臣伯耆大隈重信
内務大臣伯耆板垣退助

内務省官制

第一條 内務大臣ハ地方行政、議員選舉、警察、監獄、土木衛生、地理、社寺、出版、版權、賑恤及救済ニ關
 スル事務ヲ管理シ臺灣總督、警視總監、北海道廳長官及府縣知事ヲ監督ス
 第二條 大臣官房ニ於テハ通則ニ掲クルモノノ外臺灣、臺灣及北海道ニ關スル事務ヲ掌ル
 第三條 内務省專任參事官ハ三人專任書記官ハ九人ヲ以テ定員トス
 第四條 内務省ニ左ノ六局ヲ置ク
 地方局
 警保局
 土木局
 衛生局
 社寺局
 監獄局

第五條 地方局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 議員選舉ニ關スル事項
- 二 府縣會、府縣經濟共ノ他總テ府縣行政ニ關スル事項
- 三 郡會、郡經濟共ノ他總テ郡ノ行政ニ關スル事項
- 四 市町村會、公共組合會及市町村公共組合ノ經濟共ノ他總テ市町村公共組合ノ行政ニ關スル
事項
- 五 官有地ニ關スル事項
- 六 賑恤及救済ニ關スル事項

- 七 府縣以下ノ貧院 盲啞院 痲瘋院及育兒院其ノ他慈善ノ用ニ供スル營造物ニ關スル事項
- 八 徵兵及徵發ニ關スル事項
- 第六條 警保局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 行政警察ニ關スル事項
 - 二 高等警察ニ關スル事項
 - 三 圖書出版及版權登錄ニ關スル事項
- 第七條 土木局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 本省直轄ノ土木工事ニ關スル事項
 - 二 府縣經營ノ土木工事其ノ他公共ノ土木工事ニ關スル事項
 - 三 直轄工費及府縣工費補助ノ調査ニ關スル事項
 - 四 水面埋立ニ關スル事項
 - 五 土地收用ニ關スル事項
- 第八條 衛生局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 傳染病及地方病ノ豫防 種痘其ノ他總テ公衆衛生ニ關スル事項
 - 二 檢疫停船ニ關スル事項
 - 三 醫師及藥劑師ノ業務並藥品賣藥取締ニ關スル事項
 - 四 衛生會及地方病院ニ關スル事項
- 第九條 社寺局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 神宮、官國幣社、招魂社、社神、神社格及古社寺保存ニ關スル事項
 - 二 神佛各派ノ教規、宗制、神職僧侶教師ノ身分、社寺及宗教ノ用ニ供スル書字ノ存廢其ノ他總テ宗教ニ關スル事項

第十條 監獄局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 監獄ニ關スル事項

二 假出獄及監視假免ニ關スル事項

第十一條 內務省ニ專任監獄事務官一人ヲ置ク委任トス監獄局ニ屬シ監獄ノ事務ヲ掌ル

第十二條 內務省ニ專任技師五人ヲ置ク内一人ヲ勅任トス

內務省ニ專任技師十五人ヲ置ク

內務省屬ハ二百人ヲ以テ定員トス

附則

第十三條 本令ハ明治三十一年十一月一日ヨリ施行ス

臺灣事務局官制及明治二十七年勅令第六十六號ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

〔參照〕

勅令第六十六號(明治二十七年六月十四日官報)

內務省ニ土木技師一人ヲ置ク

土木技師ハ大臣又ハ次官ノ命ヲ承ケ土木局ニ關スル技術上ノ事項ヲ掌理シ及直轄土木事業ノ施行並ニ地方土木事業ノ監督ニ關スル技術上ノ事項ニ付土木監督官長ヲ指揮ス

朕土木監督官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十一年十月二十二日

內閣總理大臣伯爵大隈重信
內務大臣伯爵板垣退助

勅令第二百六十號

土木監督官制中左ノ通改正ス

第七條 技師ハ各署ヲ通シ十七人ヲ以テ定員トシ内二人以内ヲ勅任トス署長ノ指揮ヲ承ケ事務ヲ分掌シ並第六條ノ事務ヲ補助ス

土木監督署ニ勅任技師ヲ置クトキハ勅任技師ヲ以テ署長トス

第八條中三十五人ヲ二十五人ニ改ム

第九條中二十八人ヲ二十人ニ改ム

附則

本令ハ明治三十一年十一月一日ヨリ施行ス

明治三十年勅令第八十號ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

〔參照〕

勅令第八十六號土木監督官制(明治二十七年七月四日官報)抄録

- 第六條 署長ハ第一條ニ記載シタル事務ノ外内務大臣ノ命ヲ承ケ内務省直轄ノ土木事業ヲ計畫シ及其ノ施行ヲ管理ス
 - 第七條 技師ハ各署ヲ通シ二十一一人ヲ以テ定員トス署長ノ指揮ヲ承ケ事務ヲ分掌シ並第六條ノ事務ヲ補助ス
 - 第八條 技師ハ各署ヲ通シ三十五人ヲ以テ定員トス上官ノ指揮ヲ承ケ工務ニ從事ス
 - 第九條 書記ハ勅任トシ各署ヲ通シ二十八人ヲ以テ定員トス上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス
- 勅令第八十號(明治三十一年六月十二日官報)
- 第一條 各土木監督署ニ技師一人ヲ置クトコトヲ得此ノ場合ニ於テハ技師ヲ以テ署長トス
 - 第二條 各土木監督署ニ事務官一人ヲ置クトコトヲ得
 - 事務官ハ委任トス署長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ管理ス

朕明治二十七年勅令第八十四號中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十一年十月二十二日

内閣總理大臣伯爵大隈重信
内務大臣伯爵板垣退助

勅令第二百六十一號

明治二十七年勅令第八十四號中内務省技師ノ下二人ヲ二人ニ土木監督署技師ノ下七人ヲ五人ニ技師ノ下二十八人ヲ二十人ニ改ム

附則

本令ハ明治三十一年十一月一日ヨリ施行ス

〔參照〕

勅令第八十四號(明治二十七年七月四日官報)抄録

河川道路及港灣ニ關スル事業ノ臨時調査ヲ爲サシムル爲メ内務省及土木監督署ニ臨時左ノ職員ヲ置ク

- 内務省 二人
- 技師 七人
- 土木監督署 二十八人
- 技師 七人
- 技師 二十八人

朕明治二十七年勅令第八十五號中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十一年十月二十二日

内閣總理大臣伯爵大隈重信
内務大臣伯爵板垣退助

勅令第二百六十二號

明治二十七年勅令第八十五號中技手ノ下「百人」ヲ「八十八人」ニ書記ノ下「二十二人」ヲ「十七人」ニ改ム

附則

本令ハ明治三十一年十一月一日ヨリ施行ス

〔參照〕

勅令第八十五號(明治二十七年七月四日官報)
内務省直轄ノ臨時土木工事ヲ施行セシムル爲メ土木監督官ニ臨時左ノ職員ヲ置ク

技師 十五人
技手 百人
書記 二十二名 聘任

朕明治二十六年勅令第二百二十八號中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十一年十月二十二日

内閣總理大臣伯爵大隈重信
内務大臣伯爵板垣退助

勅令第二百六十三號

明治二十六年勅令第二百二十八號中技師ノ下「三人」ヲ「一人」ニ技手ノ下「十八人」ヲ「五人」ニ改メ屬ヲ削ル

附則

本令ハ明治三十一年十一月一日ヨリ施行ス

〔參照〕

勅令第二百二十八號(明治二十六年十月三十一日官報)抄録
臨時建築ノ事務ヲ掌理セシムル爲メ内務省ニ左ノ職員ヲ置キ土木局ニ屬セシム

技師 三人
技手 十八人
屬 六人

朕集治監假留監官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十一年十月二十二日

内閣總理大臣伯爵大隈重信
内務大臣伯爵板垣退助

勅令第二百六十四號

集治監假留監官制中左ノ通改正ス

第七條中「四人」ヲ「三人」ニ改ム

第十一條中「百八十二人」ヲ「百十八人」ニ改ム

附則

本令ハ明治三十一年十一月一日ヨリ施行ス

〔參照〕

勅令第九十八號集治監假留監官制(明治二十八年七月六日官報)抄録
第七條 分監長四人兼任トス典獄ノ指揮監督ヲ承ケ分監ノ事務ヲ掌理ス
第十一條 書記看守兵及監獄醫ノ定員ハ各集治監ヲ通シテ百八十二人トシ其ノ各官ノ定員ハ内務大臣之ヲ定ム

○ 朕衛生試驗所官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
御名 御璽

明治三十一年十月二十二日

内閣總理大臣伯爵大隈重信
内務大臣伯爵板垣退助

勅令第二百六十五號

衛生試驗所官制中左ノ通改正ス

第六條中「十七人」ヲ「十八人」ニ改ム

第七條中「七人」ヲ「四人」ニ改ム

附則

本令ハ明治三十一年十一月一日ヨリ施行ス

〔參照〕

勅令第五百五十五號衛生試驗所官制(明治二十三年八月四日官報)抄録

第六條 技手ハ判任トシ專任十七人ヲ以テ定員トス上官ノ指揮ヲ承ケ所屬ニ從事ス

第七條 書記ハ判任トシ七人ヲ以テ定員トス上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

○ 朕血清藥院官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
御名 御璽

明治三十一年十月二十二日

内閣總理大臣伯爵大隈重信
内務大臣伯爵板垣退助

勅令第二百六十六號

血清藥院官制第三條中技師ノ下「專任一人」ヲ「專任二人」ニ書記ノ下「專任三人」ヲ「專任二人」ニ改ム

附則

本令ハ明治三十一年十一月一日ヨリ施行ス

〔參照〕

勅令第四百四號血清藥院官制(明治二十九年三月三十一日官報)抄録

第三條 血清藥院ニ左ノ職員ヲ置ク

院長 一人

技師 專任三人

技手 專任五人

書記 專任三人

○ 朕痘苗製造所官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
御名 御璽

明治三十一年十月二十二日

内閣總理大臣伯爵大隈重信
内務大臣伯爵板垣退助

勅令第二百六十七號

痘苗製造所官制第三條中書記ノ下「專任五人」ヲ「專任四人」ニ改ム

附則 本令ハ明治三十一年十一月一日ヨリ施行ス

〔参照〕

勅令第五百五號痘苗製造所官制(明治二十九年三月三十一日官報)抄録
第三條 各痘苗製造所ヲ通シテ左ノ職員ヲ置ク

- 所長 二人
- 技師 專任三人
- 技手 專任三十二人
- 書記 專任五人

朕臨時検査職員ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十一年十月二十二日

内閣總理大臣伯爵大隈重信
内務大臣伯爵板垣退助

勅令第二百六十八號

検査豫防ニ關スル事務ヲ掌理セシムル爲メ内務省ニ臨時左ノ職員ヲ置キ衛生局ニ屬セシム

- 事務官 專任三人 委任
- 技手 專任二人
- 書記 專任二人 判任

附則

本令ハ明治三十一年十一月一日ヨリ施行ス

臨時検査局官制ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

朕大藏省官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十一年十月二十二日

内閣總理大臣伯爵大隈重信
大藏大臣 松田正久

勅令第二百六十九號

大藏省官制

第一條 大藏大臣ハ政府ノ財務ヲ總轄シ會計出納、租稅、國債貨幣、預金、保管物及銀行ニ關スル事務ヲ管理シ府縣郡市町村及公共組合ノ財務ヲ監督ス

第二條 大藏省專任參事官ハ二人專任書記官ハ十人ヲ以テ定員トス

第三條 大藏省ニ左ノ三局ヲ置ク

- 主計局
- 主稅局
- 理財局

第四條 主計局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 總豫算總決算ニ關スル事項
- 二 特別會計ノ豫算決算ニ關スル事項
- 三 仕拂豫算ニ關スル事項
- 四 主計簿ノ登記ニ關スル事項

- 五 歳入歳出現計書ノ調製ニ關スル事項
 - 六 諸計算書ノ下検査ニ關スル事項
 - 七 出納官吏ノ監督及身元保證ニ關スル事項
 - 八 豫備金支出ニ關スル事項
 - 九 定額繰越ノ承認及定額戻入年度開始前支出ニ關スル事項
 - 十 收入支出ノ科目ニ關スル事項
 - 十一 金錢及物品會計ノ統一ニ關スル事項
 - 十二 府縣郡市町村其ノ他公共組合ノ歳計ニ關スル事項
- 第五條 主税局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一 國稅ノ賦課徵收ニ關スル事項
 - 二 稅務ノ管理監督ニ關スル事項
 - 三 民有地地種目變換ニ關スル事項
 - 四 土地臺帳ニ關スル事項
 - 五 稅關輸出輸入ノ調査ニ關スル事項
 - 六 外國貿易ノ船舶及輸出入品ノ監督ニ關スル事項
 - 七 保稅倉庫ニ關スル事項
 - 八 大藏省所管稅外諸收入ニ關スル事項
 - 九 府縣郡市町村其ノ他公共組合ノ諸收入ニ關スル事項
- 第六條 理財局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一 國資ノ運用出納ニ關スル事項
 - 二 國庫ノ出納管理ニ關スル事項

- 三 國庫ノ出納計算書ニ關スル事項
 - 四 國債ノ募集借入償還及利拂ニ關スル事項
 - 五 國債簿及國庫簿ノ登記ニ關スル事項
 - 六 貨幣ニ關スル事項
 - 七 紙幣國債證券大藏省證券及借入證書ノ取扱ニ關スル事項
 - 八 國債計算書ノ調製ニ關スル事項
 - 九 年金恩給及諸祿ノ給與ニ關スル事項
 - 十 備荒儲蓄ニ關スル事項
 - 十一 金庫ノ監督ニ關スル事項
 - 十二 銀行ノ管理監督ニ關スル事項
 - 十三 國立銀行紙幣交換基金ニ關スル事項
 - 十四 預金保管物及供託物ニ關スル事項
 - 十五 地方財務ノ監督ニ關スル事項
 - 十六 會社債券ニ關スル事項
 - 十七 一般金融ニ關スル事項
 - 十八 府縣郡市町村其ノ他公共組合ノ公債ニ關スル事項
- 第七條 大藏省ニ專任鑑定官二人技師一人ヲ置ク委任トス鑑定官ハ主税局ニ技師ハ必要ニ依リ官房其ノ他ニ屬シ其ノ事務ヲ掌ル
- 第八條 大藏省ニ鑑定官補技手各二人ヲ置ク判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ鑑定建築ニ關スル事務ニ従事ス
- 第九條 大藏省屬ハ二百四十人ヲ以テ定員トス

附則

第十條 本令ハ明治三十一年十一月一日ヨリ施行ス
明治二十七年勅令第九十八號ヲ廢止ス

〔參照〕

勅令第九十八號(明治二十七年十二月八日官報)
大藏省ニ主税官一人及關三人ヲ臨時増設ス

朕造幣局官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十一年十月二十二日

内閣總理大臣伯爵大隈重信
大藏大臣 松田正久

勅令第二百七十號

造幣局官制中局長ノ下ヲ委任ヲ勅任ニ改ム

附則

本令ハ明治三十一年十一月一日ヨリ施行ス

朕税關官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十一年十月二十二日

内閣總理大臣伯爵大隈重信
大藏大臣 松田正久

勅令第二百七十一號

税關官制中左ノ通改正ス

第五條 各税關ヲ通シテ左ノ職員ヲ置ク

事務官

專任四人

兼任

鑑定官

專任五人

兼任

事務官補

專任二百四十二人

兼任

鑑定官補

專任四十五人

兼任

技手

專任八人

監吏

專任三十九人

兼任

監吏補

專任三百八十五人

兼任

第七條 事務官ハ各税關ニ分屬シ税關長ノ事務ヲ助ク

税關長事故アルトキハ之ヲ代理ス

第九條 創除

第十條及第十五條中「屬ラ」事務官補ニ改ム

附則

本令ハ明治三十一年十一月一日ヨリ施行ス

〔參照〕

勅令第二百二號税關官制(明治三十年六月二十二日官報)抄録

第五條 各税關ヲ通シテ左ノ職員ヲ置ク

検査官

二人

兼任

鑑定官

七人

兼任

監視官

二人

兼任

第二百四十二人 判任
 四百十五人 判任
 八人 判任
 三十九人 判任
 三百八十五人 判任
 第七條 検査官ハ税關長ノ指揮ヲ承ケ給出入申告書其ノ他諸文書ノ検査ニ關スル事務ヲ掌理ス
 第九條 監視官ハ税關長ノ指揮ヲ承ケ陸海軍更補ヲ監督シテ關稅警察ニ關スル事務ヲ掌理ス
 第十條 關ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス
 第十五條 各税關支署ニ署長一人ヲ置キ税關關ヲ以テ之ニ充ツ

朕稅務管理局官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
 御名 御璽

明治三十一年十月二十二日
 勅令第二百七十二號

内閣總理大臣伯爵大隈重信
 大藏大臣 松田正久

稅務管理局官制中左ノ適改正ス
 第四條 稅務管理局ニ左ノ職員ヲ置ク
 局長
 司稅官
 稅務屬

第五條 中各局ニ局長一人ヲ置キ司稅官ヲ以テ之ニ充ツヲ局長ハ奏任トスニ改ム
 第七條 削除
 第八條 中司稅官補ヲ司稅官ニ百八人ヲ百人ニ改ム

第九條 中五千二百人ヲ四千八ニ改ム
 第十條 第一項中司稅官補ヲ司稅官ニ改ム

附則

本令ハ明治三十一年十一月一日ヨリ施行ス

〔參照〕

勅令第三百三十七號稅務管理局官制(明治二十九年十月二十一日官報)抄録
 第四條 稅務管理局ニ左ノ職員ヲ置ク
 司稅官
 司稅官補
 稅務屬

第五條 各局ニ局長一人ヲ置キ司稅官ヲ以テ之ニ充ツ大藏大臣ノ指揮監督ヲ承ケ稅務ニ關スル法律命令ヲ執行シ其ノ管轄
 内ノ事務ヲ掌理ス
 第七條 司稅官ハ奏任トシ三十一人ヲ以テ定員トス第五條ニ依リ局長タル者ノ外東京、大阪、名古屋、仙臺、廣島、熊本ノ各局
 二分屬シ局長ノ事務ヲ佐ク
 第八條 司稅官補ハ奏任トシ各局各署ヲ通シテ百八人ヲ以テ定員トス第十條ニ依リ署長タル者ノ外各局二分屬シ局長ノ指
 揮ヲ承ケ稅務ノ監督ニ従事ス
 第九條 稅務屬ハ判任トシ各局各署ヲ通シテ五千二百人ヲ以テ定員トス稅務管理局若クハ稅務署ニ分屬シ上官ノ指揮ヲ承
 ケ庶務及検査ニ従事ス
 第十條 第一項
 各稅務署ニ署長一人ヲ置キ司稅官補若クハ稅務屬ヲ以テ之ニ充ツ

朕葉煙草專賣所官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十一年十月二十二日

内閣總理大臣伯爵大隈重信
 大藏大臣 松田正久

勅令第二百七十三號

葉煙草專賣所官制中左ノ通改正ス

第一條中「大藏大臣ノ管理」ヲ「專賣局長」ニ改ム

第二條 葉煙草專賣所ニ左ノ職員ヲ置ク

所長 奏任又ハ判任

屬 判任

技手

第四條中大藏大臣ノ指揮監督ヲ「專賣局長ノ指揮」ニ改ム

第八條 一等葉煙草專賣所長ハ三十一人 二等葉煙草專賣所長ハ二十四人屬ハ專任千百十三人 技手ハ專任三百十二人ヲ以テ定員トス

附則

本令ハ明治三十一年十一月一日ヨリ施行ス

〔参照〕

勅令第二百二十一號葉煙草專賣所官制(明治三十年四月二十八日官報抄録)

第一條 葉煙草ノ検査收納保存買渡ニ關スル事務ヲ處理スル爲メ葉煙草專賣所ヲ置キ大藏大臣ノ管理ニ關セシム

第三條 葉煙草專賣所ニ左ノ職員ヲ置ク

一 所長

二 屬

三 技手

第四條 葉煙草專賣所長ハ大藏大臣ノ指揮監督ヲ承ケ葉煙草ノ検査收納保存買渡ニ關スル事務ヲ掌理ス

第八條 一等葉煙草專賣所長ハ三十二人 二等葉煙草專賣所長ハ二十九人屬ハ千五百人 技手ハ四百四十八人ヲ以テ定員トス

朕專賣局官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十一年十月二十二日

内閣總理大臣 伯耆大隈重信
大藏大臣 松田正久

勅令第二百七十四號

專賣局官制

第一條 專賣局ハ大藏大臣ノ管理ニ屬シ政府ノ專賣ニ關スル事務ヲ掌ル

第二條 專賣局ニ左ノ職員ヲ置ク

局長 一人

鑑定官 專任三人

屬 二十五人

鑑定官補 三人

判任

附則

第三條 局長ハ大藏大臣ノ指揮監督ヲ承ケ局中一切ノ事務ヲ掌理ス

第四條 鑑定官ハ鑑定ニ關スル事務ヲ管理ス

第五條 屬ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス

第六條 鑑定官補ハ上官ノ指揮ヲ承ケ鑑定ニ従事ス

第七條 本令ハ明治三十一年十一月一日ヨリ施行ス

朕臨時沖繩縣土地整理事務局官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十一年十月二十二日

内閣總理大臣伯爵大隈重信
内務大臣伯爵板垣退助
大藏大臣 松田正久

勅令第二百七十五號

臨時沖繩縣土地整理事務局官制中左ノ通改正ス

第九條中「司稅官補」ヲ「司稅官」ニ改ム

附則

本令ハ明治三十一年十一月一日ヨリ施行ス

〔參照〕

勅令第四百四十四號臨時沖繩縣土地整理事務局官制(明治三十一年七月十五日官報)抄録
第九條 沖繩縣參事官及郡縣稅務管理局ニ在勤スル司稅官補ハ事務官ヲ兼任ス

朕陸軍省官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十一年十月二十二日

内閣總理大臣伯爵大隈重信
陸軍大臣子爵桂 太郎

勅令第二百七十六號

陸軍省官制中左ノ通改正ス

第三條第二項中書記官ノ上ニ「參與官」ヲ加フ

附則

本令ハ明治三十一年十一月一日ヨリ施行ス

〔參照〕

勅令第九百九十二號陸軍省官制(明治二十九年五月十一日官報)抄録
第三條第二項 陸軍省ニ書記官ヲ置カス

朕海軍省官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十一年十月二十二日

内閣總理大臣伯爵大隈重信
海軍大臣侯爵西鄉從道

勅令第二百七十七號

海軍省官制中左ノ通改正ス

第四條第二項中書記官ノ上ニ「參與官」ヲ加フ

第十六條中「又ハ次官」ヲ削ル

附則

本令ハ明治三十一年十一月一日ヨリ施行ス

〔參照〕

勅令第九百九十九號海軍省官制(明治三十年三月三十一日官報)抄録

第四條第二項
海軍省ニ書記官ヲ置カス
第十六條 各局長及司法部長ハ海軍大臣又ハ次官ノ命ヲ承ケ各其ノ主務ヲ掌理ス

朕司法省官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
御名 御璽

明治三十一年十月二十二日

内閣總理大臣伯爵大隈重信
司法大臣 大東義徳

勅令第二百七十八號

司法省官制中左ノ通改正ス

第三條中「五人」ヲ「二人」ニ改ム

第五條 削除

第六條中「八十五人」ヲ「七十八人」ニ改ム

附則

本令ハ明治三十一年十一月一日ヨリ施行ス

〔參照〕

勅令第四百四十三號司法省官制(明治二十六年十月三十一日官報)抄録

第三條 司法省專任委員官ハ五人專任書記官ハ二人ヲ以テ定員トス

第五條 民刑局長ハ勅任トス

第六條 司法省屬ハ八十五人ヲ以テ定員トス

朕文部省官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十一年十月二十二日

内閣總理大臣伯爵大隈重信
文部大臣 尾崎行雄

勅令第二百七十九號

文部省官制

第一條 文部大臣ハ教育學藝ニ關スル事務ヲ管理ス

第二條 大臣官房ニ於テハ通則ニ掲クルモノノ外左ノ事務ヲ掌ル

一 公立學校職員ニ關スル事項

二 文部省ニ於テ施行スル教員檢定ニ關スル事項

三 圖書及圖書館ニ關スル事項

四 海外留學生及教員ノ海外派遣ニ關スル事項

五 高等教育會議ニ關スル事項

六 學校衛生顧問會議ニ關スル事項

七 美術ニ關スル事項

八 博覽會及博物館ニ關スル事項

九 褒賞ニ關スル事項

第三條 文部省專任參事官及專任書記官ハ各三人ヲ以テ定員トス

第四條 文部省ニ左ノ二局ヲ置ク
專門學務局

普通學務局

- 第五條 專門學務局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 帝國大學及高等學校ニ關スル事項
 - 二 專門學校及實業學校ニ關スル事項
 - 三 中學校ニ關スル事項
 - 四 美術學校及音樂學校ニ關スル事項
 - 五 以上ノ學校ニ準スヘキ各種學校ニ關スル事項
 - 六 天文臺氣象臺及測候所ニ關スル事項
 - 七 學術技藝ノ保護獎勵ニ關スル事項
 - 八 實業教育國庫補助ニ關スル事項
 - 九 測地學委員會及震災豫防調査會ニ關スル事項
 - 十 學士會院ニ關スル事項
 - 十一 學術會ニ關スル事項
 - 十二 學位及之ニ類スル稱號ニ關スル事項
- 第六條 普通學務局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 師範教育ニ關スル事項
 - 二 小學校及幼稚園ニ關スル事項
 - 三 高等女學校ニ關スル事項
 - 四 盲啞學校ニ關スル事項
 - 五 以上ノ學校ニ準スヘキ各種學校ニ關スル事項
 - 六 教育博物館ニ關スル事項

七 通俗教育及教育會ニ關スル事項

- 第八條 學齡兒童ノ就學ニ關スル事項
- 第七條 文部省ニ專任視學官五人ヲ置ク奏任トス學事ノ視察ヲ掌リ又各局ニ屬シ共ノ事務ヲ掌ル
- 第八條 文部省ニ專任圖書審查官三人ヲ置ク奏任トス圖書ノ審查ヲ掌ル
- 第九條 文部省ニ專任技師二人ヲ置ク建築ニ關スル事務ヲ掌ル
- 第十條 文部省ニ專任技師五人ヲ置ク技師ノ事務ヲ助ク
- 第十條 文部省ニ學校衛生主事一人ヲ置ク奏任トス大臣次官ヲハ各局長ノ命ヲ受ケ學校衛生ニ關スル事務ヲ掌ル
- 第十一條 文部省屬ハ六十八人ヲ以テ定員トス
- 附則
- 第十二條 本令ハ明治三十一年十一月一日ヨリ施行ス

朕帝國圖書館官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十一年十月二十二日

內閣總理大臣 伯爵 大隈重信
文部大臣 尾崎行雄

勅令第二百八十號

帝國圖書館官制中左ノ通改正ス

第二條 帝國圖書館ニ左ノ職員ヲ置ク

館長

一人

奏任

司書 七人 判任
書記 二人 判任

第四條 削除

附則
本令ハ明治三十一年十一月一日ヨリ施行ス

〔參照〕

勅令第四百十號帝國圖書館官制(明治三十年四月二十七日官報抄録)

第二條 帝國圖書館ニ左ノ職員ヲ置ク

館長 一人 奏任

司書長 一人 奏任

司書 九人 判任

書記 三人 判任

第四條 司書長ハ館長ノ命ヲ承ケ圖書記録及閲覧ニ關スル事務ヲ掌理ス

朕中央氣象臺官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十一年十月二十二日

内閣總理大臣伯爵大隈重信
文部大臣 尾崎行雄

勅令第二百八十一號

中央氣象臺官制中左ノ通改正ス

第六條中「十四人」ヲ「十人」ニ改ム

第七條中「三人」ヲ「二人」ニ改ム

附則

本令ハ明治三十一年十一月一日ヨリ施行ス

〔參照〕

勅令第四百十八號中央氣象臺官制(明治三十一年七月十五日官報抄録)

第六條 技手ハ專任十四人判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ中央氣象臺又ハ附屬測候所ノ事務ニ從事ス

第七條 書記ハ專任三人判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

朕農商務省官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十一年十月二十二日

内閣總理大臣伯爵大隈重信
農商務大臣 大石正己

勅令第二百八十二號

農商務省官制

第一條 農商務大臣ハ農商工水産林野鑛山發明意匠商標及地質ニ關スル事務ヲ管理ス

第二條 大臣官房ニ於テハ通則ニ掲グルモノノ外内外博覽會及褒賞ニ關スル事務ヲ掌ル

第三條 農商務省專任參事官專任書記官ハ各三人ヲ以テ定員トス

第四條 農商務省ニ左ノ局所ヲ置ク

農務局
商工局

山林局

鑛山局

特許局

水産局

地質調査所

第五條 農務局ニ於テハ農事、蠶、茶、畜産、家畜衛生及狩獵ニ關スル事務ヲ掌ル

第六條 商工局ニ於テハ商事、工業及度量衡ニ關スル事務ヲ掌ル

第七條 山林局ニ於テハ森林原野ニ關スル事務ヲ掌ル

第八條 鑛山局ニ於テハ鑛業ニ關スル事務ヲ掌ル

第九條 特許局ニ於テハ發明、意匠及商標ニ關スル事務ヲ掌ル

第十條 特許局ニ圖書館ヲ置キ、審判及審査ニ關スル圖書、見本及雛形ヲ保管セシム

第十一條 水産局ニ於テハ水産ニ關スル事務ヲ掌ル

第十二條 地質調査所ニ於テハ地質、土性、地形及分析ニ關スル事務ヲ掌ル

第十三條 農商務省高等官ヲシテ之ヲ兼ネシム

第十四條 特許局ニ專任審判官二人、專任審査官十人、審査官補十五人ヲ置ク

第十五條 審判官ハ委任トス、審判ヲ掌ル

第十六條 審査官ハ委任トス、審査ヲ掌ル

第十七條 審査官補ハ判任トス、審査ヲ助ク

第十八條 商品陳列館ニ技師一人、書記四人ヲ置ク

第十九條 書記ハ判任トス、上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス

第十四條 農商務省ニ專任技師二十七人、專任技手二十九人ヲ置ク

第十五條 農商務省ハ百十七人ヲ以テ定員トス

附則

第十六條 本令ハ明治三十一年十一月一日ヨリ施行ス

朕林區署官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十一年十月二十二日

内閣總理大臣 伯爵 大隈重信
農商務大臣 大石正己

勅令第二百八十三號

林區署官制中左ノ通改正ス

第四條中「四十八人」ヲ「三十二人」ニ改ム

第六條中「五百五十八人」ヲ「二百五十八人」ニ改ム

第七條中「二百四十八人」ヲ「百五十八人」ニ改ム

第八條中「八百九十二人」ヲ「七百三十八人」ニ改ム

第九條中「八百四十八人」ヲ「四百八十八人」ニ改ム

附則

本令ハ明治三十一年十一月一日ヨリ施行ス

(參照)

勅令第八十六號 林區署官制(明治三十年六月十二日官報抄録)

第四條 林務官ハ兼任トシ各大林區署ヲ通シテ四十人ヲ以テ定員トス大林區署ニ分屬シ事務ニ從事ス
 第六條 警林主事ハ判任トシ各大林區署ヲ通シテ五百五十八人ヲ以テ定員トス上官ノ指揮ヲ承ケ警林事務及森林調査ニ從事ス
 第七條 警部ハ判任トシ各大林區署ヲ通シテ二百四十人ヲ以テ定員トス上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス
 第八條 警林主事補ハ判任トシ各大林區署ヲ通シテ八百九十二人ヲ以テ定員トス上官ノ指揮ヲ承ケ森林ノ保護ニ從事シ警林事務及森林調査ヲ分擔ス
 第九條 森林監守ハ判任トシ各大林區署ヲ通シテ八百四十人ヲ以テ定員トス上官ノ指揮ヲ承ケ森林ノ保護ニ從事ス

朕製鐵所官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十一年十月二十二日

内閣總理大臣伯爵大隈重信
農商務大臣 大石正己

勅令第二百八十四號

製鐵所官制中左ノ通改正ス

第二條中「技監專任一人」ヲ削リ事務官ノ下「專任二人」ヲ「專任一人」ニ技師ノ下「專任八人」ヲ「專任九人」但シ内一人ハ勅任トスニ書記ノ下「專任二十八人」ヲ「專任二十人」ニ改ム

第四條 削除

附則

本令ハ明治三十一年十一月一日ヨリ施行ス

〔參照〕

勅令第七十二號製鐵所官制(明治二十九年三月三十日官報)抄錄
 第三條 製鐵所ニ左ノ職員ヲ置ク

長官	專任一人
技監	專任二人
事務官	專任八人
技師	專任八人
書記	專任三十人
技手	專任四十人
第四條	技監ハ長官ノ命ヲ承ケ技術官ヲ指揮シ製鐵事業ヲ掌ル

朕農事試驗場官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十一年十月二十二日

内閣總理大臣伯爵大隈重信
農商務大臣 大石正己

勅令第二百八十五號

農事試驗場官制中左ノ通改正ス

第四條中「三十二人」ヲ「三十人」ニ改ム
 第五條中「二十人」ヲ「十五人」ニ改ム
 第六條中「十三人」ヲ「九人」ニ改ム

附則

本令ハ明治三十一年十一月一日ヨリ施行ス

〔參照〕

勅令第十八號農事試驗場官制(明治二十六年四月八日官報)抄錄
 第四條 技師ハ上官ノ指揮ヲ承ケ場務ヲ掌ル專任技師ハ三十二人ヲ以テ定員トス

第五條 技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ職務ニ従事ス專任技手ハ二十人ヲ以テ定員トス
第六條 書記ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ職務ニ従事ス專任書記ハ十三人ヲ以テ定員トス

朕生絲検査所官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十一年十月二十二日

内閣總理大臣伯爵大隈重信
農商務大臣 大石正己

勅令第二百八十六號

生絲検査所官制第六條中技師ノ下「七人」ヲ「四人」ニ技手ノ下「十一人」ヲ「七人」ニ書記ノ下「七人」ヲ「三人」ニ改ム

附則

本令ハ明治三十一年十一月一日ヨリ施行ス

〔参照〕

勅令第九十三號生絲検査所官制(明治二十八年七月四日官報抄録)
第六條 各生絲検査所ヲ通シテ專任技師七人專任技手十一人專任書記七人ヲ以テ定員トス

朕蠶業講習所官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十一年十月二十二日

内閣總理大臣伯爵大隈重信
農商務大臣 大石正己

勅令第二百八十七號

蠶業講習所官制第三條中技手ノ下「專任六人」ヲ「專任五人」ニ書記ノ下「專任四人」ヲ「專任三人」ニ改

附則

本令ハ明治三十一年十一月一日ヨリ施行ス

〔参照〕

勅令第二十八號蠶業講習所官制(明治二十九年三月十九日官報抄録)
第三條 蠶業講習所ニ左ノ職員ヲ置ク

所長 專任四人
技師 專任六人
技手 專任六人
書記 專任四人

朕水産調査所官制廢止ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十一年十月二十二日

内閣總理大臣伯爵大隈重信
農商務大臣 大石正己

勅令第二百八十八號

水産調査所官制ハ明治三十一年十月三十一日限り廢止ス

朕水産講習所官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十一年十月二十二日

内閣總理大臣伯爵大隈重信
農商務大臣 大石正己

勅令第二百八十九號

水産講習所官制中左ノ通改正ス

第一條中水産調査所ニ附設シテ農商務大臣ノ管理ニ屬シニ改ム

第三條中水産調査所長ヲ水産局長ニ改ム

第十一條 削除

附則

本令ハ明治三十一年十一月一日ヨリ施行ス

〔參照〕

勅令第四十七號水産講習所官制(明治三十年三月二十五日官報抄録)

第一條 水産講習所ハ水産調査所ニ附設シ水産ノ傳習及試験ニ關スル事務ヲ掌ル

第三條 所長ハ水産調査所長ヲ以テ之ニ充テ農商務大臣ノ指揮監督ヲ承ケ所中全般ノ事務ヲ掌理ス

第十一條 農商務大臣ハ水産講習所職員ヲシテ水産講習所ノ事務ヲ分掌セシムルコトヲ得

朕水産調査會規則廢止ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十一年十月二十二日

内閣總理大臣伯爵大隈重信
農商務大臣 大石正己

勅令第二百九十號

水産調査會規則ハ明治三十一年十月三十一日限り廢止ス

除種馬牧場及種馬所官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十一年十月二十二日

内閣總理大臣伯爵大隈重信
農商務大臣 大石正己

勅令第二百九十一號

種馬牧場及種馬所官制第十三條中技師ノ下「十九人」ヲ「六人」ニ技手ノ下「七十人」ヲ「二十人」ニ書記

ノ下「四十二人」ヲ「八人」ニ改ム

附則

本令ハ明治三十一年十一月一日ヨリ施行ス

〔參照〕

勅令第三百三十九號種馬牧場及種馬所官制(明治二十九年四月十六日官報抄録)

第十三條 各種馬牧場及各種馬所ヲ通シテ專任技師十九人專任技手七十人專任書記四十二人ヲ以テ定ムトス

朕牧馬監督官官制廢止ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十一年十月二十二日

内閣總理大臣伯爵大隈重信
農商務大臣 大石正己

勅令第二百九十二號

牧馬監督官官制ハ明治三十一年十月三十一日限り廢止ス

○ 朕漁業監督官官制廢止ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十一年十月二十二日

勅令第二百九十三號

漁業監督官官制ハ明治三十一年十月三十一日限り廢止ス

○ 朕廣島鐵山官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十一年十月二十二日

勅令第二百九十四號

廣島鐵山官制中左ノ通改正ス

第一條及第三條中「大藏大臣」ヲ「農商務大臣」ニ改ム

第七條中「十二人」ヲ「十人」ニ改ム

附則

本令ハ明治三十一年十一月一日ヨリ施行ス

内閣總理大臣伯爵大隈重信
農商務大臣 大石正己

〔參照〕

勅令第四百四十號廣島鐵山官制(明治二十六年十月三十一日官報抄録)
第一條 廣島鐵山ハ大藏大臣ノ管理ニ屬シ廣島鐵山ノ事務ヲ掌ル
第三條 管理長ハ大藏大臣ノ指揮監督ヲ承ケ廣島鐵山一切ノ事務ヲ掌理ス
第七條 技手ハ十二人ヲ以テ定員トス 上官ノ指揮ヲ承ケ工務ニ従事ス

朕逓信省官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十一年十月二十二日

勅令第二百九十五號

逓信省官制

第一條 逓信大臣ハ官設鐵道、郵便、小包郵便、郵便爲替、郵便貯金、電信、電話及航路標識ヲ管理シ北

海道官設鐵道、私設鐵道、電氣造船、水陸運輸ニ關スル事業及航路、船舶海員ヲ監督ス

第二條 逓信省專任參事官ハ三人專任書記官ハ九人ヲ以テ定員トス

第三條 逓信省ニ左ノ局所ヲ置ク

鐵道局

通信局

管船局

電信燈臺用品製造所

第四條 鐵道局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

内閣總理大臣伯爵大隈重信
逓信大臣 林有造

- 一 鐵道ノ監督ニ關スル事項
- 二 私設鐵道ノ免許ニ關スル事項
- 三 鐵道補助金ニ關スル事項
- 第五條 通信局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 郵便、小包郵便、郵便爲替、郵便貯金、電信及電話ニ關スル事項
 - 二 陸運及電氣事業ノ監督ニ關スル事項
 - 三 遞信事業ニ關スル經費及諸收入ノ豫算決算並會計ニ關スル事項
- 第六條 管船局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 航路標識ニ關スル事項
 - 二 航路、船舶、海員、水運及保護海事會社ノ監督ニ關スル事項
- 第七條 電信燈臺用品製造所ニ於テハ電信燈臺用品ノ作業ニ關スル事務ヲ掌ル
所長ハ遞信省高等官ヲシテ之ヲ兼ネシム
- 第八條 遞信省ニ專任技師二十三人ヲ置ク但シ内三人以内ヲ勅任トス
- 第九條 遞信省屬ハ二百五十人ヲ以テ定員トス
- 第十條 遞信省ニ專任技師五十七人ヲ置ク
- 附則
- 第十一條 本令ハ明治三十一年十一月一日ヨリ施行ス

朕鐵道作業局官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
御名 御璽

内閣總理大臣 伯耆大隈重信
遞信大臣 林有造

明治三十一年十月二十二日

- 勅令第二百九十六號
- 鐵道作業局官制中左ノ通改正ス
- 第二條中「鐵道技師」及「鐵道事務官補」ヲ削除ス
- 第四條 削除
- 第六條 鐵道事務官ハ專任十八人委任トス各部ニ分屬シ部務ヲ掌ル
- 第七條 鐵道技師ハ專任四十九人ヲ以テ定員トシ内三人以内ヲ勅任トス
- 第八條中「八百九十七人」ヲ「八百五十三人」ニ改ム
- 第九條中「三百六十八人」ヲ「三百五十八人」ニ改ム
- 第十條中「六百八十八人」ヲ「五百七十八人」ニ改ム
- 第十二條 建設部長、工務部長、汽務部長、運輸部長ハ鐵道技師ヲシテ之ヲ兼ネシム
- 附則
- 本令ハ明治三十一年十一月一日ヨリ施行ス

〔參照〕

- 勅令第二百六十八號鐵道作業局官制(明治三十年八月十八日官報抄録)
- 第二條 鐵道作業局ニ左ノ職員ヲ置ク
 - 局長
 - 鐵道技師
 - 部長
 - 鐵道事務官
 - 鐵道事務官補
 - 鐵道技師
 - 鐵道書記

- 第四條 鐵道技師ハ專任四人ヲ以テ定員トシ技術官ヲ指稱監督シ其ノ事業ヲ掌理ス
- 第六條 鐵道事務官ハ專任二十一人鐵道本務官補ハ專任九人兼任トシ各部ニ分屬シ部務ヲ掌ル
- 第七條 鐵道技師ハ專任五十七人ヲ以テ定員トス
- 第八條 鐵道警備ハ八百九十七人判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス
- 第九條 鐵道技師ハ三百六十八人ヲ以テ定員トス
- 第十條 鐵道警備補ハ六百八十八人判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ警備ノ事務ヲ助ケ
- 第十二條 鐵道部長工務部長汽車部長運輸部長ハ鐵道技師ヲシテ之ヲ兼テシム

朕港務局官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十一年十月二十二日

内閣總理大臣 伯爵 大隈重信
逓信大臣 林 有造

勅令第二百九十七號

港務局官制中左ノ通改正ス

第二條 各港務局ヲ通シテ左ノ職員ヲ置ク

- 局長 三人
- 港務官 專任三人
- 醫官 專任三人
- 書記 專任十二人
- 技手 專任三人
- 港吏 專任六人

港吏補 專任三十人

第四條 港務官ハ兼任トシ各港務局ニ分屬シ局長ノ事務ヲ助ケ

局長事故アルトキハ之ヲ代理ス

第五條 削除

附則

本令ハ明治三十一年十一月一日ヨリ施行ス

〔參照〕

勅令第五百五十二號港務局官制(明治三十一年七月十五日官報)抄録

第二條 各港務局ヲ通シテ左ノ職員ヲ置ク

- 局長 三人
 - 港務官 專任三人
 - 港務官補 專任六人
 - 醫官 專任三人
 - 書記 專任十六人
 - 技手 專任五人
 - 港吏 專任八人
 - 港吏補 專任五十六人
- 第四條 港務官ハ兼任トシ局長ノ指揮ヲ承ケ港務ヲ掌理シ局長事故アルトキハ之ヲ代理ス
- 第五條 港務官補ハ兼任トシ港務官ノ事務ヲ助ケ

朕就陸標識管理所官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十一年十月二十二日

内閣總理大臣伯爵大隈重信
逕信大臣 林 有造

勅令第二百九十八號

航路標識管理所官制中左ノ通改正ス

第五條中二十八人ヲ二十四人ニ改ム

第六條中二十八人ヲ二十四人ニ改ム

附則

本令ハ明治三十一年十一月一日ヨリ施行ス

〔參照〕

勅令第五百五十四號航路標識管理所官制(明治二十六年十月三十一日官報)抄録

第五條 書記ハ判任トシ二十八人ヲ以テ定員トス所長ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス

第六條 技手ハ二十八人ヲ以テ定員トス所長ノ指揮ヲ承ケ航路標識ノ工事ニ従事ス

○ 朕船舶司檢所官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十一年十月二十二日

内閣總理大臣伯爵大隈重信
逕信大臣 林 有造

勅令第二百九十九號

船舶司檢所官制中左ノ通改正ス

第四條中二十八人ヲ二十人ニ改ム

第五條中二十四人ヲ二十人ニ改ム

第七條中三十一人ヲ二十五人ニ改ム

附則

本令ハ明治三十一年十一月一日ヨリ施行ス

〔參照〕

勅令第七十九號船舶司檢所官制(明治二十九年三月三十日官報)抄録

第四條 司檢官ハ委任トシ專任二十二人ヲ以テ定員トス各船舶司檢所ニ分屬シ所長ノ指揮ヲ承ケ事務ヲ分掌ス

第五條 司檢官補ハ委任トシ專任二十四人ヲ以テ定員トス司檢官ノ事務ヲ助ケ

第六條 司檢官及司檢官補ハ逓信省管船局ニ派勤シ若クハ臨時命ヲ承ケ其ノ事務ヲ助ケ

第七條 書記ハ判任トシ專任三十一人ヲ以テ定員トス上官ノ命ヲ承ケ庶務會計ニ従事ス

○ 朕郵便及電信局、在外郵便電信局郵便局、郵便爲替貯金管理所及電話交換局職員定員中改正ノ件ヲ

裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十一年十月二十二日

内閣總理大臣伯爵大隈重信
逕信大臣 林 有造

勅令第三百號

郵便及電信局、在外郵便電信局郵便局、郵便爲替貯金管理所及電話交換局職員定員中左ノ通改正ス

第一條中通信事務官ノ下專任三十一人ヲ專任二十四人ニ通信書記ノ下專任二千八百七十六人

ヲ專任二千七百三十三人ニ通信技手ノ下專任三百二十二人ヲ專任三百六十八人ニ通信書記補ノ下

專任四千五百九十三人ヲ專任四千三百六十四人ニ改ム

附則

〔参照〕

勅令第七十五號(明治三十年四月一日官報)
會計検査院ニ屬スル人員ノ臨時増設ス

朕發視廳官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十一年十月二十二日

内閣總理大臣伯爵大隈重信
内務大臣伯爵板垣退助

勅令第三百四號

警視廳官制中左ノ通改正ス

第一條中「消防司令長」ヲ削除ス

第三條 警視ハ二十五人警視長ハ一人典獄ハ三人委任トス

第四條第二項中「四百十四人」ヲ「三百六十八人」ニ改ム

第十五條 總監官房ニ主事一人ヲ置キ警視ヲ以テ之ニ補ス

主事ハ警視總監ノ命ヲ承ケ官房ノ事務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ監督ス

官房第二課長ハ主事ヲ以テ之ニ充テ第一課長及第三課長ハ警部警視屬ヲ以テ之ニ充ツ

官房各課員ハ警部警視屬ヲ以テ之ニ充ツ

課長ハ上官ノ命ヲ承ケ其ノ課ノ事務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ監督ス課員ハ上官ノ指揮ヲ承ケ其ノ課ノ庶務ニ従事ス

第二十五條中消防署長ハ消防司令長ヲ「消防署長ハ第二部長タル警視ヲ以テ之ニ兼補シ」ニ改ム

附則

本令ハ明治三十一年十一月一日ヨリ施行ス

〔参照〕

勅令第五百五十九號警視廳官制(明治二十六年十月三十一日官報)抄録

第一條 警視廳ニ左ノ職員ヲ置ク

警視總監

警視

技師

警視長

消防司令長

典獄

警部

警視屬

技手

消防士

警務官

監獄書記

看守長

消防機關士

消防機關士

第三條 警視ハ二十七人警視長消防司令長ハ各一人典獄ハ三人委任トス

第四條第二項

警部、警視屬、消防士、警務官、監獄書記、看守長及消防機關士ノ定員ハ通シテ四百十四人トシ其ノ各官ノ定員ハ内務大臣ノ認可ヲ經テ警視總監之ヲ定ム

第十五條 總監官房ニ主事一人ヲ置キ警視ヲ以テ之ニ補ス

第二課長ハ主事ヲ以テ之ニ充テ第一課長第三課長ハ巡視ヲシテ之ヲ兼テシメ又ハ警部警視屬ヲ以テ之ニ充ツ

主事ハ警視總監ノ命ヲ承ケ第一課第三課ノ事務ヲ佐ケルコトアルヘシ

官房各課員ハ警部警視屬ヲ以テ之ニ充ツ

警察官ハ警視總監ノ命ヲ承ケ其ノ限ノ事務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ監督ス
警察官ハ上司ノ指揮ヲ承ケ其ノ限ノ職務ニ従事ス
第二十五條 消防局長ハ消防司令長官ハ消防士消防機關士ヲ以テ之ニ充ツ
消防分署長ハ消防士分署長ハ消防士消防機關士ヲ以テ之ニ充ツ

朕北海道廳官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十一年十月二十二日

内閣總理大臣伯爵大隈重信
内務大臣伯爵板垣退助

勅令第三百五號

北海道廳官制中左ノ通改正ス

第一條 北海道廳ニ左ノ職員ヲ置ク

- 長官
- 事務官
- 警部長
- 支廳長
- 參事官
- 警視
- 技師
- 典獄

屬

技手

警部

翻譯生

監獄書記

看守長

監獄醫

第二條 長官ハ一人勅任トス

第三條 事務官ハ專任二人奏任トシ内務部長及殖民部長ニ充ツ但シ内務部長ニ充ツル事務官ハ勅

任トナスコトヲ得

第四條 警部長ハ一人奏任トシ警視總監ニ充ツ

第六條 參事官二人警視及典獄各一人奏任トス

第七條 中二十四人ヲ十人ニ改ム

第八條 中七百七十一人ヲ四百九十人ニ改ム

第九條 中百三十六人ヲ八十八人ニ改ム

第十九條 道廳ノ事務ヲ分掌セシムル爲メ左ノ三部及一署ヲ置ク

内務部

殖民部

警察部

監獄署

第二十條 内務部ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 支廳戸長役場ノ廢置分合並區會郡町村總代人ニ關スル事項
- 二 區町村ノ經濟共ノ他區町村及公共組合ニ關スル事項
- 三 賑恤救濟ニ關スル事項
- 四 兵事、社寺及教育ニ關スル事項
- 五 外國人ニ關スル事項
- 六 豫算、決算、會計、官有財産及物品ニ關スル事項
- 七 所轄官廳ノ會計監督ニ關スル事項
- 八 出納官吏ノ身元保證ニ關スル事項
- 九 土木、建築及修繕ニ關スル事項
- 十 水面埋立ニ關スル事項
- 十一 統計報告ニ關スル事項
- 十二 廳中他部署ノ主掌ニ屬セサル事項
- 第二十一條中左ノ一號ヲ加フ
- 九 山林ニ關スル事項
- 第二十二條、第二十四條及第二十五條 創除

附 則

本令ハ明治三十一年十一月一日ヨリ施行ス

〔參照〕

- 勅令第三百九十二號北海道廳官制(明治三十年十一月二日官報)抄録
- 第一條 北海道廳ニ左ノ職員ヲ置ク

警部長
支廳長
參事官
警視
技師
典獄
監獄
醫師
技師
監獄書記
看守長
監獄醫
第二條 長官ハ一人勅任トス
第三條 事務官ハ專任五人内一人ハ勅任其ノ他ハ委任トシ各部ノ長ニ充ツ但シ警察部長ハ警部長ヲ以テ之ニ充ツ
第四條 警部長ハ一人委任トス
第六條 參事官三人警視二人典獄一人委任トス
第七條 技師ハ二十四人ヲ以テ定員トス
第八條 醫師、監獄書記、看守長、監獄醫ハ判任トス、醫師、監獄書記、看守長、監獄醫ヲ選シテ七百七十一人ヲ以テ定員トス
第九條 技師ハ百三十六人、翻譯生ハ二人ヲ以テ定員トス
第十九條 遺囑ノ事務ヲ分掌セシムル爲メ左ノ六部及一署ヲ置ク
殖民部
財務部
警務部
鐵道部
土木部
監獄署

- 第二十條 内務部ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一 支那戸長役場ノ廢置分合並區會郡町村總代人ニ關スル事項
 - 二 區町村ノ經濟其ノ他區町村及公共組合ニ關スル事項
 - 三 賑恤救濟ニ關スル事項
 - 四 兵隊戸籍社寺教育ニ關スル事項
 - 五 外國人ニ關スル事項
 - 六 統計報告ニ關スル事項
 - 七 關中他部等ノ主宰ニ屬セサル事項
- 第二十一條 殖民部ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一 殖民地ノ選定經營其ノ他殖民ニ關スル事項
 - 二 土地ノ處分及開墾ニ關スル事項
 - 三 地籍ニ關スル事項
 - 四 官有地管理ニ關スル事項
 - 五 土地收用ニ關スル事項
 - 六 農商工務ニ關スル事項
 - 七 水陸運輸ニ關スル事項
 - 八 水産及漁業ニ關スル事項
- 第二十二條 財務部ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一 豫算決算及會計ニ關スル事項
 - 二 官有財産及物品ニ關スル事項
 - 三 所轄官廳ノ會計監督ニ關スル事項
 - 四 出納官吏ノ身元保證ニ關スル事項
- 第二十四條 鐵道部ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一 鐵道ノ敷設保存及運輸ニ關スル事項
 - 二 鐵道ノ會計ニ關スル事項
 - 三 私設鐵道ニ關スル事項
- 第二十五條 土木部ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一 港灣ノ修築ニ關スル事項
 - 二 河港堤防道路橋樑排水溝渠ニ關スル事項

- 三 官街ノ建築修繕ニ關スル事項
- 四 水面埋立ニ關スル事項
- 五 山林ニ關スル事項

朕北海道鐵道部官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

内閣總理大臣伯爵大隈重信
 内務大臣伯爵板垣退助
 遞信大臣 林 有造

明治三十一年十月二十二日

勅令第三百六號

北海道鐵道部官制

- 第一條 北海道廳ニ北海道鐵道部ヲ置キ北海道ニ於ケル官有鐵道ノ建設、保存及運輸ノ業務ヲ掌理セシム
- 第二條 北海道鐵道部ニ左ノ職員ヲ置ク
- 部長 一人 奏任
- 鐵道技師 專任八人
- 鐵道書記 專任六十八人 判任
- 鐵道技手 專任二十八人
- 第三條 部長ハ北海道廳高等官ヲシテ之ヲ兼ネシム
- 部長ハ北海道廳長官ノ命ヲ承ケ一切ノ部務ヲ掌理ス

第四條 鐵道技師ハ部長ノ命ヲ承ケ部務ヲ分掌ス

第五條 鐵道書記及鐵道技師ハ上官ノ指揮ヲ承ケ各其ノ事務ニ服ス

第六條 本令ハ明治三十一年十一月一日ヨリ施行ス

朕貴族院事務局官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十一年十月二十二日

勅令第三百七號

内閣總理大臣伯爵大隈重信

貴族院事務局官制第一條中書記官ノ下「專任六人」ヲ「專任五人」ニ屬ノ下「十五人」ヲ「十二人」ニ改ム

本令ハ明治三十一年十一月一日ヨリ施行ス

〔參照〕

勅令第三百二十一號 貴族院事務局官制(明治二十三年七月十一日官報)抄録

第一條 貴族院事務局ノ職員ハ左ノ如シ

- 書記官 一人
- 書記官 專任六人
- 書記官 十五人
- 書記技師 二十五人
- 守番長 一人
- 守番長 三人

朕衆議院事務局官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十一年十月二十二日

内閣總理大臣伯爵大隈重信

勅令第三百八號

衆議院事務局官制第一條中書記官ノ下「專任六人」ヲ「專任五人」ニ屬ノ下「十五人」ヲ「十二人」ニ改ム

附則

本令ハ明治三十一年十一月一日ヨリ施行ス

〔參照〕

勅令第三百二十二號 衆議院事務局官制(明治二十三年七月十一日官報)抄録

第一條 衆議院事務局ノ職員ハ左ノ如シ

- 書記官 一人
- 書記官 專任六人
- 書記官 十五人
- 書記技師 二十五人
- 守番長 一人
- 守番長 三人

朕高等官官等俸給令中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十一年十月二十二日

內閣總理大臣伯爵大隈重信

勅令第三百九號
高等文官等俸給令中左ノ通改正ス
第九條 高等文官ノ俸給ハ別ニ定ムルモノ外左ノ如ク

- 內閣ノ部
 - 內閣總理大臣 年俸九千六百圓
 - 內閣所屬職員
 - 書記官長 年俸四千圓
 - 局長 年俸三千圓
 - 書記官 高等文官年俸第一號表ニ依ル
 - 內閣總理大臣秘書官 高等文官年俸第二號表ニ依ル
 - 統計局審査官 總年俸三千五百圓
 - 印刷局事務官 高等文官年俸第二號表ニ依ル
 - 恩給局審査官 年俸四千圓
 - 賞勳局 年俸 勅任 三千圓
 - 裁 年俸 勅任 高等文官年俸第一號表ニ依ル
 - 書記官 年俸 勅任 三千圓
 - 法制局 年俸 勅任 高等文官年俸第一號表ニ依ル
 - 長官 年俸 勅任 三千圓
 - 參事官 年俸 勅任 高等文官年俸第一號表ニ依ル
 - 各省ノ部

- 大臣 年俸六千圓
- 次官 年俸四千圓
- 鐵道所長官 年俸四千圓
- 鐵道作業局長官 年俸四千圓
- 參事官 年俸三千五百圓
- 局長
 - 造幣局長 年俸三千圓
 - 專賣局長 一級俸 二千五百圓
 - 商船學校長 二級俸 二千二百圓
 - 航路標識管理所長 三級俸 二千圓
 - 橫濱稅關長 一級俸 三千圓
 - 神戶稅關長 二級俸 二千五百圓
 - 長崎稅關長 一級俸 二千五百圓
 - 函館稅關長 二級俸 二千二百圓
 - 橫濱港務局長 一級俸 二千五百圓
 - 神戶港務局長 二級俸 二千二百圓
 - 長崎港務局長 三級俸 二千圓
 - 參事官 四級俸 千八百圓
 - 書記官 三級俸 千六百圓
 - 鐵道作業局長 二級俸 千四百圓
- 高等文官年俸第一號表ニ依ル

外務省翻譯官
 臨時檢疫事務官
 監獄事務官
 造神宮主事
 大藏省鑑定官
 專賣局鑑定官
臨時葉國草取役
所建築部事務官
 稅務管理局長
 稅關事務官
 稅關鑑定官
臨時沖繩縣土地整
理事務局長事務官
 視學官
 圖書審查官
 學校衛生主事
 帝國圖書館長
 特許局審判官
 特許局審查官
 林務官
 鑛山監督官
 製鐵所事務官
 水產講習所監事

高等文官年俸第二號表ニ依ル

水產講習所教授
 鐵道事務官
 通信事務官
 港務官
 港務局醫官
 船舶司檢所司檢官
 商船學校教授
 高等海員審判所審判官
 高等海員審判所理事官
 地方海員審判所審判官
 地方海員審判所理事官
 葉煙草專賣所長
 司稅官
 通信事務官補
 在外各地郵便電信局長
 在外各地郵便局長
 東京郵便電信學校教授
 船舶司檢所司檢官補
 商船學校學生監
 商船學校教授
 貴族院及衆議院ノ部

高等文官年俸第二號表ニ依ル

書記官長

年俸三千圓

書記官

高等文官年俸第二號表ニ依ル

商船學校長、航路標識管理所長、橫濱稅關長、神戸稅關長、長崎稅關長、函館稅關長、橫濱港務局長、神戸港務局長、長崎港務局長ニシテ一級俸ヲ受ケ在職五年以上ニ至リ功績アル者ニ限リ五百圓以內ノ年功加俸ヲ給スルコトヲ得又商船學校長ニシテ官等三等ニ在リ時ニ功績アル者ニ限リ高等官二等ニ陞敘スルコトヲ得

高等文官年俸第一號表第二號表ニ依ル職員ハ一級俸ヲ受ケ在職五年以上ニ至リ功績アル者ニ限リ五百圓以內ノ年功加俸ヲ給シ其ノ第二號表ニ依ル職員ニ在テハ高等官三等ニ陞敘スルコトヲ得

高等文官年俸第三號表ニ依ル職員ハ一級俸ヲ受ケ在職五年以上ニ至リ功績アル者ニ限リ三百圓以內ノ年功加俸ヲ給シ高等官五等ニ陞敘スルコトヲ得

附則

本令ハ明治三十一年十一月一日ヨリ施行ス
現任ノ高等官ニシテ本令施行ノ際別ニ辭令書ヲ交付セザル者ハ現ニ受ケル所ノ俸給ニ照シ高等文官官等相當俸給表ニ定ムル所ノ相當官等ニ敘セラレタルモノトス
明治二十九年勅令第三百三十八號第四條ニ依リ司稅官ニ任セラレタル者ニハ其ノ官等相當以下ノ俸給ヲ給スルコトヲ得
前項ノ司稅官ニシテ本令施行ノ際稅務管理局長ニ任セラレタル者亦同シ
明治三十一年勅令第四百四十五號明治二十九年勅令第七十三號明治三十一年勅令第五百五十七號明治三十年勅令第七十九號同年勅令第一百一十一號明治二十九年勅令第七號明治三十年勅令第二百七十九號同年勅令第四十八號明治二十九年勅令第三百三十八號明治二十六年勅令第三百七十四號明治二十九年勅令第三百二十八號明治三十年勅令第二百二十四號明治二十四年勅令第一百一號ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

文武高等官官等表

勅

任

奏

任

遞信省遞信大臣	農商務省農商務大臣	文部省文部大臣	司法省司法大臣	海軍省海軍大臣	陸軍省陸軍大臣	大藏省大藏大臣	內務省內務大臣	外務省外務大臣	樞密院樞密院議長	內閣內閣總理大臣	官等
遞信次官	農商務次官	文部次官	司法次官	海軍次官	陸軍次官	大藏次官	內務次官	外務次官	樞密院書記官長	內閣書記官長	一等
遞信省參事	農商務省參事	文部省參事	司法省參事	海軍省參事	陸軍省參事	大藏省參事	內務省參事	外務省參事	樞密院書記官	內閣書記官	二等
遞信省主事	農商務省主事	文部省主事	司法省主事	海軍省主事	陸軍省主事	大藏省主事	內務省主事	外務省主事	樞密院書記官	內閣書記官	三等
遞信省書記官	農商務省書記官	文部省書記官	司法省書記官	海軍省書記官	陸軍省書記官	大藏省書記官	內務省書記官	外務省書記官	樞密院書記官	內閣書記官	四等
遞信省庶務官	農商務省庶務官	文部省庶務官	司法省庶務官	海軍省庶務官	陸軍省庶務官	大藏省庶務官	內務省庶務官	外務省庶務官	樞密院書記官	內閣書記官	五等
遞信省技官	農商務省技官	文部省技官	司法省技官	海軍省技官	陸軍省技官	大藏省技官	內務省技官	外務省技官	樞密院書記官	內閣書記官	六等
遞信省補官	農商務省補官	文部省補官	司法省補官	海軍省補官	陸軍省補官	大藏省補官	內務省補官	外務省補官	樞密院書記官	內閣書記官	七等
遞信省候選官	農商務省候選官	文部省候選官	司法省候選官	海軍省候選官	陸軍省候選官	大藏省候選官	內務省候選官	外務省候選官	樞密院書記官	內閣書記官	八等
遞信省預備官	農商務省預備官	文部省預備官	司法省預備官	海軍省預備官	陸軍省預備官	大藏省預備官	內務省預備官	外務省預備官	樞密院書記官	內閣書記官	九等

明三十二年十月勅令第三百九號

官名	高等文官等相當俸給表	
	一 等	二 等
內閣總理大臣	一級俸	二級俸
內閣大書記官	二級俸	三級俸
內閣書記官	三級俸	四級俸
內閣事務官	四級俸	五級俸
內閣庶務官	五級俸	六級俸
內閣書記官	六級俸	七級俸
內閣書記官	七級俸	八級俸
內閣書記官	八級俸	九級俸
內閣書記官	九級俸	十級俸
內閣書記官	十級俸	十一級俸
內閣書記官	十一級俸	十二級俸
內閣書記官	十二級俸	十三級俸
內閣書記官	十三級俸	十四級俸
內閣書記官	十四級俸	十五級俸
內閣書記官	十五級俸	十六級俸
內閣書記官	十六級俸	十七級俸
內閣書記官	十七級俸	十八級俸
內閣書記官	十八級俸	十九級俸
內閣書記官	十九級俸	二十級俸
內閣書記官	二十級俸	二十一級俸
內閣書記官	二十一級俸	二十二級俸
內閣書記官	二十二級俸	二十三級俸
內閣書記官	二十三級俸	二十四級俸
內閣書記官	二十四級俸	二十五級俸
內閣書記官	二十五級俸	二十六級俸
內閣書記官	二十六級俸	二十七級俸
內閣書記官	二十七級俸	二十八級俸
內閣書記官	二十八級俸	二十九級俸
內閣書記官	二十九級俸	三十級俸
內閣書記官	三十級俸	三十一級俸
內閣書記官	三十一級俸	三十二級俸
內閣書記官	三十二級俸	三十三級俸
內閣書記官	三十三級俸	三十四級俸
內閣書記官	三十四級俸	三十五級俸
內閣書記官	三十五級俸	三十六級俸
內閣書記官	三十六級俸	三十七級俸
內閣書記官	三十七級俸	三十八級俸
內閣書記官	三十八級俸	三十九級俸
內閣書記官	三十九級俸	四十級俸
內閣書記官	四十級俸	四十一級俸
內閣書記官	四十一級俸	四十二級俸
內閣書記官	四十二級俸	四十三級俸
內閣書記官	四十三級俸	四十四級俸
內閣書記官	四十四級俸	四十五級俸
內閣書記官	四十五級俸	四十六級俸
內閣書記官	四十六級俸	四十七級俸
內閣書記官	四十七級俸	四十八級俸
內閣書記官	四十八級俸	四十九級俸
內閣書記官	四十九級俸	五十級俸
內閣書記官	五十級俸	五十一級俸
內閣書記官	五十一級俸	五十二級俸
內閣書記官	五十二級俸	五十三級俸
內閣書記官	五十三級俸	五十四級俸
內閣書記官	五十四級俸	五十五級俸
內閣書記官	五十五級俸	五十六級俸
內閣書記官	五十六級俸	五十七級俸
內閣書記官	五十七級俸	五十八級俸
內閣書記官	五十八級俸	五十九級俸
內閣書記官	五十九級俸	六十級俸
內閣書記官	六十級俸	六十一級俸
內閣書記官	六十一級俸	六十二級俸
內閣書記官	六十二級俸	六十三級俸
內閣書記官	六十三級俸	六十四級俸
內閣書記官	六十四級俸	六十五級俸
內閣書記官	六十五級俸	六十六級俸
內閣書記官	六十六級俸	六十七級俸
內閣書記官	六十七級俸	六十八級俸
內閣書記官	六十八級俸	六十九級俸
內閣書記官	六十九級俸	七十級俸
內閣書記官	七十級俸	七十一級俸
內閣書記官	七十一級俸	七十二級俸
內閣書記官	七十二級俸	七十三級俸
內閣書記官	七十三級俸	七十四級俸
內閣書記官	七十四級俸	七十五級俸
內閣書記官	七十五級俸	七十六級俸
內閣書記官	七十六級俸	七十七級俸
內閣書記官	七十七級俸	七十八級俸
內閣書記官	七十八級俸	七十九級俸
內閣書記官	七十九級俸	八十級俸
內閣書記官	八十級俸	八十一級俸
內閣書記官	八十一級俸	八十二級俸
內閣書記官	八十二級俸	八十三級俸
內閣書記官	八十三級俸	八十四級俸
內閣書記官	八十四級俸	八十五級俸
內閣書記官	八十五級俸	八十六級俸
內閣書記官	八十六級俸	八十七級俸
內閣書記官	八十七級俸	八十八級俸
內閣書記官	八十八級俸	八十九級俸
內閣書記官	八十九級俸	九十級俸
內閣書記官	九十級俸	九十一級俸
內閣書記官	九十一級俸	九十二級俸
內閣書記官	九十二級俸	九十三級俸
內閣書記官	九十三級俸	九十四級俸
內閣書記官	九十四級俸	九十五級俸
內閣書記官	九十五級俸	九十六級俸
內閣書記官	九十六級俸	九十七級俸
內閣書記官	九十七級俸	九十八級俸
內閣書記官	九十八級俸	九十九級俸
內閣書記官	九十九級俸	一百級俸

四二九

